ISSN 2186-0645

富山市埋蔵文化財調査報告 95

富山城跡発掘調査報告書

－富山公共下水道松川第二排水区下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１８

富山市上下水道局
富山市教育委員会

ISSN 2186-0645

富山市埋蔵文化財調査報告 95

富山城跡発掘調査報告書

－富山公共下水道松川第二排水区下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１８

富山市上下水道局
富山市教育委員会

例言

1　本書は、富山公共下水道松川第二排水区の下水道工事に伴う平成 27 ～ 29 年度の富山城跡の発掘調査報告書である。

2　調査は、富山市上下水道局下水道課が行う公共下水道工事に伴い、下水道課から依頼を受け、教育委員会埋蔵文化財センターが実施した。一部の現地調査・出土品基礎整理は、工事受注者から北陸航測株式会社に委託し、埋蔵文化財センターが監理を行った。

　出土品整理業務は、富山市上下水道局下水道課が国土交通省の補助金を受け、北陸航測株式会社に委託して実施した。

3 本書で報告する現地調査期間、出土品基礎整理期間、出土品整理・報告書作成期間は次の通りである。

（1）現地調査期間

平成 28 年 1 月 7 日～平成 28 年 4 月 15 日（富山市総曲輪四丁目地内）

平成 28 年 11 月 8 日～平成 28 年 11 月 10 日（富山市総曲輪四丁目地内）

平成 29 年 2 月 6 日～平成 29 年 2 月 8 日（富山市丸の内一丁目地内）

平成 29 年 9 月 25 日～平成 29 年 9 月 29 日（富山市本丸地内）

（2）出土品基礎整理期間　　平成 28 年 3 月 17 日～平成 28 年 5 月 31 日

（3）出土品整理・報告書作成期間　平成 30 年 5 月 30 日～平成 30 年 10 月 31 日

4　現地調査及び出土品整理・報告書作成担当者

現地調査・監理担当　堀内大介主査学芸員（富山市埋蔵文化財センター）

現地調査　細辻嘉門主査学芸員　野垣好史主査学芸員　納屋内高史嘱託学芸員　宮田康之嘱託学芸員（富山市埋蔵文化財センター）

現地調査･出土品整理･報告書作成担当　朝田　要学芸員　橋日奈子学芸員（北陸航測株式会社）

5　調査及び出土品整理にあたり、（公財）石川県埋蔵文化財センター、砺波市立砺波郷土史料館、浦畑奈津子、佐々木達夫、佐々木花江、安力川恵子、安中哲徳（敬称略）からご協力・ご助言を賜った。記して謝意を表します。

6　出土遺物・原図・写真類は富山市教育委員会が保管している。

7　本書の執筆・編集は、堀内・鹿島・納屋内（富山市埋蔵文化財センター）、朝田・橋（北陸航測株式会社）が担当し、各々の責は文末に記した。また全体の編集は、堀内・朝田が行った。

凡例

1　本書で用いた座標は国土座標Ⅶ系に準拠した。方位は真北、水平基準は海抜である。

2　遺構記号は、SD:堀･溝･石組水路、SE:井戸、SK:土坑、SP:ピット、SX: 性質不明遺構を用い、基本的に遺構事実記載も、この遺構種類順にまとめて行った。

3　土層及び遺構埋土、遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に拠る。

4　図中のアミカケは、各頁に凡例を示している場合を除き、以下の通りである。

煤・炭化物・油煙痕　　地山

5　遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。

(1) 遺構埋土に新旧関係がある場合は、特記欄に古＜新のように記号で記す。

(2) 規模･法量の（　）は現存長である。なお、遺物の〈　〉は復元長である。また文中の〔　〕は引用・参考文献である。

目次

第１章　調査の経過・・・

第１章　調査の経過

富山城跡(市№2010442)は、平成5年3月発行『富山市遺跡地図(改訂版)』に登載され、周知の埋蔵文化財包蔵地となった。この当時の包蔵地範囲は、現在の富山城址公園を中心に旧本丸・西ノ丸・二ノ丸を含む90,000㎡であったが、平成10年の文化庁次長通知「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」の中で「近世に属する遺跡については、地域において必要なものを対象とすることができる」とした近世遺跡に関する取扱いの原則が変更された。このことを受け、平成12年4月に改訂した『富山市遺跡地図』では城下町主要部まで範囲を拡張した。その後、平成25・26年度に富山城跡の埋蔵文化財包蔵地範囲の見直しを行い、城下町主要部を富山城下町遺跡主要部(市№2011048)として分け、富山城跡は旧本丸・西ノ丸・二ノ丸・三ノ丸・東出丸、外堀の外側に配置された武家屋敷地までを範囲とした。現在の富山城跡の埋蔵文化財包蔵地面積は343,000㎡である。

平成19～20年度にかけて、富山市上下水道局下水道課（以下、市下水道課）が松川雨水貯留施設工事の基本調査を実施し、平成21年度の基本設計で工事の線形が決定した。工事予定地が埋蔵文化財包蔵地である富山城跡に含まれていたため、平成22年度に市下水道課と富山市教育委員会埋蔵文化財センター（以下、市埋文センター）との間で協議を行い、平成23年度に旧富山市立図書館南側の発進立坑部分約130㎡について試掘調査・ボーリング調査を実施することとなった。その結果、GL＝-7.80mに富山城内堀の堀底があると推定した。これら調査に基づき、建設にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねた結果、掘削工事が堀底に達することから、発進立坑部分133.88㎡について平成23年12月～平成24年1月に2011c調査区で発掘調査を行った〔富山市上下水道局・富山市教委2012〕。

平成27年2月に旧総曲輪小学校跡地で「総曲輪レガートスクエア」の整備計画が決定し、それに伴い旧総曲輪小学校北側・東側に面する道路を含めた外構が整備されることとなった。そのため、同年4月～8月に富山市企画調整課と市下水道課が協議を行い、市下水道課が予定していた「公共下水道松川第二排水区総曲輪四丁目地区浸水対策工事」を外構整備工事に先立ち施工することとした。そのため、同年10月に市下水道課と市埋文センターが下水道布設工事に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、工事立会を実施することとした。工事立会は工事受注者が民間発掘会社を下請けとして委託し、その監理を市埋文センターが行った。下請けとして北陸航測株式会社が受託し、平成28年1月7日～4月15日まで2015c調査区で現地工事立会を行い、3月17日～5月31日まで出土品基礎整理を行った。

しかし、既存消雪関連施設の移設工事がレガートスクエア整備に伴って行われる予定であったため、東側管路の一部区間は当初工事から除外された。除外区間は施設移設完了後工事を施工することとなり、平成28年11月8日～10日に2015c調査区の一部で市埋文センターが現地工事立会を行った。

また、工事計画は平成28年度当初は越流水導水管（後に行う「公共下水道松川第二排水区本丸地区七軒町雨水幹線築造工事」（以下、七軒町雨水幹線築造工事））から松川貯留管ポンプ室立坑（平成23年度に調査を行った発進立坑）に直接接続する予定であったが、緊急時に越流水導水管からの下水を遮断するゲートを設置することとなり、ゲート設置のための立坑が必要となった。このため、追加の立坑掘削にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて、市下水道課と市埋文センターで協議を行った。既存建物基礎によって工事計画部分は破壊されている可能性もあったが、平成23年度調査区に隣接することから、立坑掘削部分約19.6㎡（直径5.0mの円形）については工事立会を実施することとし、平成29年2月6日～8日に2016c調査区で市埋文センターが現地工事立会を行った。

平成28年11月から七軒町雨水幹線築造工事をシールド工法により施工していたが、平成29年2月末にシールド機が当初想定土質と異なる礫層の影響により掘進が停止した。このことによりシール

ド機の面盤の交換が必要になり、その交換方法について市下水道課が関係機関と協議を行い、平成29年5月に旧市立図書館駐車場内に立坑を追加し、面盤を交換する計画に変更した。このため、追加の立坑掘削にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて、市下水道課と市埋文センターで緊急に協議を行った。緊急度が高く、富山城内堀の中で掘削されることから、立坑掘削部分約63.6㎡（直径9.0mの円形）については工事立会を実施することとし、平成29年9月25日～29日に2017調査区で市埋文センターが現地工事立会を行った。

一方、出土品整理業務は、平成30年度に国土交通省の国庫補助金を受け「総曲輪四丁目地区浸水対策工事関連出土品整理業務」を行うこととした。業務は、市下水道課から北陸航測株式会社富山支店が受託し、平成30年5月30日～10月31日まで行った。

第１図　富山城・城下町の調査位置図

第1表　富山城・城下町における調査一覧

調査年度	調査箇所	調査原因	調査区分	調査面積（㎡）	主な文献
2004	城下町（総曲輪）	グランドパーキング建設工事	発掘調査	130	富山城跡発掘調査概要2005
2005	城下町（一番町・総曲輪）	総曲輪フェリオ建設工事	発掘調査	2,811	富山城跡発掘調査報告書2006b
2006a	本丸、二ノ丸内堀	城址公園整備（堀改修）	工事立会	―	
2006b	本丸鉄門西石垣、搦手南石垣	城址公園整備（石垣解体修理）	工事立会 石垣石材調査	―	富山城跡発掘調査報告書2018a
2006c	西ノ丸	城址公園整備（ステージ建設）	発掘調査	278	富山城跡発掘調査報告書2017b
2006d	城下町（総曲輪）	グランドプラザ建設工事	工事立会	―	富山市の遺跡物語№9　2008
2006e	本丸大手土橋	城址公園整備（電線管工事）	工事立会	―	富山城跡発掘調査報告書2016
2006f	本丸東辺土塁	千歳御門移築	工事立会	―	
2007	本丸東辺土塁	城址公園整備（石垣新設）	発掘調査	112	富山城跡発掘調査報告書2016
2008a	二ノ丸、三ノ丸、城下町（一番町・越前町・総曲輪）	市内電車敷設工事	工事立会	―	富山城跡発掘調査報告書2009
2008b	城下町（旅籠町・総曲輪）	プレミスト総曲輪建設工事	発掘調査	1,300	富山城跡発掘調査報告書2010
2008c	三ノ丸	市内電車敷設工事	発掘調査	187	富山城跡発掘調査報告書2009
2008d	本丸	城址公園整備（池泉整備）	発掘調査	118	富山城跡発掘調査報告書2016
2009a	二ノ丸、三ノ丸、城下町（一番町・越前町・総曲輪）	市内電車敷設工事	工事立会	―	富山市の遺跡物語№11　2010
2009b	本丸	城址公園整備（池泉整備）	発掘調査	370	富山城跡発掘調査報告書2017b
2010a	西ノ丸	城址公園整備（下水管工事等）	工事立会	―	富山城跡発掘調査報告書2017b
2010b	本丸南辺土塁	城址公園整備（石垣改修）	発掘調査	87	富山城跡発掘調査報告書2016
2011a	本丸東辺土塁	城址公園整備（石垣改修）	工事立会	―	富山城跡発掘調査報告書2018a
2011b	本丸東辺土塁	城址公園整備（石垣新設）	発掘調査	25	富山城跡発掘調査報告書2016
2011c	西ノ丸内堀	公共下水道松川処理分区雨水貯留施設工事	発掘調査	133.88	富山城跡発掘調査報告書2012
2012a	二ノ丸、三ノ丸、城下町	水道工事	工事立会	―	富山市の遺跡物語№14　2013
2012b	本丸、西ノ丸	城址公園整備（電線管工事等）	工事立会	―	富山城跡発掘調査報告書2018a
2013a	城下町（西町）	TOYAMAキラリ建設工事	発掘調査	380	富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2014a
2013b	二ノ丸、東出丸、二ノ丸内堀	水道工事	工事立会	―	富山市の遺跡物語№15　2014
2013c	城下町（一番町・総曲輪）	一番町スクエアビル建築工事	発掘調査	423	富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2014b
2013d	本丸	城址公園整備（池泉整備）	発掘調査	66	富山城跡発掘調査報告書2017b
2013e	本丸	城址公園整備（電気設備工事等）	工事立会	―	富山城跡発掘調査報告書2018a
2014a	城下町（総曲輪）	レーベン富山総曲輪レジデンス建設	発掘調査	96	富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2014c
2014b	本丸	城址公園整備（池泉整備）	発掘調査	64	富山城跡発掘調査報告書2017b
2014c	本丸	城址公園整備（雨水汚水設備・電気設備工事等）	工事立会	―	富山城跡発掘調査報告書2018a
2014d	三ノ丸外堀	総曲輪レガートスクエア（第1期）	発掘調査	1,562	富山城跡発掘調査報告書2017a
2014e	城下町（一番町・総曲輪）、三ノ丸外堀	ユウタウン総曲輪建設工事	発掘調査	3,960	富山城跡　富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2015
2015a	三ノ丸	アームストロング青葉幼稚園移転新築工事	工事立会	473	富山城跡発掘調査報告書2018c
2015b	三ノ丸	総曲輪レガートスクエア（第2期）	発掘調査	3,565.5	富山城跡発掘調査報告書2018b
2015 c	**三ノ丸**	**公共下水道松川第二排水区総曲輪四丁目地区浸水対策工事**	**工事立会**	**6.6**	**本書**
2016a	三ノ丸	総曲輪レガートスクエア（第3期）	発掘調査	704.9	富山城跡発掘調査報告書2018b
2016b	城下町（総曲輪）	総曲輪三丁目市街地再開発	発掘調査	285	富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2017
2016c	**西ノ丸内堀**	**松川雨水貯留施設ポンプ室築造工事**	**工事立会**	**19.6**	**本書**
2017	**西ノ丸内堀**	**公共下水道松川第二排水区本丸地区七軒町雨水幹線築造工事**	**工事立会**	**63.6**	**本書**

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

富山市は、平成17(2005)年の市町村合併により富山県の中央部から南東部にかけて県全体の約1/3を占める広大な市域となった。富山市の地勢は大まかに山間部と平野部に大別され、北には富山湾が広がり、東には立山連峰が聳え、西には呉羽丘陵・山村部が連なり、南には岐阜県境に接して山林が広がる。平野部は、神通川・常願寺川とその支流が形成した扇状地と氾濫平野が広がる。

富山城跡の旧本丸、西ノ丸と二ノ丸の一部は、現在富山城址公園となっており、公園内には博物館や美術館が建ち、春には公園北側の松川べりとともに桜の名所として市民の憩いの場となっている。近年は、公園内にイベント用ステージや日本庭園の新設、茶室「碌々亭」の移築など中心市街地の観光拠点としての公園整備が進められてきた。旧三ノ丸や東出丸は、明治期に民有地となり、それ以降は市街地化が進み、往時の面影はほとんど残っていない。富山城跡の内堀・外堀は、内堀の一部を残してそのほとんどが埋められている。

富山城跡は、富山市本丸・総曲輪・丸の内などの中心市街地に位置する埋蔵文化財包蔵地で、富山湾から7.5km内陸に入った神通川右岸の河岸段丘上に立地する。城の東側には鼬川が北流し、富山城跡は西の神通川、東の鼬川に挟まれた天然の要害の地にあった。現在の神通川は城の西側をまっすぐに北流するが、明治時代後期までは蛇行しながら城の西側から北側を流れていた。神通川が洪水を頻繁に発生させることから、明治34(1901)年～同36年に川の流れを直線的に変えるための分水路を設ける馳越工事が行われた。やがて、分水路の川幅が広がって新しい本流となり、城の北側を流れていた元の本流にはほとんど水が流れなくなったため、元の本流であった場所は廃川地となった。広大な廃川地は富岩運河掘削工事の排土で埋め立てられ、埋立地には富山駅や県庁、市役所などが建設され新たな市街地が形成された。元の本流は、現在松川としてその名残をとどめている。

また、富山城外堀跡の南を東西に走る現在の市道総曲輪線(平和通り)は、江戸時代の北陸街道であり、西町・太田口通りを起点とする飛騨街道が交わる交通の要衝であった。城は、その交通の要衝に神通川を背に造られている。

第２節　歴史的環境

中心市街地には、藩政期富山城外堀に囲まれた内側を範囲とする「富山城跡」、外堀南辺・東辺沿いの武家屋敷地と北陸街道沿いの町屋敷地を範囲とする「富山城下町遺跡主要部」、中世富山城築城以前の遺跡を範囲とする「総曲輪遺跡(市№2010443)」が埋蔵文化財包蔵地として所在する。

次に富山城跡周辺における歴史と発掘調査成果を概観する。

弥生時代中期～古墳時代前期　神通川流域に集落や墳丘墓、古墳などが造営される。左岸には、呉羽丘陵最高峰の城山（標高145m）の山頂に弥生時代後期の高地性集落が営まれ、丘陵上には多数の墳墓や古墳が造営された。城山の南西約0.3kmには、古墳時代前期の呉羽山丘陵古墳群が南北約1.9kmにわたって造営された。呉羽丘陵北端部の百塚遺跡・百塚住吉遺跡では、方形周溝墓や前方後方墳、前方後円墳等が28基造営され、「百塚古墳群」と称している〔富山市教委2009a・2012〕。百塚古墳群の南西約1kmには、古墳時代初期の杉坂古墳群がある。

右岸には、千石町遺跡がある。富山城跡の南約0.4kmに位置する千石町遺跡では、約2,200年前の弥生時代中期に造営された方形周溝墓が5基見つかった〔富山市教委2015a〕。方形周溝墓群の南西約100m地点で地下約6mのところから約2,300年前の洪水で流された流木6本(コナラ属2本、クリ4本)が見つかった〔富山市教委2015c〕。洪水の影響を受けなかった流路北側の高台に方形周溝墓群が造営されたと考えられる。城下町2016b地区では弥生時代後期～古墳時代前期の東海系パレススタイ

ル壺が出土する〔富山市教委2017a〕など、富山城跡周辺では弥生時代～古墳時代の遺物が散見する。

古墳時代後期　呉羽丘陵の番神山に古墳時代後期の群集墳が造営される。同時期に百塚遺跡では円墳が造営され、円墳の周溝内埋葬施設には馬のハミが副葬されており、他地域に先行して馬を所有した有力者の存在が考えられる〔富山市教委2012〕。

古代　西ノ丸の2010a調査区、城下町のグランドパーキング2004調査区やTOYAMAキラリ2013a調査区で、古代の須恵器・土師器が出土している。中でも西ノ丸出土の「宅持」と墨書された奈良時代後期の須恵器は特筆される。この他にも墨書土器が数点見つかっていること、「宅持」墨書土器には厳重に管理されているはずの漆の付着があることを合わせて考えると、富山城・城下町周辺に官衙関連施設が存在することを伺わせるとしている〔鹿島2011〕。

室町時代後期～戦国時代前期　本丸東部の石垣新設2007b調査区では、室町時代後期～戦国時代前期の井戸や溝を検出し、笄や漆器、中国製磁器などの高級品であった遺物が出土することから、至近に武家居館の存在を示唆している〔富山市教委2016〕。三ノ丸の総曲輪レガートスクエア2015b調査区では、室町時代後期の区画溝、戦国時代前期の武家居館の堀などを検出した〔富山市教委2018b〕。

この時期は、文献史料に「外山(富山)」の地名が散見する時期に当たる。応永5(1398)年の『吉見詮頼寄進状』（市指定文化財）には、能登の吉見詮頼が将軍足利氏から拝領した「外山郷」地頭職を京都東岩蔵寺に寄進したことが記載されており、荘園「外山郷」の存在が確認できる。永享2(1430)年の『足利義教御内書』には、6代将軍足利義教が翌年正室となる三条尹子（瑞春院）に「富山柳町」を与え、嘉吉3（1443）年の『瑞春院寄進状』には、瑞春院が賜与された「富山柳町」を夫義教や息子義勝などの菩提を弔うために京都二尊院へ寄進したことが記載されている。「富山柳町」は鼬川沿いの自然堤防帯に向かい合って成立した市的機能を持つ商業地との指摘〔久保2014〕があり、荘園「外山郷」の比定地を鼬川左岸の富山城周辺とされており、本丸の2007b調査区や三ノ丸の2015b調査区で検出した室町時代後期～戦国時代前期の遺構は荘園「外山郷」に関連する遺構と考えられる。

また、三ノ丸の2015b調査区で検出した区画溝の主軸方向はN-12°-Eであり、戦国時代・江戸時代の区画溝や堀などもこの区画溝と同一の主軸方向である。このことから、荘園「外山郷」が条理地割を敷いて形成されており、その地割が江戸時代まで踏襲されていたと考えられる〔富山市教委2018b〕。

神通川左岸には、古代～近世の複合遺跡である金屋南遺跡がある。遺跡の最盛期である室町時代～戦国時代には、溶解炉や廃滓場などの鋳造関連の遺構を検出し、鋳造を生業とする村があったと考えられる〔富山市教委2007〕。

戦国時代後期　中世富山城は、越中守護代神保長職により築城され、築城時期は天文12(1543)年ごろが有力である〔久保1983〕。平成14年から行ってきた富山城址公園内の試掘調査などで、戦国時代の堀や井戸などを検出し、中世富山城が近世富山城と同じ場所に建っていたことがほぼ確実となった〔富山市教委2004・2006b・2008・2009b〕。三ノ丸の2015b調査区では、中世富山城期の堀や井戸、かわらけ廃棄土坑などを検出し、この調査区周辺まで中世富山城に関連する遺構が広がることを確認した〔富山市教委2018b〕。

中世富山城は城主の入れ替りが激しい城であった。神保長職が荘園「太田保」への進出の足掛かりとして富山城を築いたが、永禄3(1560)年に上杉謙信により長職は城を追われ、城は上杉氏の支城となった。その後、反上杉勢力の一向一揆勢が城を占拠したが、元亀元(1573)年に一向一揆勢は謙信により富山周辺から排除され、天正4(1576)年には越中一国がほぼ上杉氏の支配下となった。天正6年に謙信が死去すると、月岡野での織田勢と上杉勢との戦いで織田勢が勝利し、これにより織田勢が越中への進攻を強めた。天正8年には、織田信長のもとにいた神保長住（長職の子）が富山城に入城し、その支援として佐々成政が越中へ派遣された。天正10年、長住は上杉勢に与した元神保氏家臣の小島

職鎮・唐人式部大輔らによって城に幽閉された。織田勢が間もなく城を奪還したが、長住は城から追放されることとなり、これにより成政が富山城主となった。同年に起きた本能寺の変後、成政は織田信雄・徳川家康に味方したため、豊臣秀吉と対立した。天正13年、秀吉は成政討伐の越中攻めを決断し、呉羽丘陵の城山にあった白鳥城を本陣として布陣し、その支城として安田城・大峪城を構えた。成政は秀吉に降伏し、富山城は破却された。

江戸時代　慶長2(1597)年、前田利長が富山城に入城した。翌年家督相続のため金沢に移るが、慶長10年嗣子利常に家督を譲って隠居し、再び富山へ戻り、その時に城と城下町を整備した（慶長期富山城）。神通川対岸を通っていた北陸街道はこの時に城の南側を通るルートに変わり、飛騨街道とも結節させ、街道沿いには町屋敷を配した。慶長14年、大火により城は焼失し、元和元(1615)年の一国一城令により廃城となった。

寛永16(1639)年、加賀藩から10万石が分与され富山藩が成立した。翌年、初代藩主となった前田利次は百塚の地での新城築城まで加賀藩領に所在する富山城を仮居とすることとして入城した。しかし、財政的に厳しかったために百塚での新城築城は断念して、居城を富山城とすることとした。万治2(1659)年に加賀藩と領地を交換し、富山城周辺は富山藩領となった。寛文元(1661)年から城の改修を行い、幕府から新たに天守のほか、櫓3ヶ所、櫓門3ヶ所などの新築が許可されたものの、最終的に天守や櫓は建てられず、櫓門は二ノ丸と三ノ丸の間に1ヶ所建てられたに留まった（藩政期富山城）。また、慶長期に西側であった大手は南側に変更された。

延宝2(1674)年の利次の死後、神通川左岸の八ヶ山地内に富山藩主前田家墓所長岡御廟所が造営された。二代正甫が亡父の念願であった百塚の新城予定地近くに利次を葬り、以後この場所が富山藩歴代藩主の墓所となった〔古川・野垣・小林・蓮沼2010〕。

富山城や城下町については、これまでの発掘調査で多くの成果が得られている（第1図、第1表）。

本丸の池泉整備2009b調査区では、本丸御殿の縁側に伴う沓脱石や飛び石を確認した〔富山市教委2017b〕。本丸の鉄門石垣・搦手石垣の解体修理に伴う 2006b・2007a 調査区では、石垣の内部構造などが明らかとなった〔富山市教委2018a〕。

本丸 2007b・2010b・2011b 調査区では、土塁が40° 前後の傾斜をもつことが明らかとなり〔富山市教委2016〕、西ノ丸北西部の雨水貯留管施設設置2011c調査区では、内堀の深さが現地表から約5.8m下にあることが分かった〔富山市上下水道局・富山市教委2012〕

三ノ丸2014d調査区では、近世富山城外堀の構造や深さを確認した〔富山市教委2017a〕。三ノ丸および城下町にまたがるユウタウン総曲輪2014e調査区では、土塁の痕跡を検出した。江戸時代の様々な古絵図には、南外堀の北側に土塁が描かれており、古絵図どおり土塁が存在したことを裏付けた〔富山市教委2015b〕。

城下町にあたる総曲輪フェリオ2005調査区、プレミスト総曲輪2008b調査区、一番町スクエアビル2013c調査区、ユウタウン総曲輪2014e調査区などで、武家屋敷と町屋敷を分ける背割下水を確認し、背割下水は最低3度の造り替えを行っていることが分かった。また、2005調査区や2013c調査区のある一番町東側では、鞴羽口や鉄滓が多く出土することから鍛冶工房があり、2014e調査区のある一番町西側では、漆の付いた刷毛などが出土することから漆工房があったと考えられた〔総南再組・富山市教委2006、総四旅籠町地区開協・富山市教委2010、富山市教委2014・2015b〕。

TOYAMAキラリ2013a調査区のある西町では、木製品の素材や端材が大量に出土し、付近に木材加工場の存在を推測している〔富山市教委・西町南再組2014〕

このように重臣屋敷がある三ノ丸や城下町での生産活動の様相・屋敷割の構造などが少しずつ明らかとなってきている。　（堀内）

第２図　周辺の遺跡分布図

第３章　2016年度工事立会（三ノ丸）

第１節　工事立会の方法

調査は下水管敷設工事に伴うもので、幅1.6～1.8mのトレンチ状の範囲を、工事の掘削が及ぶ深度まで調査を行った。工事の進捗は1日約３～６mである。調査は、遺物包含層の有無を確認しながら、江戸時代の遺構検出面であるⅤ層直上まで重機による掘削を行った。遺物包含層が残っている場合は、遺物の有無に注意しながら掘削を行った。Ⅴ・Ⅵ層の遺構検出面の直上で掘削を中断し、人力による遺構検出及び遺構掘削、トータルステーションによる各段階の調査範囲及び遺構の測量作業を行った。

今回の調査では、調査区南・西側に位置する平成27・28年の調査時に使用した座標をそのまま基点として使用し、調査終了後に平成26～28年度の遺構平面図に合成した。調査区割は、X=76,550、Y=3,780を起点（A0）したグリッドに、レガートスクエア整備に伴う調査区を含めた関連する調査区全体を図示した。また今回調査区のうち、東側調査区は南から北へE1～E6、北側調査区は西から東へN１～N6と各ブロックに分け、遺構面が2層ある範囲については、ブロック名の後ろに中層は(中)、下層は(下)の文字を入れて細分した（第3・4図）。工事立会期間は、平成28年1月7日～4月15日と、E5・E6地区の一部が平成28年11月8日～11月10日である。

2015ｃ調査区は、前年度までに実施した調査の北・東側に隣接しており、今回調査区で検出した遺構と関連する前年度までの遺構については、地区ごとに2区（2-SK1000）、4区（4-SD60）等、地区+遺構番号の様式で記載した。

第２節　基本層序

基本層序は次の通りである（第5図）。なお、遺物を伴わない上層遺構については断面で確認を行った。中層遺構の検出面はⅤ層だが、Ⅴ層で検出できない地点では、Ⅵ層またはⅦ層で下層遺構の検出と同時に行った。

Ⅰ層：表土　GL8.9～8.6m - 8.3m

Ⅱ層：黒色を呈する戦災ガレキ層。炭化物と瓦・レンガ・焼土等を多量に含む。
GL8.3 - 8.1～8.0m

Ⅲ層：灰褐色土に炭化物・焼土粒をわずかに含む。場所により礫を含む。
GL8.1～8.0m - 7.8～7.6m

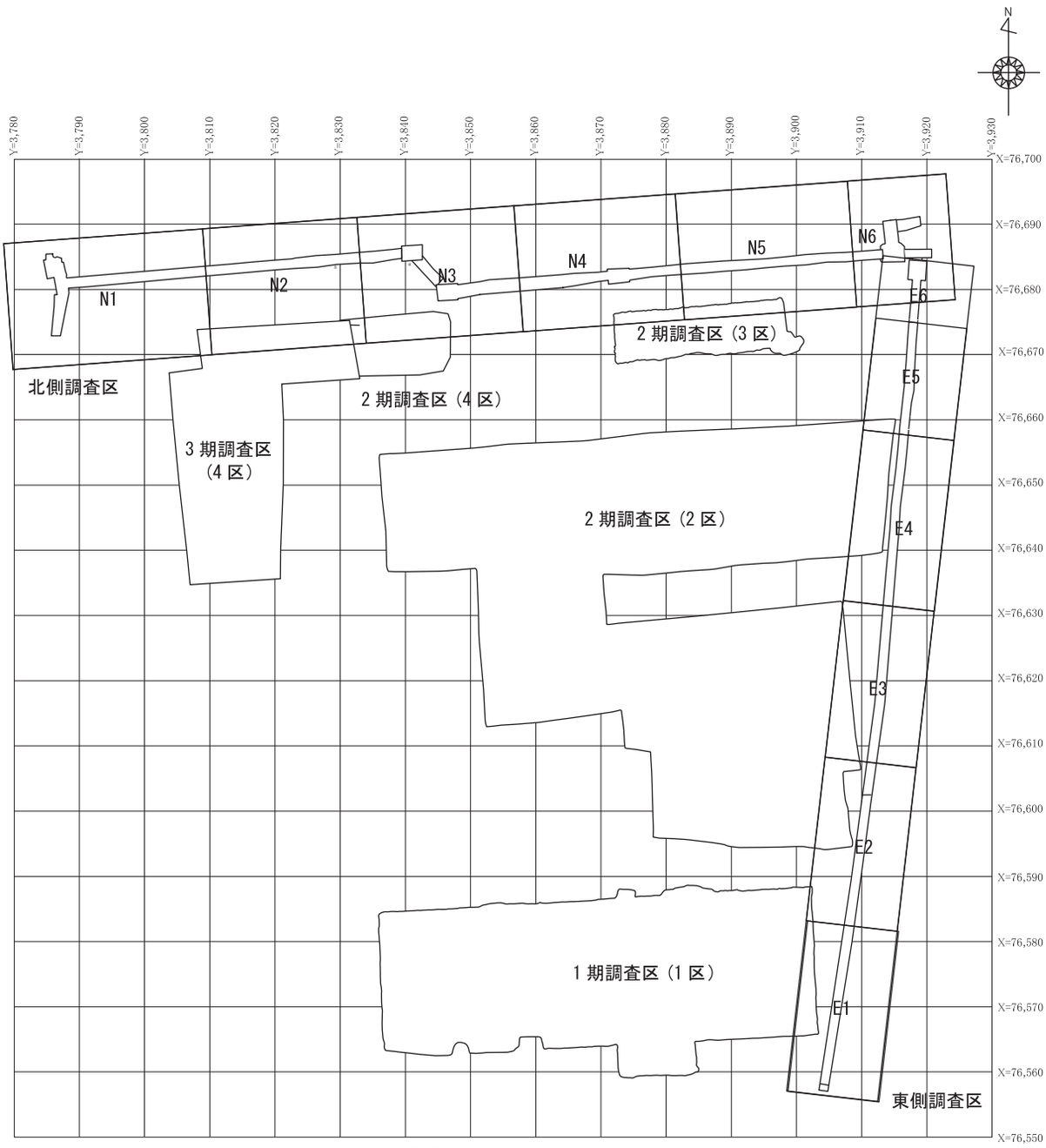
Ⅳ層：上層遺構（明治以降）検出面・中層遺物包含層：灰褐色土
GL7.8～7.6m - 7.4～7.3m

Ⅴ層：中層遺構（近世）検出面・下層遺物包含層：黒褐色土。今回の調査区では、東側調査区の中央～北側と、北側調査区の中央付近～東側の一部に残る。
GL7.4～7.3m - 7.2～7.1m

Ⅵ層：下層遺構（中世）検出面：灰黄褐色～灰黄色シルト／砂質シルト。
GL7.2～7.1m～6.9～6.8m

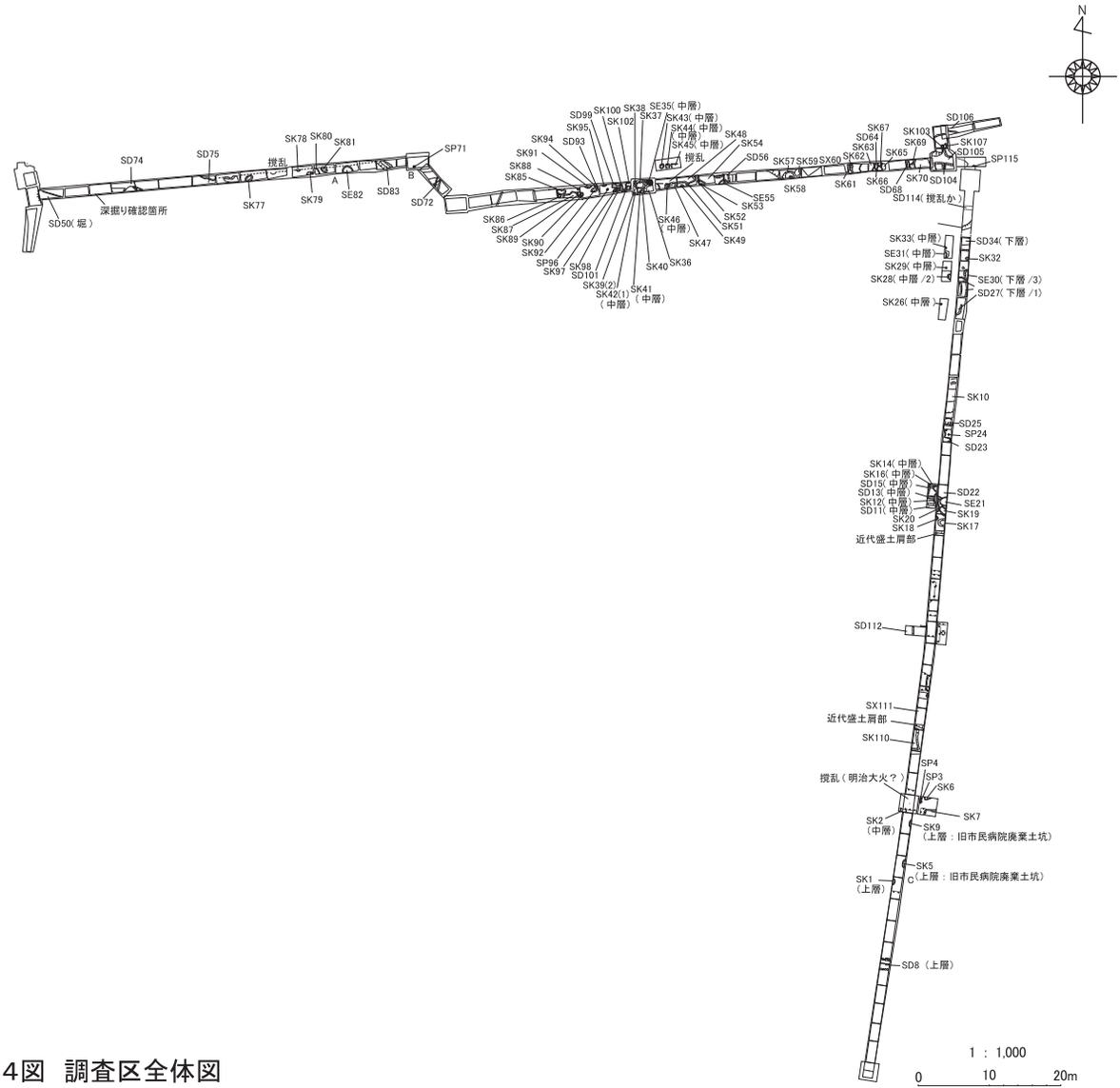
Ⅶ層：礫層　灰色砂礫。GL6.9～6.8m - 6.6～6.3m

Ⅷ層：砂層（湧水層）　灰／灰オリーブ色粗砂／細砂　GL6.3～6.1m以下

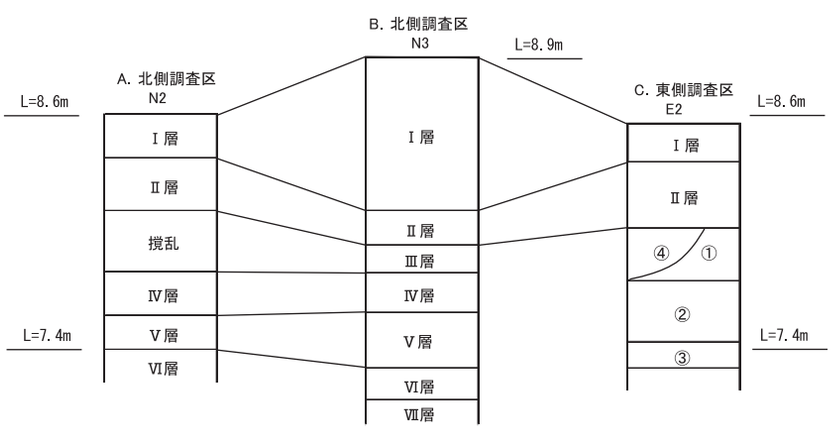


※1～4 区はレガートスクエア整備に伴う発掘調査である。

第３図　調査区位置・区割図



第4図　調査区全体図



Ⅰ層：表土　10YR3/1黒褐色シルト
Ⅱ層：戦災ガレキ整地層　10YR3/1黒褐色シルト（焼土・礫多量に混）
Ⅲ層：盛土　7.5YR5/2灰褐色シルト（礫・炭化物・焼土少量混）
Ⅳ層：上層遺構検出面・中層遺物包含層　10YR4/2灰黄褐色シルト
Ⅴ層：中層遺構検出面・下層遺物包含層　10YR3/1黒褐色シルト
Ⅵ層：下層遺構検出面／地山　10YR6/2灰黄褐色／2.5Y6/2灰黄色シルト
Ⅶ層：地山　2.5Y6/1灰色砂礫

1期堀1−SD04埋土
①2.5Y4/2暗灰黄色シルト
②2.5Y4/1黄灰色シルト
③2.5Y3/1黒褐色シルト

SK5旧富山市民病院廃棄土坑
④2.5Y3/1黒褐色シルト（焼土・炭化物・近代陶磁器多量に含む）

第5図　基本層序柱状図

第３節　遺構

遺構は、東側調査区から溝・堀・石組水路8条、土坑20基、ピット3基、井戸3基を、北側調査区から溝・堀15条、土坑55基、ピット2基、井戸2基、不明遺構2基を検出した。主な遺構の時期は中近世および近代である。

１. 東側調査区

(1) 堀・溝・石組水路 (SD)

SD8（上層遺構／第６図）

E1ブロックに位置する石組水路である。調査区内で幅1.2m、検出長1.2m、深さ0.38mを測る。軸方向は東西である。西側に隣接する富山城第1期調査で検出した石組水路1-SD01と同一遺構である。埋土は褐灰色土を基調とし、礫・炭化物等が混じる。遺物は伊万里（28）・近代陶磁器（29～34）等が出土した。遺構の時期は近代である。

SD11（中層遺構／第７図）

E4ブロックに位置する堀である。調査区内で幅0.66m、検出長1.2m、深さ0.21m以上を測る。軸方向は東西である。西側に隣接する富山城第2期調査で検出した堀2-SD470（新）と同一遺構である。埋土は褐灰色土を基調とし、礫・炭化物等が混じる。遺物は越前（123）、越中瀬戸（124・125）、京・信楽系（126～128）、唐津、伊万里（129～132）、近世近代陶磁器（133・134）、不明陶磁器（135）、瓦（136～138）等が出土した。遺構の時期は近世である。

SD13（中層遺構／第７図）

E4ブロックに位置する溝である。調査区内で幅0.45m、検出長0.99m、深さ0.23mを測る。軸方向は東西である。埋土は褐灰色土を基調とする。SK12・SE21と重複し、SK12より古く、SE21より新しい。遺物は越中瀬戸（139）、不明陶磁器が出土した。遺構の時期は近世である。

SD15（中層遺構／第7図）

E4ブロックに位置する溝である。調査区内で幅0.31m、検出長1.73m、深さ0.23mを測る。軸方向は南北である。埋土は褐灰色粘質土を基調とする。SK14と重複し、より新しい。遺物は瀬戸美濃（140）、不明陶磁器が出土した。遺構の時期は近世である。

SD27（下層遺構／第８図）

E5ブロックに位置する溝である。調査区内で幅1.02m、検出長5.43m、深さ0.23mを測る。軸方向は南北である。埋土は褐灰色土を基調とし、礫・炭化物が混じる。SK26・SK28と重複し、より古い。遺物は瀬戸磁器（141）、越中瀬戸（142～145）、唐津（146）、伊万里（147～149）、近世・近代陶磁器（150～154）が出土した。遺構の時期は近世である。

SD34（下層遺構／第８図）

E6ブロックに位置する溝である。調査区内で幅4.4m、検出長1.20m、深さ0.17mを測る。軸方向は東西である。埋土は褐灰色土を基調とする。SK33と重複し、より古い。遺物は中近世土師器（163・164）が出土した。遺構の時期は近世である。

(2) 土坑 (SK)

SK5 (上層遺構／第6図)

E2ブロックに位置する廃棄土坑である。平面形が半円で、長径1.00m、短径0.22m、深さ0.41mを測る。埋土はにぶい褐色シルトに焼土・炭化物が混じる。旧富山市民病院の廃棄土坑で、多量の陶磁器が含まれる。遺物は近代陶磁器 (1～27) が出土した。遺構の時期は近代である。

SK9 (上層遺構／第6図)

E2ブロックに位置する廃棄土坑である。平面形が半円で、長径1.00m、短径0.3m、深さ0.40mを測る。埋土はにぶい褐色シルトに焼土・炭化物が混じる。遺物は近代陶器 (35・36) のほか、旧市民病院関連の近代硬質陶器 (37～39) ・近代陶磁器 (40～63) が多量に出土した。遺構の時期は近代である。

SK10 (中層遺構・第7図)

E4ブロックに位置する土坑である。平面形が推定楕円で、長径4.80m、短径1.2m、深さ0.24m以上を測る。西側に隣接する富山城第2期調査で検出した廃棄土坑2-SK1000の東側延長部分の可能性が高い。埋土は灰褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物が多量に混じる。遺物は珠洲 (64) 、越前 (65) 、中国白磁 (66) 、越中瀬戸 (67～95) 、唐津 (96～99) 、伊万里 (100～111) 、近世近代陶磁器 (112～120) 、砥石 (121) 、陶製人形 (122) 等がまとまって出土した。遺構の時期は近世である。

SK17～19 (下層遺構／第7図)

E4ブロックに位置する土坑群である。Ⅵ層で検出した。いずれも平面形は半円～楕円を呈し、調査区外に延びる。埋土は褐灰色シルトを基調とする。近世の遺構であるSD11北肩部分の下で検出した。遺構の時期は近世以前である。

SK28 (中層遺構／第8図)

E5ブロックに位置する土坑である。平面形は半円で、長径0.80m、短径0.41m、深さ0.26mを測る。埋土は褐灰色土を基調とする。SD27・SE30と重複し、より新しい。遺物は伊万里 (155～158) が出土した。遺構の時期は近代である。

SK32 (中層遺構／第8図)

E5ブロックに位置する土坑である。平面形が半円で、長径1.50m、短径1.20m、深さ0.30mを測る。埋土は褐灰色シルトを基調とする。遺物は越前、越中瀬戸 (161) 、唐津 (162) が出土した。遺構の時期は近世である。

(3) 井戸 (SE)

SE21 (下層遺構／第7図)

E4ブロックに位置する井戸である。平面形が半円で、長径1.21m、短径0.96m、深さ0.21m以上を測る。東側調査区外に拡がる。埋土は黒褐色粘質土を基調とする。SK12・SD13と重複し、より古い。遺物は越中瀬戸が出土した。遺構の時期は近世である。

SE30 (下層遺構／第8図)

E5ブロックに位置する井戸である。平面形が半円で、長径1.50m、短径0.53m、深さ0.64m以上を測る。西側調査区外に拡がる。埋土は黒褐色粘質土を基調とする。遺物は中世土師器 (159) が

出土した。遺構の時期は中世である

SE31（中層遺構／第８図）

E5ブロックに位置する井戸である。平面形が半円で、長径0.91m、短径0.37m、深さ0.37m以上を測る。東側調査区外に拡がる。埋土は黒褐色粘質土を基調とする。遺物は中近世土師器、越中瀬戸（160）が出土した。遺構の時期は近世である。

２．北側調査区

（1）堀・溝・自然流路（SD）

SD50／SD74・75（中層遺構／第９図）

N1・N2ブロックに位置する近世富山城の堀およびその上部の整地痕跡である。SD50は調査区東北端で南北の掘り方を検出した。調査区内で幅3.00m、検出長1.20m、深さ0.65m以上を測る。SD50の軸方向は東北東-西南西で、隣接する富山城第2・3期調査で検出した4-SD60と同一方向・軸線上にあることから、同じ遺構と考える。

SD74・75は4-SD1・SX40である。そのなかで、N1ブロックの深掘り確認箇所の埋土は4-SD1、その上に堆積する礫混じりの黒褐色シルトは4-SX40である。4-SX40部分は、4-SD60の延長であるSD50と重複関係にあり、より新しい。遺物はSD74・75から中世土師器（169）、京焼（170）、近世陶磁器（171・172）、硯（173）、板碑（174）、五輪塔の火輪（175）、不明石造物が出土した。
遺構の時期はいずれも近世である。

SD72（下層遺構／第１０図）

N3ブロックに位置する区画溝である。調査区内で幅0.66m、検出長1.73m、深さ0.32mを測る。軸方向はN-11～12°-Eで、隣接する富山城第2期調査で検出した同一軸方向を持つ2-SD70等の区画溝群と同じ時期に開削されたものである可能性が高い。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は出土していない。遺構の時期は室町時代の可能性が高い。

SD83（下層遺構／第１０図）

N3ブロックに位置する区画溝である。調査区内で幅3.00m、検出長1.20m、深さ0.65m以上を測る。軸方向はN-50°-Wで、隣接する富山城第2・3期調査で検出した同一軸方向を持つ溝2-SD776の延長上にある。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は出土していない。遺構の時期は中世の可能性が高い。

（2）土坑（SK）

SK39（中層遺構／第１１図）

N５ブロックに位置する土坑である。調査区内で長径0.89m、短径0.63m、深さ0.13mを測る。SK42と重複関係にあり、より新しい。遺物は中近世土師器（168）、瀬戸、越中瀬戸が出土した。遺構の時期は近世である。

SK40（下層遺構／第１１図）

N4ブロックに位置する土坑である。平面形が半円で、調査区内で長径0.64m、短径0.53m、深さ0.29mを測る。埋土は褐灰色シルトを基調とする。SK41と重複関係にあるが、時期差はほ

ぼみられない。遺物は中近世土師器（165）、越中瀬戸（166・167）が出土した。遺構の時期は近世である。

SK48・49・51～54（下層遺構／第11図）

N4ブロック東端に位置する土坑群である。検出面直上まで攪乱により削平されており、いずれもⅥ層で検出した。平面形は、SK48・54は推定楕円、SK49・53が半円、SK52が楕円で、埋土はいずれも褐灰色シルトを基調とする。遺物はSK54から砥石が出土した。南側に隣接する3区の遺構埋土との共通性から、同時期の遺構の可能性が高い。遺構の時期は16世紀である。

SK58（下層遺構／第12図）

N4ブロックに位置する土坑である。平面形は半円で、調査区内で長径0.58m、短径0.32m、深さ0.59mを測る。埋土は褐灰色シルトを基調とする。遺物は土師系陶器、瓷器系陶器、磚が出土した。遺構の時期は中世である。

SK79・80・81・SE82（下層遺構／第10図）

N2ブロックに位置する土坑・井戸である。平面形は、SK79が推定楕円、SK80が隅丸方形、SK81が楕円、SE82が推定円である。調査区内で、SK79は、長径1.08m、短径0.40m、深さ0.47m以上、SK80は長軸0.94m、短軸0.61m、深さ0.29m、SK81は、長径1.05m、短径0.72m、深さ0.13m、SE82は長径1.50m、短径0.88m、深さ0.49m以上を測る。埋土はいずれも黒褐色粘質土を基調とする。遺物はSK79から中世土師器が、SE82から土師質土器・越前・磚が出土した。遺構の時期は中世である。

SK85・87・91・92（下層遺構／第11図）

N4ブロックに位置する土坑である。平面形は、SK85が楕円、SK87が不整形、SK91が推定楕円、SK92が楕円である。調査区内で、SK85は、長径1.27m、短径0.84m、深さ0.46m、SK87は長軸2.16m、短軸0.84m、深さ0.31m、SK91は、長径1.07m、短径0.32m、深さ0.21m、SK92は長径0.95m、短径0.65m、深さ0.26mを測る。埋土はSK85・87が黒褐色シルト、SK91・92が褐灰色シルトを基調とする。遺物はSK85から土師質土器が、SK87から中世土師器・珠洲・取鍋が出土した。遺構の時期は中世である。

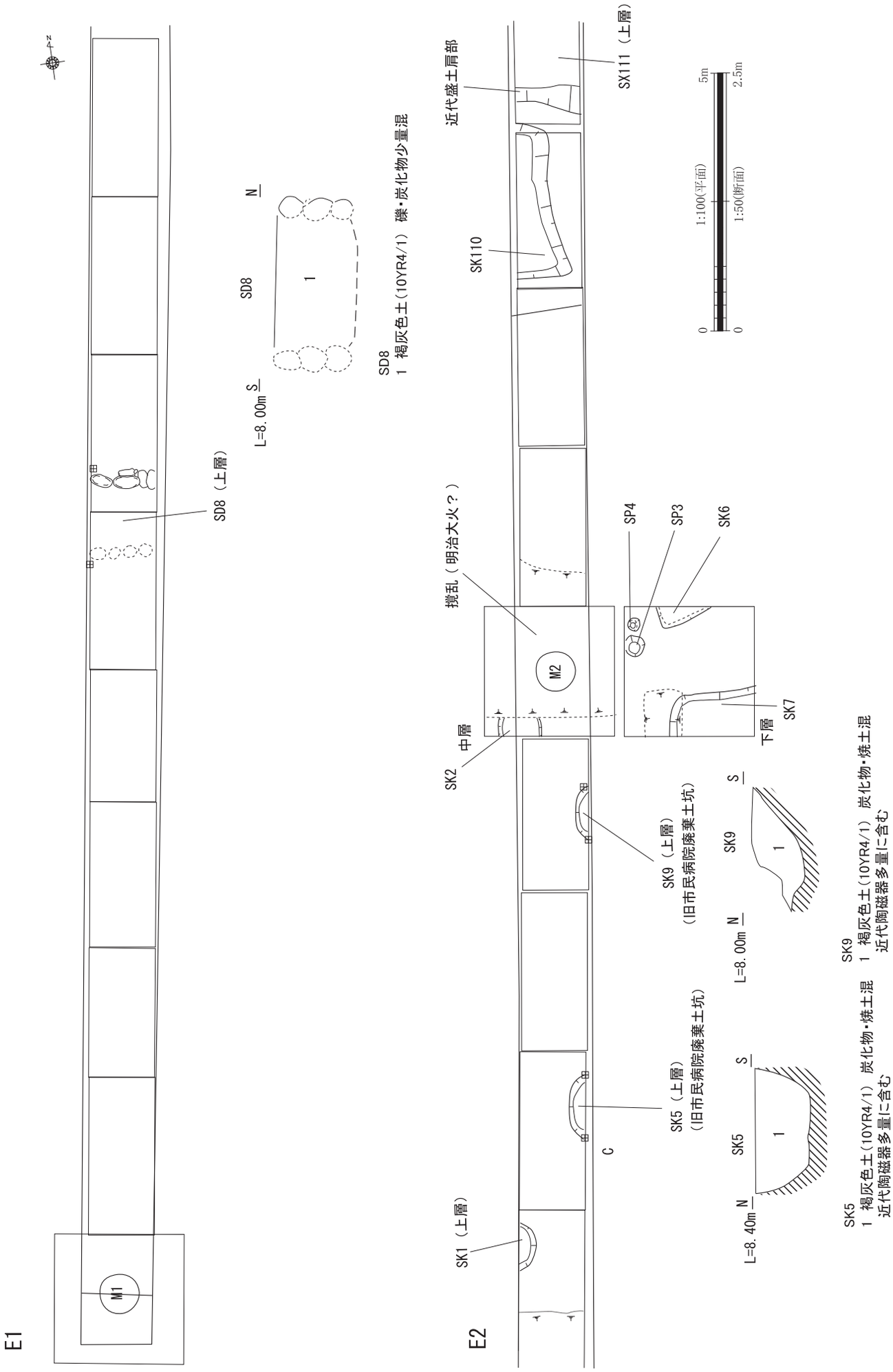
(3) 井戸 (SE)

SE35（中層遺構／第11図）

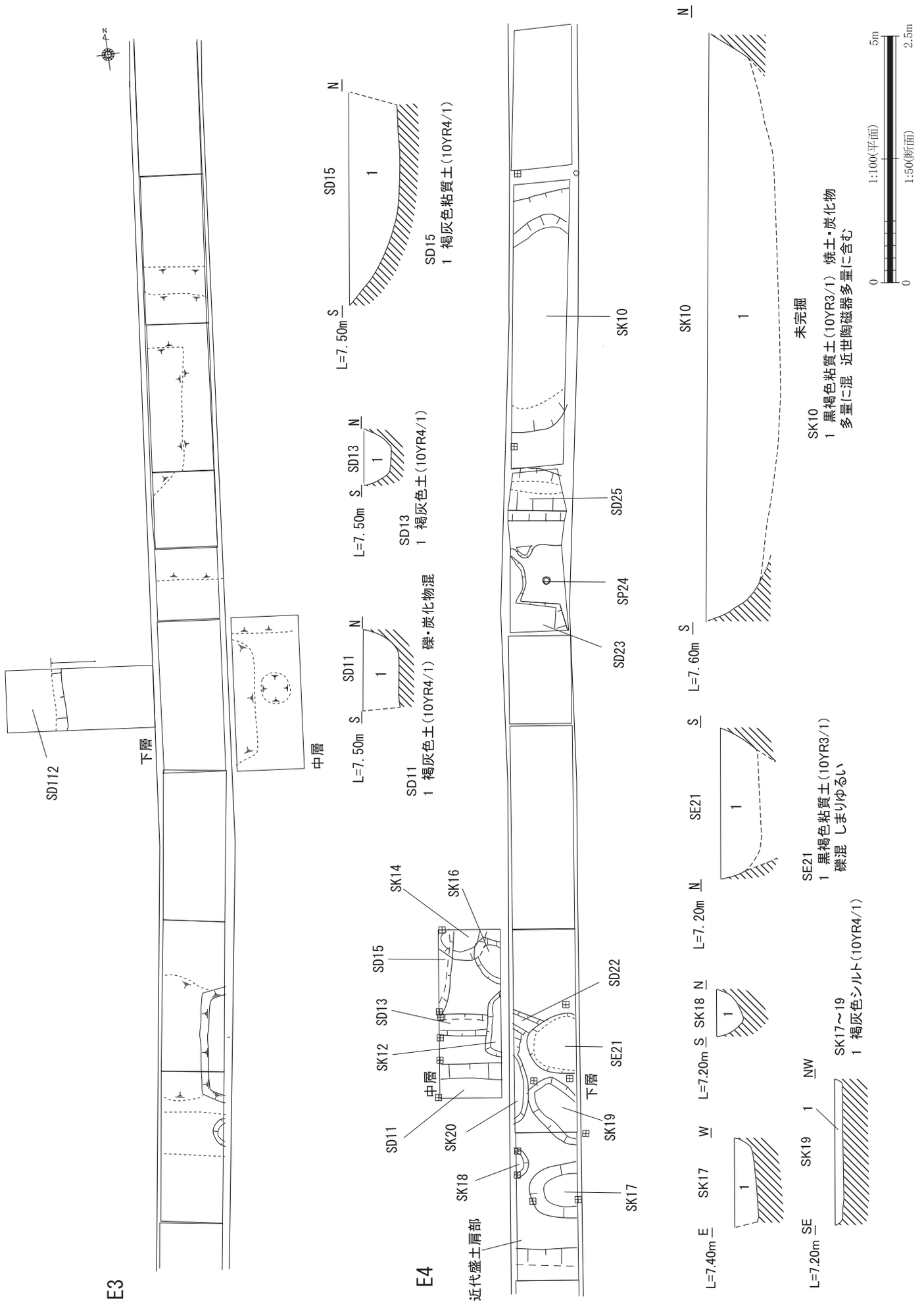
N4ブロックに位置する石組井戸である。平面形は半円で、調査区内で長径2.04m、短径0.74m、深さ0.23m以上を測り、北側調査区外に拡がる。SK36と重複関係にあり、より新しい。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は出土していない。3区遺構の検出深度及び埋土の性質の共通性などから、遺構の時期は16世紀の可能性が高い。

SE55（下層遺構／第12図）

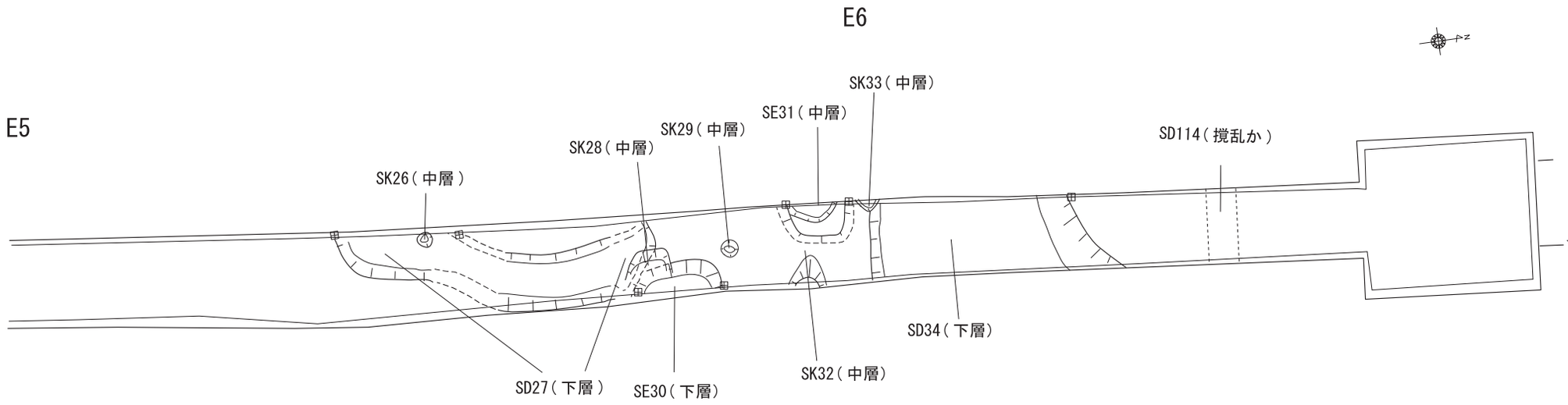
N5ブロックに位置する井戸である。平面形は半円で、南側調査区外に拡がる。調査区内で長径1.46m、短径0.58m、深さ0.58m以上を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は京焼（176）が出土した。SD56と重複関係にあり、より新しい。遺構の時期は近世である。

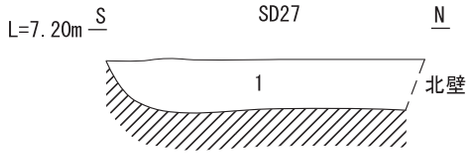


第６図　調査区ブロック・遺構断面図１（E1・2）

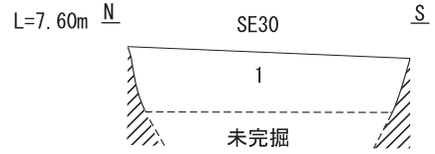


第７図　調査区ブロック・遺構断面図２（E３・４）

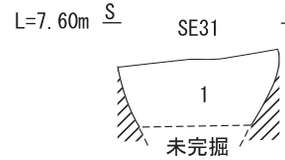




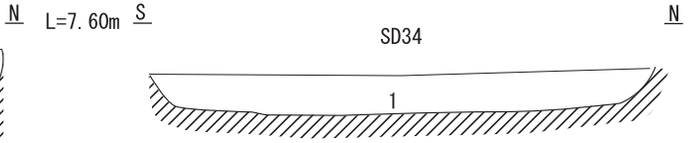
SD27
1　褐灰色土（10YR4/1）　礫・炭化物混



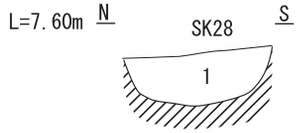
SE30
1　黒褐色粘質土（10YR3/1）
　しまりゆるい



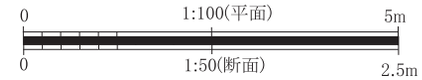
SE31
1　黒褐色粘質土（10YR3/1）
　しまりゆるい

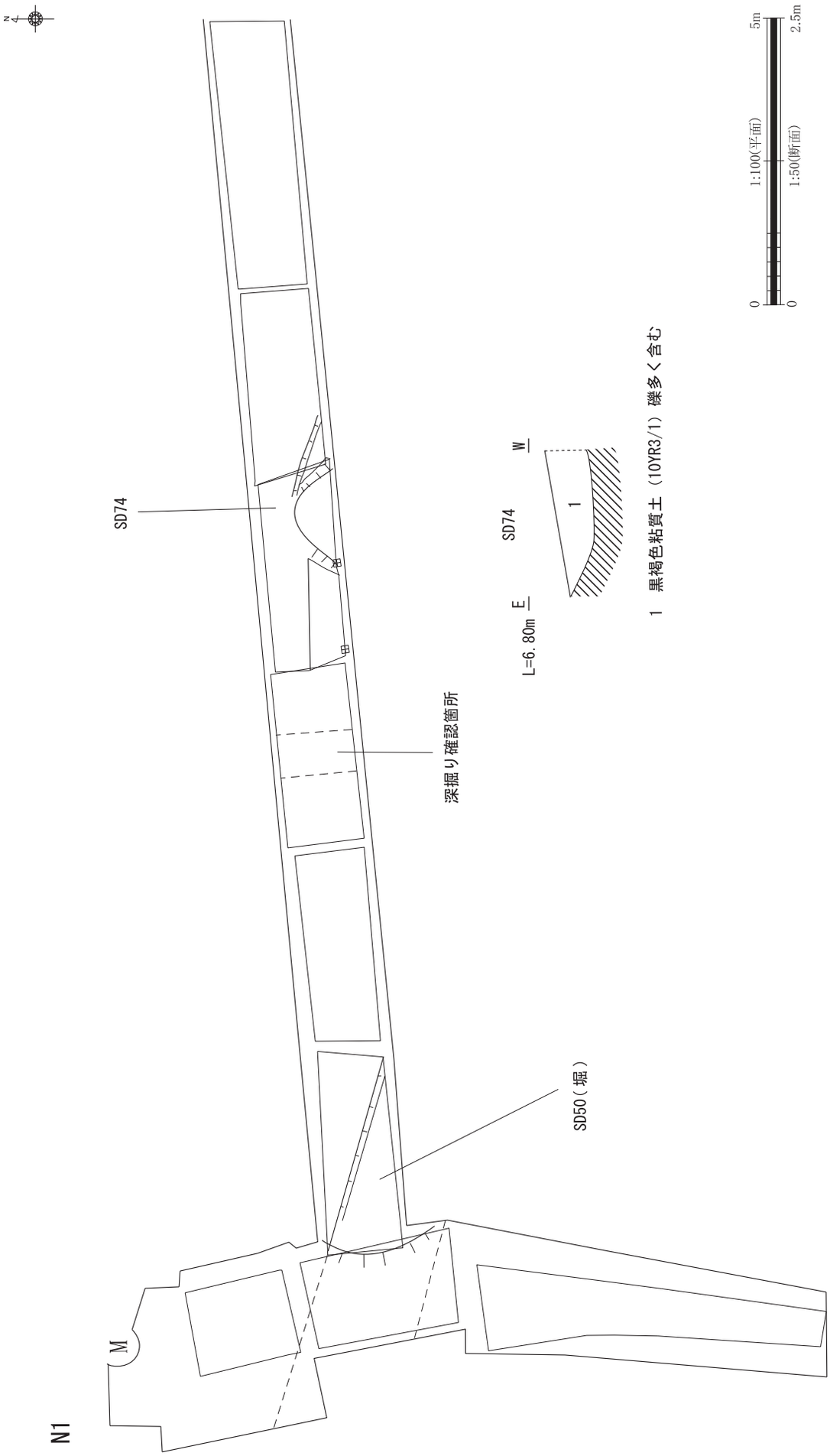


SD34
1　褐灰色土（10YR4/1）

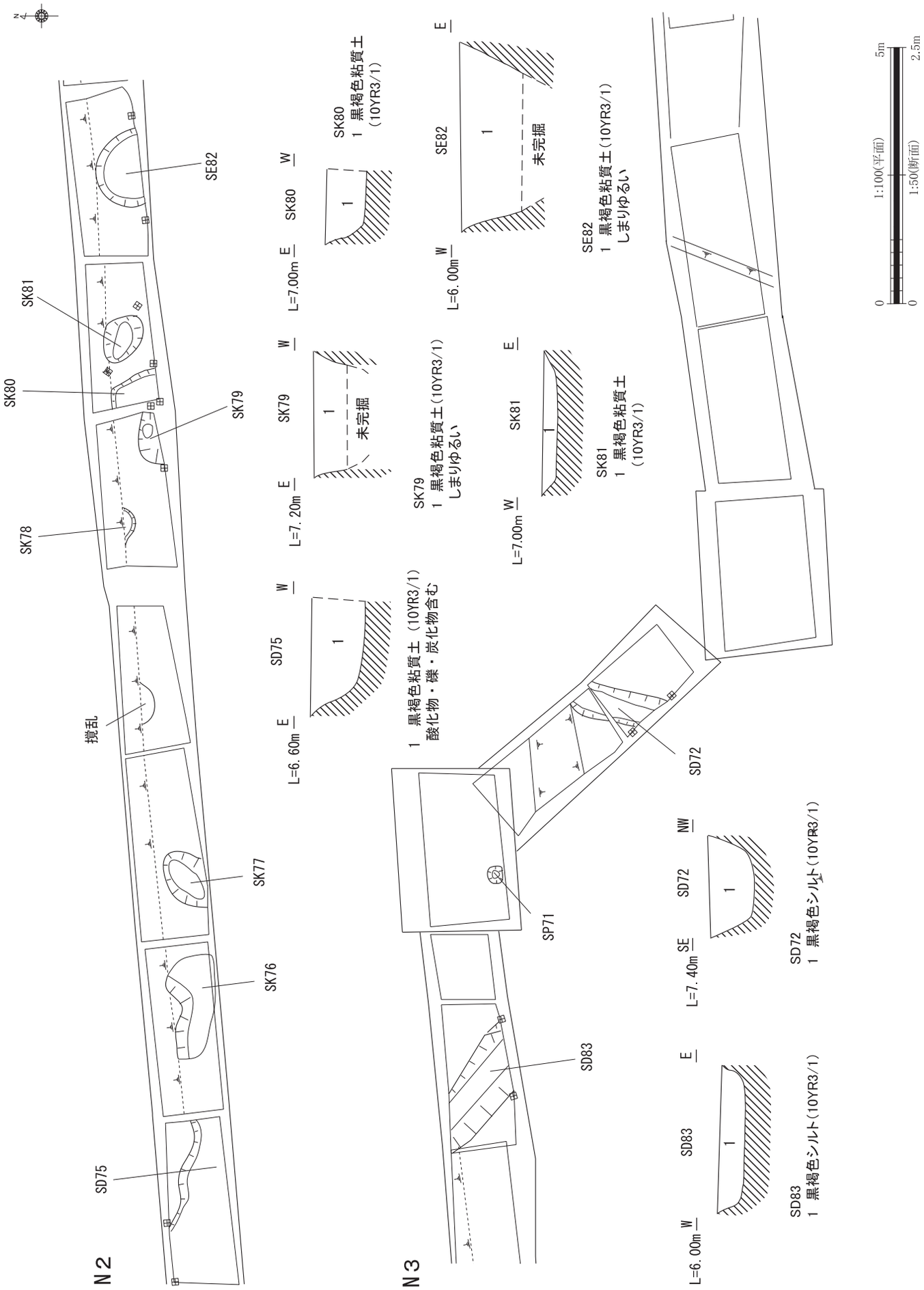


SK28
1　褐灰色土（10YR4/1）

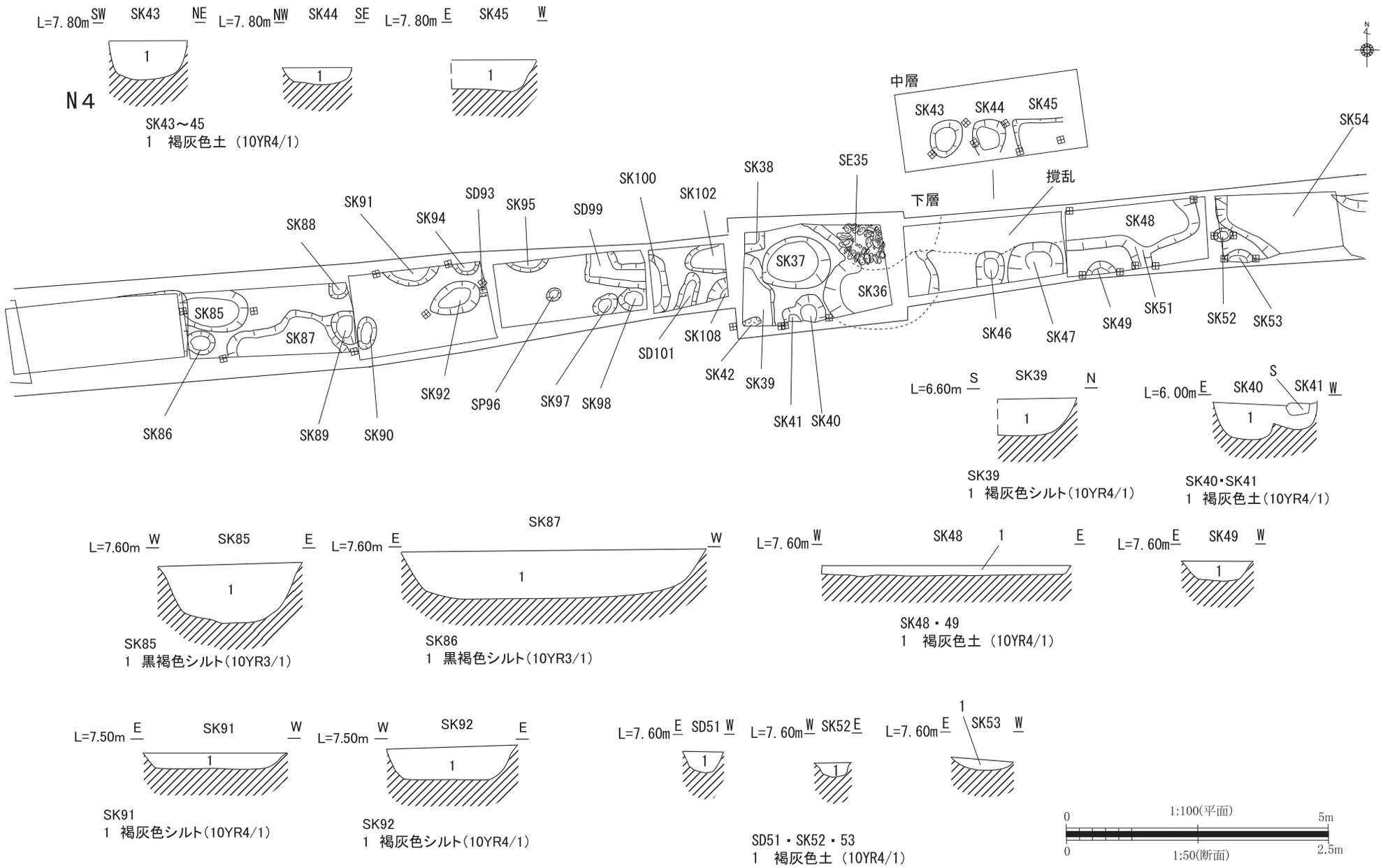




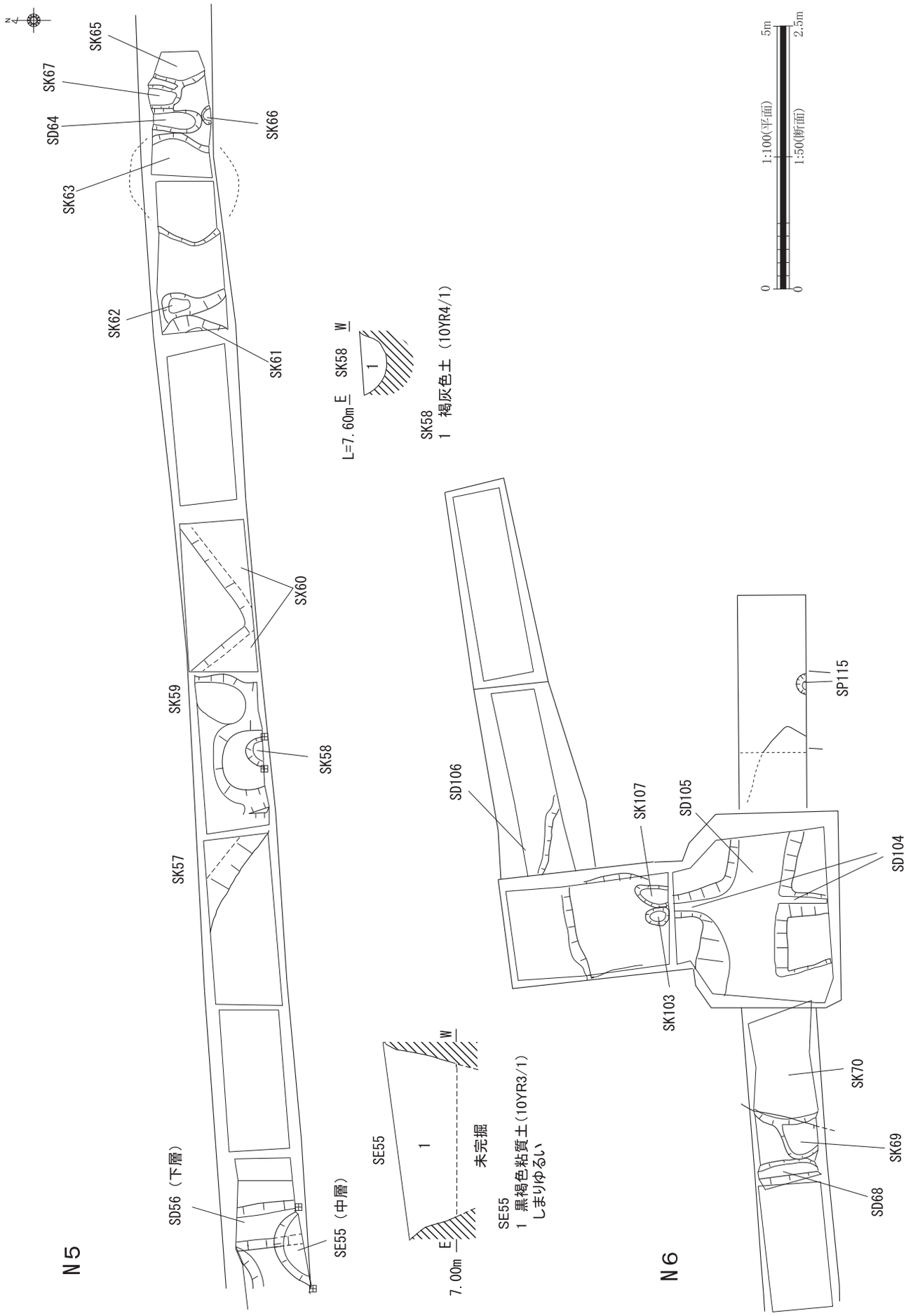
第９図　調査区ブロック･遺構断面図４（N1）



第10図　調査区ブロック・遺構断面図5（N2・3）



第11図 調査区ブロック・遺構断面図6（N4）



第12図 調査区ブロック・遺構断面図7（N5・6）

第４節　遺物

遺物は、中近世土師器、珠洲、越前、瓷器系陶器、中国陶磁器（白磁・染付）、瀬戸美濃、越中瀬戸、京焼、京・信楽系、唐津、伊万里、近世・近代陶磁器、瓦、石製品（硯・砥石・石皿）、石造物（板碑・五輪塔）、土製品（陶製人形・磚）等が出土した。なかでもSK5、SK9等の旧富山市民病院の廃棄土坑からは近代陶磁器、江戸時代の廃棄土坑SK10（2期調査2-SK1000）から珠洲、越前、越中瀬戸、唐津、伊万里等が、江戸時代の整地層SD74（3期調査4-SX40）からは越中瀬戸・近世陶器等がまとまって出土した。以下では掲載した実測遺物について、遺物種類毎にまとめ、その中で遺構番号順に記載する。なお市民病院関連の廃棄土坑SK5・10から出土した近代陶磁器については、総括3節にまとめて記載した。

１．中近世土師器（159・163～165・168・169・180・181・189）

中近世土師器皿は全体で10～20点出土した。実測対象遺物の出土地点はSE30（159）、SD34（163・164）、SK40(165)、SK42（168）、SD50（169）のほか、遺物包含層3点（180・181・189）である。159は口径9.5㎝を測る。丸底から緩やかに体部が立ち上がり、端部に向かってやや外反する。遺物の時期は17世紀後半である。163は口径12㎝を測り、口縁は外反する。164は口縁が外反し、口縁端部内面上方に面を取る。遺物の時期は15世紀後半～16世紀である。165は体部が緩やかに立ち上がり、そのまま丸く納める。体部外面に幅広のナデを1段施す。168は口径8.6㎝の小型のもので、丸みを帯びた底部から緩やかに体部が立ち上がる。時期は17世紀中頃～後半である。169は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁内外面に幅広のナデを施し、端部を薄く仕上げる。遺物の時期は16世紀後半である。

２．珠洲（64）・越前（65・123）・瓷器系陶器

珠洲・越前、その他の瓷器系陶器も含め全体で5～10点出土した。実測対象遺物はSK10（珠洲：64・越前擂鉢：65）、SD11（越前：123）から出土した。64は甕で、体部外面には平行タタキが残る。65は擂鉢の底部で、使用による摩耗が激しい。123は擂鉢で、口縁内面のやや下がった位置に沈線が巡るもので、擂目は沈線まで引く。擂目は7条1単位で、上端は体部やや低めまで施す。越前Ⅴ1期で15世紀末～16世紀初のものである。

３．瀬戸美濃（140・141・177・182）

瀬戸美濃は大窯期の陶器の小破片が5点未満、近世以降の施釉陶器・19世紀以降の磁器類が10～20点出土した。実測対象遺物の出土地点はSD15（140）、SD27（141）、遺物包含層（177・182）である。

140は皿、141は碗である。140は内面～口縁端部外面に鉄釉を施す。141は磁器で、体部内外面に草花文を描く。

４．中国製陶磁器（66・190）

中国製陶磁器は、白磁（66）、染付(190)が出土した。66は皿である。森田分類C・D群で、時期は15世紀後半～16世紀である。187は漳州窯染付の皿である。口径11.4cmを測る。内外面に草花文を施す。遺物の時期は16世紀後半～17世紀である。

5．越中瀬戸（素焼・施釉）

越中瀬戸は全体で約100点出土した。器種は素焼・施釉皿、碗、鉢・擂鉢、壺、水指等がある。近世以前の遺物で最も多く出土しており、約半分を占める。大部分がSK10から出土した。そのうち実測対象遺物中42点、約7割が素焼皿である。

(1)素焼皿(67～88・124・125・142・143・160・161・183)

素焼皿は全体で約50点出土しており、主に灯明皿として使用されたもので、半数以上に油煙・煤が口縁部を中心に付着する。口径9㎝以下の小型皿と、10～12㎝で納まる中型皿がほとんどを占める。また中型皿には、体部外面下半をヘラケズリするものがある。

口径9㎝以下の小型皿は7点（67・68・124・142・143・160・161）である。67・124・142・160・161は、体部が直線的または外反気味に立ち上がる器形で、遺物の時期は18世紀後半～19世紀前半である。68・143は体部が内湾気味に立ち上がる器形で、遺物の時期は18世紀前半である。142には底部内外面を中心に被熱痕が残り、143の縁部には灯心油煙痕が残る。

口径10～12cmに納まる中型皿（69～83）は、ほとんどが底部糸切りで、体部半ばから上半にかけてやや外反する器形である。183は底部ヘラ切りで、体部が緩やかに内湾気味に立ち上がる器形である。遺物の時期は17世紀後半である。

(2)施釉皿(90・91・139・144)

90は内面に釉止めの段があるもので、灰釉を施す。17世紀初頭のものである。91は鉄釉、139は口縁内外面に灰釉を施す。144は口径7.5㎝を測る小型皿で、内面全体～口縁部外面に鉄釉を施す。底部は回転糸切りで墨書（梵字か）が残る。口唇部には灯心油煙痕が残る。

(3)鉢(92)・擂鉢(93・94・166・167)

92～94・166・167は鉢・擂鉢である。94は擂鉢の底部で、見込みに卸目を1単位で6角形を描く。鉄釉を施す。92・93は口縁端部で内面上方に面を取る。93は口縁直下まで卸目を施す。口縁端部外面が短く垂下する。1単位約1.8㎝幅7条の卸目を施す。全面に錆釉を施す。166は口縁を折り返し、端部が玉縁状を呈するもの、167は口縁の縁帯を外方につまみ出すものである。

(4)広口壺(95)・水指(145)

95は広口壺である。口径16.0㎝を測る。鉄釉を施す。145は水指の底部である。底径11㎝を測る。内外面に鉄釉を施す。

6．京・信楽系（126～128・170・176）

126～128は京・信楽系、170・176は京焼である。126は京・信楽系の灯明受皿である。内面～外面体部上半に透明釉を施す。127・128は碗である。127は腰部が膨らむ器形である。174は皿である。体部が緩やかに内湾気味に立ち上がる。170は京焼の碗である。外底面には刻印が残る。

7．唐津（96～99・146・162・191・192）

唐津は全体で約20点出土した。器種は皿、碗、瓶、火入れ、鉢、擂鉢等である。

96は菊皿で、全面に藁灰釉が施される。高台内に胎土目痕が残る。唐津1期で、遺物の時期は1580～

1600年である。97は青磁大皿である。口径25.6cmを測る。体部が緩やかに立ち上がり端部を内側に丸く納め、部分的に折縁状を呈する。内面全体～体部下部まで青磁釉を施す。唐津４期で、時期は1650～1680年代である。98は瓶で、内面に同心円状のタタキが残る。唐津１期である。99は擂鉢で、口縁端部を内側に折り曲げ、上方に受口状にする。口縁端部内外面にのみ鉄釉を施す。唐津２期で、遺物の時期は17世紀前半である。

146は三島唐津の大鉢で口径約34cmを測る。内外面に長石釉を施し、内面全体に絵付けする。口縁部内面には波状文を施す。唐津４期で、遺物の時期は18世紀前半である。162は火入れで、ケズリ高台に脚が付く。仏具の香炉のような用途が想定出来る。

191は丸碗で、内外面に長石釉を施す。192は皿で、削り出し高台。内面全体～体部外面上半に灰釉を施す。唐津１期～２期である。

8. 伊万里・波佐見・肥前系磁器（28・100～111・129～132・147～149・155～158・178）

伊万里は、波佐見、肥前系を含め約50点出土した。器種は皿・碗・湯呑・瓶・徳利等がある。その大部分がSK10、SD11、SD27からの出土である。

(1)皿（100～102・109・110・129～131）

100・129は皿、102・130は輪花皿、131は菊皿、109は波佐見の皿、101・110は波佐見の輪花皿である。100は見込みに植物文、体部内面に波状文の染付を施す。101・110は同規格で生産された輪花皿である。内外面に放射線文を施す。109は内面にねじ花文様を描く。17世紀中頃のものである。129は内外面に草花文の染付を、口唇部に口紅を施す。130は輪花皿で、草花文を染付したのち、上絵付する。上絵に金彩が用いられる高品質のものである。131は菊皿で、胎土に放射状文を施し、見込みに菊を上絵付し、内底面には銘を朱書きする。

(2)碗（28・103～105・111・132・147・155・156）・蓋（148・157）

28、103、104は体部外面に染付を施し、28の外底面には“北山”の刻印を施す。105は体部下部～高台内外面に線を4条巡らす。外底面に“大明成化年製”の銘が入る。111は波佐見青磁の丸碗で、内外面に青磁釉を施す。132は口縁部が直立する器形で、体部外面に格子文を施す。147は体部外面全体に緑色釉を施し、草文を描く。155・157はセット関係にある碗・蓋である。いずれも植物文の染付を施す。18世紀中葉以降のものである。156は口縁に向かって体部が外反する器形で、体部外面に山水の染付を施す。148は口径7cmの小型の蓋で、壺蓋の可能性が高い。上面に草文を描く。

(3)その他（湯呑：106・107、瓶：108、徳利：149、猪口：158）

106・107は湯呑である。106は胴部が張り出し、体部上半が口縁端部に向かって外傾する。体部外面に山水楼閣を描く。108は瓶か。お神酒徳利の可能性がある。体部外面にたこ唐草文を施す。内面は露胎する。江戸時代後期に盛行した。149は徳利の底部か。体部が10角形の可能性がある。外面に染付を施す。158は猪口か。体部が直立し、口縁端部のみ軽く外反する。体部外面に植物文を施す。178は底径12cmを測る。高台は削り出し高台である。体部はそのまま直立する。内面全体に鉄釉、体部外面に緑色釉を施す。

9. 近世・近代陶磁器（1～27、29～63、112～120、133～135、150～154、171・172、184～188・193・203～212・220）

器種は、皿・碗・丼・蓋・湯呑・コーヒーカップ・猪口・急須・瓶・徳利・鉢・擂鉢・壺等である。ほとんどが旧富山市民病院の廃棄土坑SK5および9からの出土である。

(1) 皿（陶器皿：1・35・36、硬質陶器皿：37～39、磁器小皿：2・3・40、磁器皿：4・5・29・41・133、輪花皿：6・7・42・43、楕円輪花皿：8・9、八角皿：44、卸皿：187、中皿：10～12、大皿：171）

陶器皿：1・35は体部がほぼ水平に伸びる平皿で、同一の規格で生産されたものである。体部内面の胎土に網目圧痕を施し、植物の鉄絵を描く。口唇部に鉄釉を巡らす。1がSK5、35はSK9から出土した。36もほぼ同様だが、見込みに別の意匠の鉄絵を施す。

硬質陶器皿：37は病院食器で、外底面にスタンプが部分的に残る。38・39は輪花皿である。38の見込みに色絵を施し、外底面には“日本硬質陶器會社”の印がみられる。39は口径24㎝を測る大皿で、内面全体に植物の色絵を施す。

磁器小皿：2・3は病院食器の小皿で、2の見込みには“富山市民病院”（赤）の上絵が、3の見込みにはスタンプ（緑）を施す。40は不整形の小皿で、見込みに胎土陰刻を、内面に染付を施す。

磁器皿：4は見込みに“富山市民病院”（緑）のスタンプがある。5は見込みに同心円状の胎土彫刻を密に施す。29は内面に植物文の染付を施す。41は洋食器で、内面古口縁部に色絵の圏線を施す。133は白磁の近代磁器で、見込みに陰刻を施す。統制陶（磁）器か。

輪花皿：6・7・42は見込みに植物文の色絵を施す。43は内面に鯛の陽刻を施し、口縁内外面に染付を巡らす。

楕円輪花皿：8・9はいずれも病院食器で、内面に“富山市民病院”（黒）の色絵を施す。

八角皿：44は口縁部内面に染付を巡らす

卸皿：187は卸皿で、内外面に布目を施す。

中皿：10～12はいずれも病院食器で、見込みに“富山市民病院”（緑）のスタンプを施す。

大皿：171は口径27㎝以上の大皿で、内面全体に花文を施す。

(2) 碗（13・14・30・45～47・112・134・150・151・184・186・203）

13・14は病院食器で、いずれも外面口縁部に2重圏線を巡らし、13の外面には“富山市民病院”（緑）のスタンプを施し、14の外面には“富山市民病院”（赤）の上絵を施す。30は印判手である。外面に網目文を施す。45は口縁端部が外反する器形で、外面体部上半に連弁文を陰刻する。口縁に染付、体部内面に染付・色絵を施す。46・47は同規格で製作されたもので、胎土外面全体に七宝花菱文の陽刻を型押ししたうえ、高台には連弁文を陰刻し、内面に上絵を施す。47には上絵に金彩もみられる。112は18世紀前半のものである。134には外面に染付・鉄絵を施す。150は外面に植物文を施し、外底面に角福の印が残る。151は外面に色絵を施す。184は天目茶碗である。S字口縁で、口径に対する器高が低い。内面～外面体部上半に厚く鉄釉を施す一方、体部下半～高台は露胎で錆釉を施さない。越中瀬戸の可能性が高い。186は内外面に透明釉を施し、内面口縁端部の釉をカキ取る。外面に染付を施す。203は病院食器で、外面に“富山市民病院”（赤）の上絵を施す。

(3)丼(15～20・31・49～52・204・206)

15～18はいずれも体部外面に染付・色絵・鉄絵のいずれかを施すものである。15は染付・鉄絵を、16は“富山市民病院”(緑)スタンプを、17は色絵を、18は“富山市民病院”(赤)の上絵を施すもので、それぞれ22～24の蓋とセット関係にある。19、31、204、206は18と同じ上絵を施す。20は統制陶磁器で、外底面に“岐961”を刻印する。52は15と同じ意匠の染付・鉄絵を施す。49は胎土外面に微塵格子の陰刻、色絵を施す。50は胎土外面前面に梅花の陽刻を型押しする。49と54、50と55は身と蓋のセット関係にある。

(4)蓋(碗蓋・丼蓋:21～24・48・53～57・185・205)

21は碗蓋である。内外面に染付を施し、ツマミ内側にスタンプを押す。22～24、54～56は丼とセット関係にある。53は陶器蓋で、上面に沈線を5条巡らす。57は上面に染付を施す。185は陶器蓋で、上面に染付を施す。

(5)湯呑(25・26・58・59)・コーヒーカップ(27)・猪口(113)

25・26は病院食器である。25は体部外面に“富山市民病院”(緑)スタンプを施す。58・59は同規格で製作された湯呑みで、体部外面に染付を施す。27は口縁部外面に緑釉で草花文を描き、外底面に“ノリタケ”のスタンプを押す。

(6)急須(32)・瓶(152・188・207～212・220)

32は外面に赤絵を上絵付する。152は体部片で、体部外面全体に透明釉を施し、染付で植物文を描く。188はウィスキー瓶で、外面に英語表記が残っていることから、輸入陶磁器の可能性が高い。207～212・220は薬業関係の瓶で、体部外面に207は“日精堂”、208は“高村薬”の文字を施し、209・220には“院”の文字の一部が残る。

(7)鉢・擂鉢(33・34・60～63・114～118・172)

鉢:33は外面に色絵付を施す。62は内外面に渦巻文を施す。63は内外面に染付を施す。外面は印判である。114は内外面に染付を施す。118は鉢の脚部である。外面に雲文の印刻を施す。

輪花鉢:115は統制陶器(磁器)の輪花鉢である。底部は蛇の目高台を模している。内外面に染付を施し、内面の一部文様及び外面腰部に“岐933”のスタンプを押す。遺物の時期は1940～1946年である。

輪花小鉢:60・61は口紅を上絵付し、体部外面に貨幣文の陽刻と、内外面に染付を施す。内面には金彩を含め、上絵付する。

擂鉢:117は小片である。172は1単位幅3.4cm8条の卸目を内面に密に施す。

植木鉢:34は植木鉢か。外面に染付を施す。162は陶器の鉢である。高台外側に脚を貼り付ける。体部内外面に鉄釉を施す。

(8)その他(119・120・135・153・193)

119は火皿である。口径33.2cmを測る。120は擂鉢である。口縁の特徴から、近世備前または信楽の可能性がある。135は不明陶器の蓋である。口径6.3cmを測る。上面に染付を施す。153は不明陶器である。京・信楽系のミニチュアか。口径6cm、器高2.2cmを測る。把手を持つ。内面～体部外面下部全体に透明釉を施す。154は耳付壺か。陶胎染付で産地は不明である。口縁が露胎する。外面白色釉下地に絵付けを行う。193は大皿である。体部はケズリ調整、見込みに焼台跡外底面に墨書がみられる。

10. ガラス瓶(213～219)

213は方形の褐色ガラス瓶、214～217は断面円形の青みのある透明ガラス瓶、218・219は断面楕円形の透明ガラス瓶で、それぞれが同規格で作成された水薬の瓶である。213の体部両面に各々「トヤマ神薬」「株式會社廣貫堂」の文字を、214～217の体部正面に「富山病院」「□製」の文字、側面に10・20・30の目盛を、218・219の体部正面に「日本赤十字社富山支部病院」の文字、側面に目盛を施す。

11. 瓦器(179)・瓦(136～138)

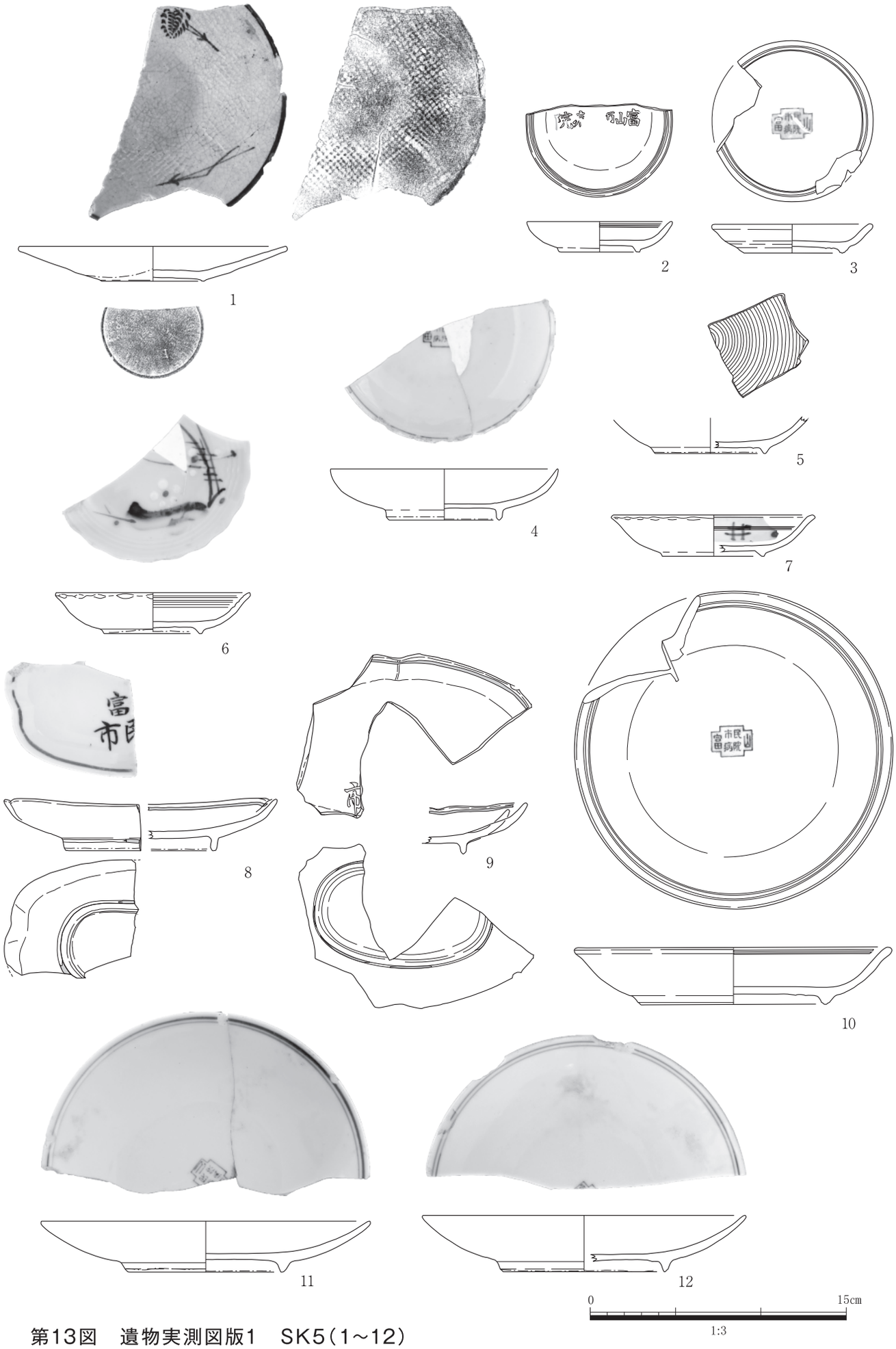
179は蓋である。ツマミ部分は欠損している。煤が付着する。136～138は燻瓦の桟瓦である。

12. 土製品(122)

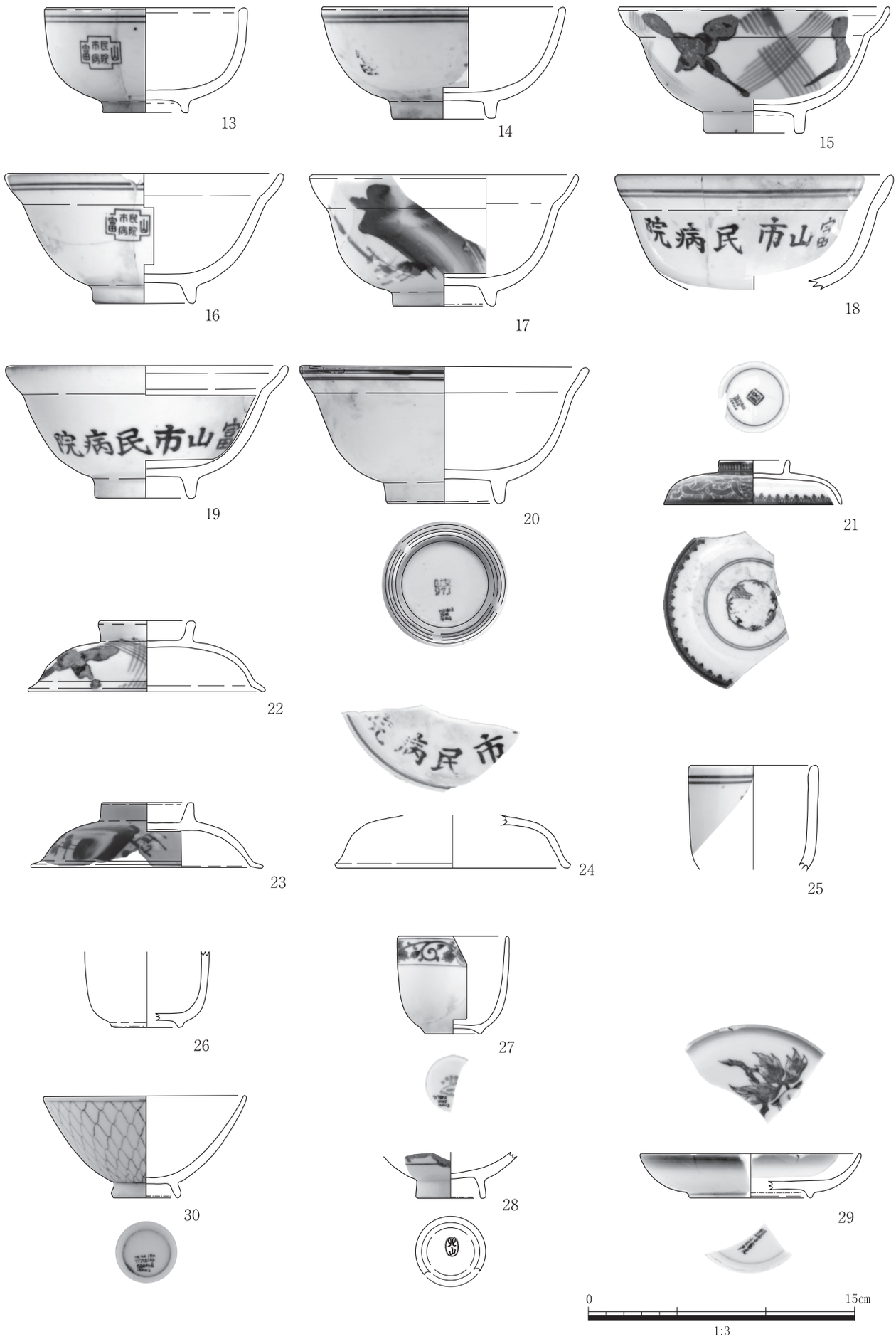
122は陶製人形である。座った人物を象ったもので、上絵が施す。

13. 石製品・石造物(121・173～175・195)

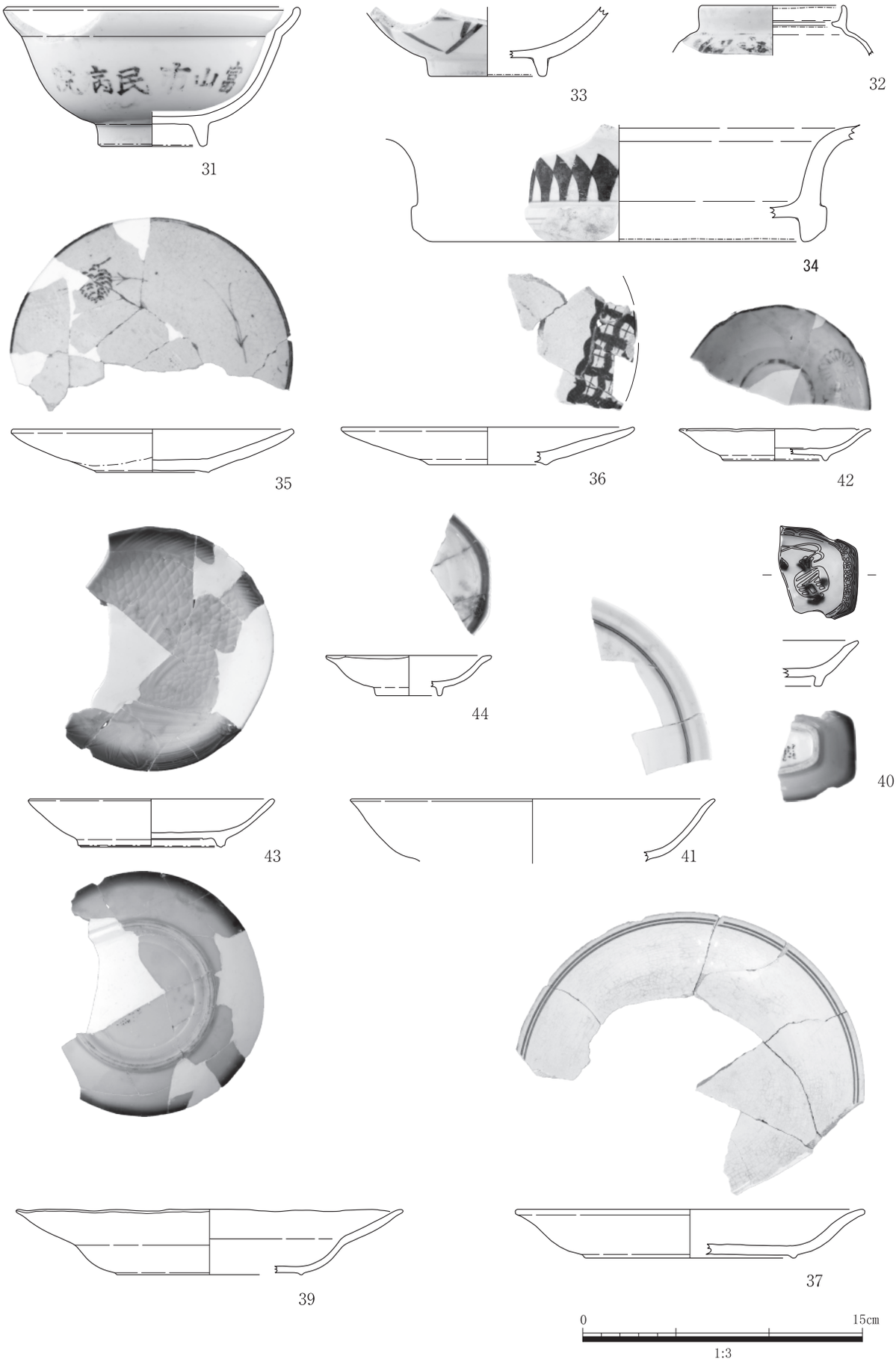
121は砥石である。目が細かく、仕上げ砥と考えられる。173は石硯である。泥岩製で、短軸5.2cmを測る小型のものである。174は板碑である。砂岩製で表面の摩耗が激しく外面加工は確認できない。長軸36.5cmを測る。175は五輪塔の火輪と考えられる。195は石皿である。　(朝田)



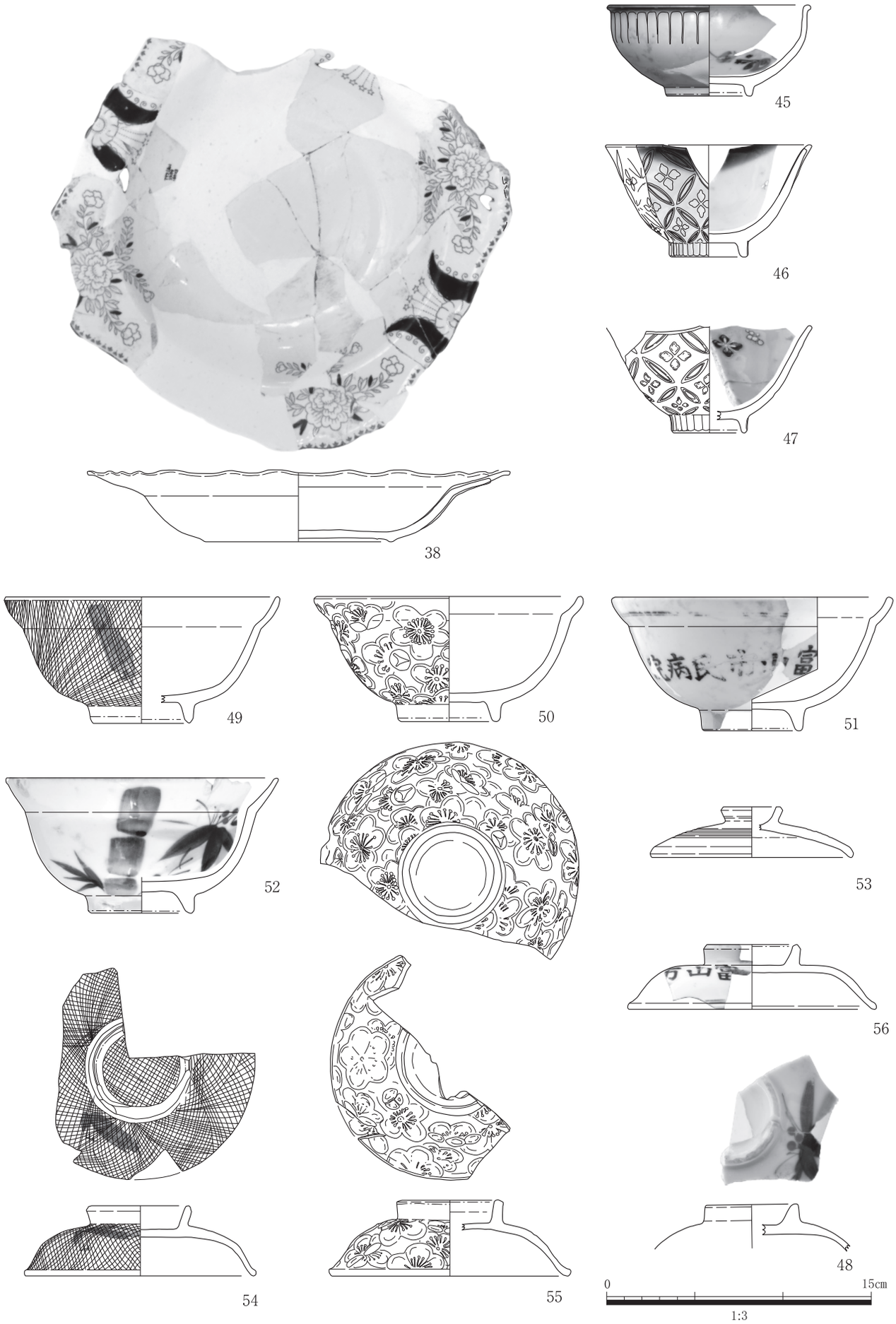
第13図　遺物実測図版1　SK5（1～12）



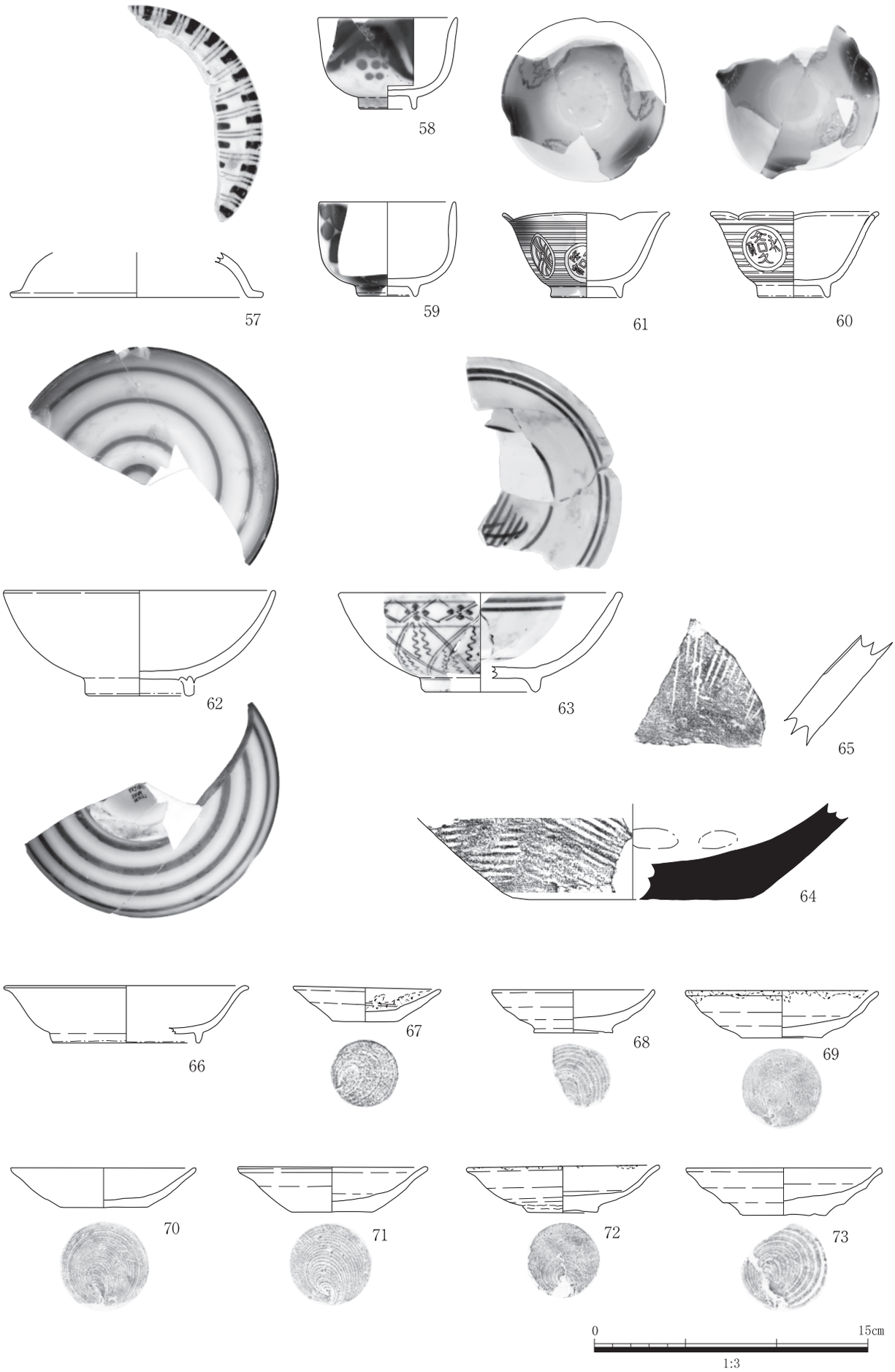
第14図　遺物実測図版2　SK5（13～27）、SD8（28～30）



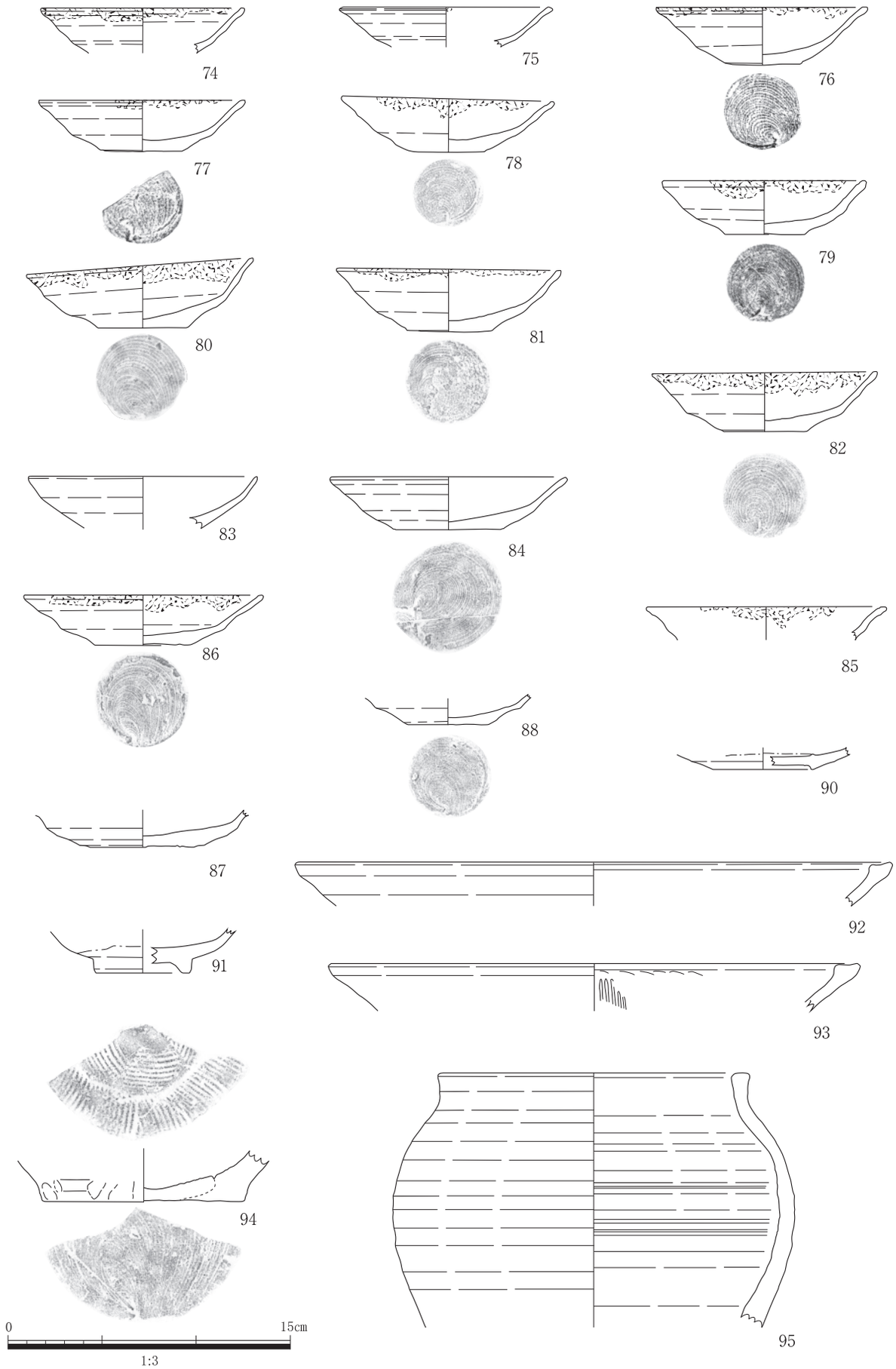
第15図　遺物実測図版3　SD8(31～34)、SK9(35～37・39～44)



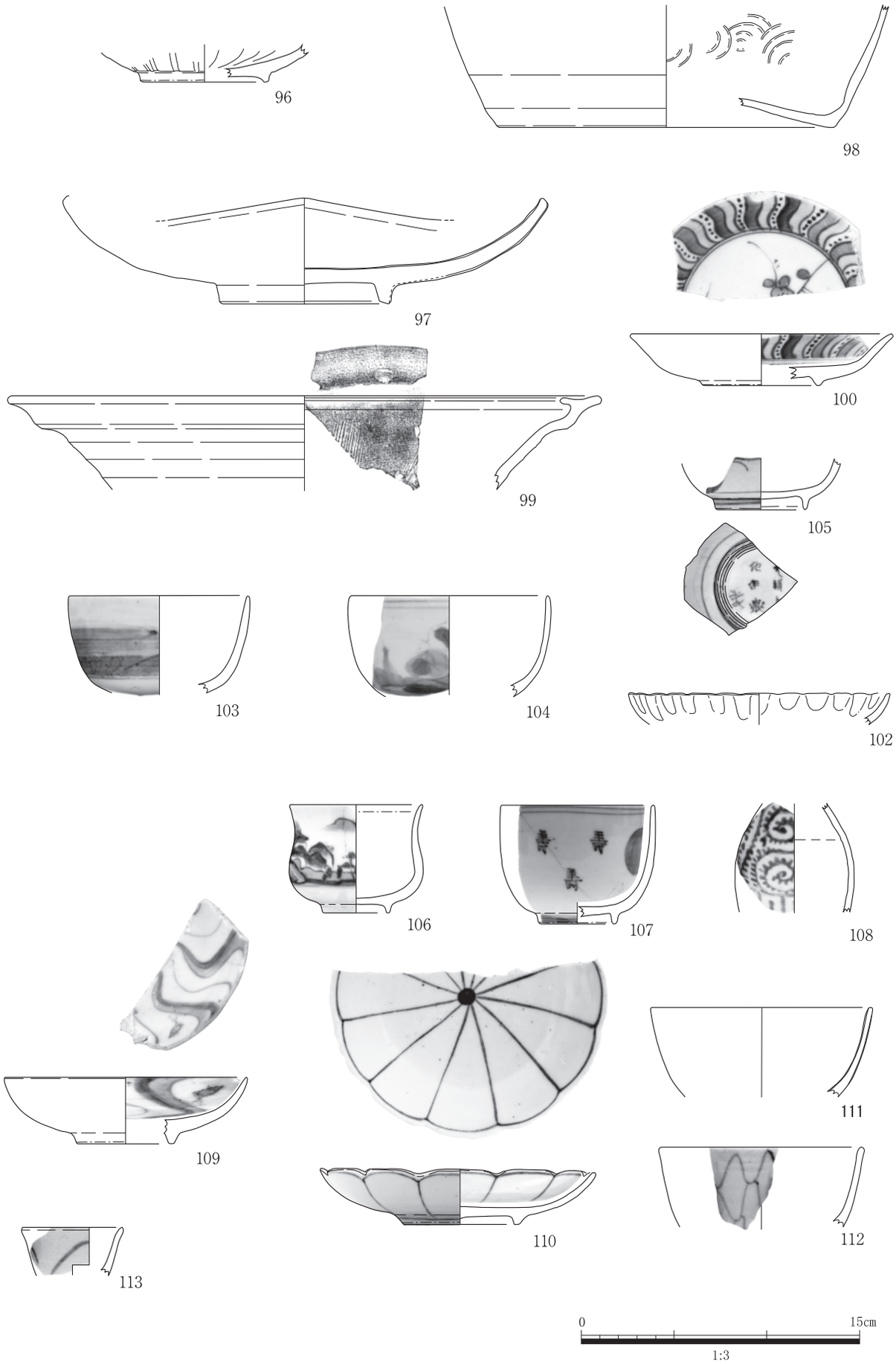
第16図　遺物実測図版4　SK9（38・45～56）



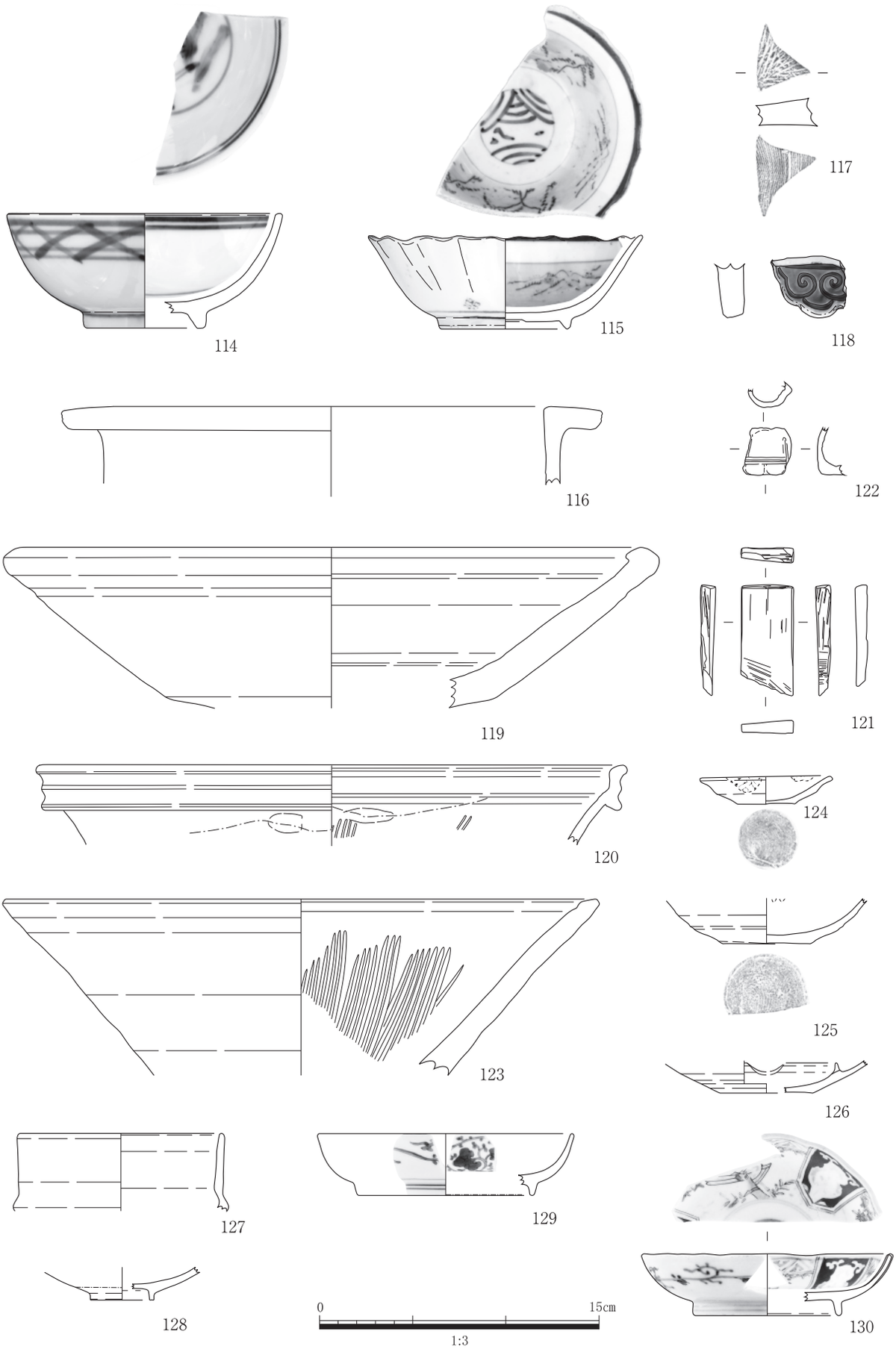
第17図　遺物実測図版5　SK9(57～63)、SK10(64～73)



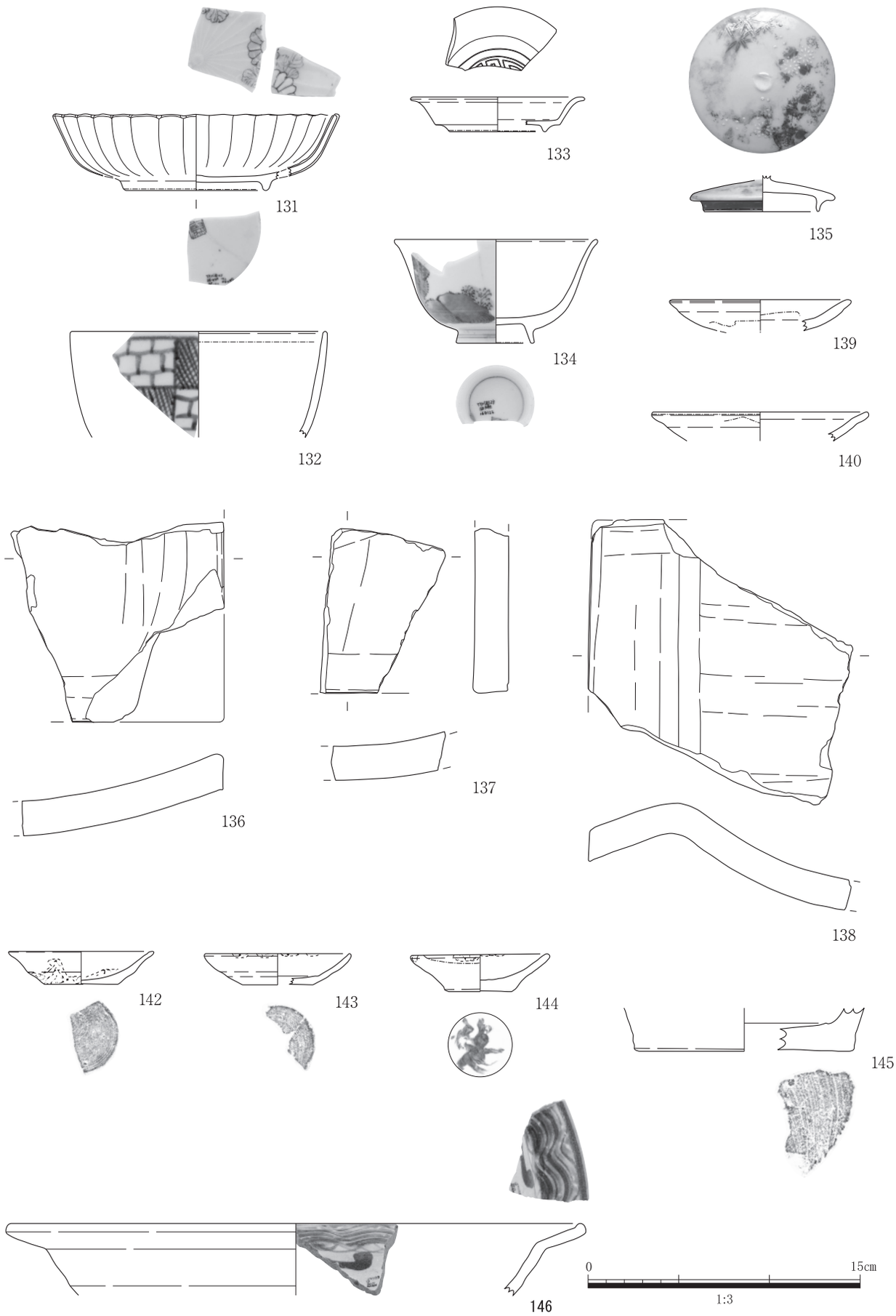
第18図　遺物実測図版6　SK10（74～88・90～95）



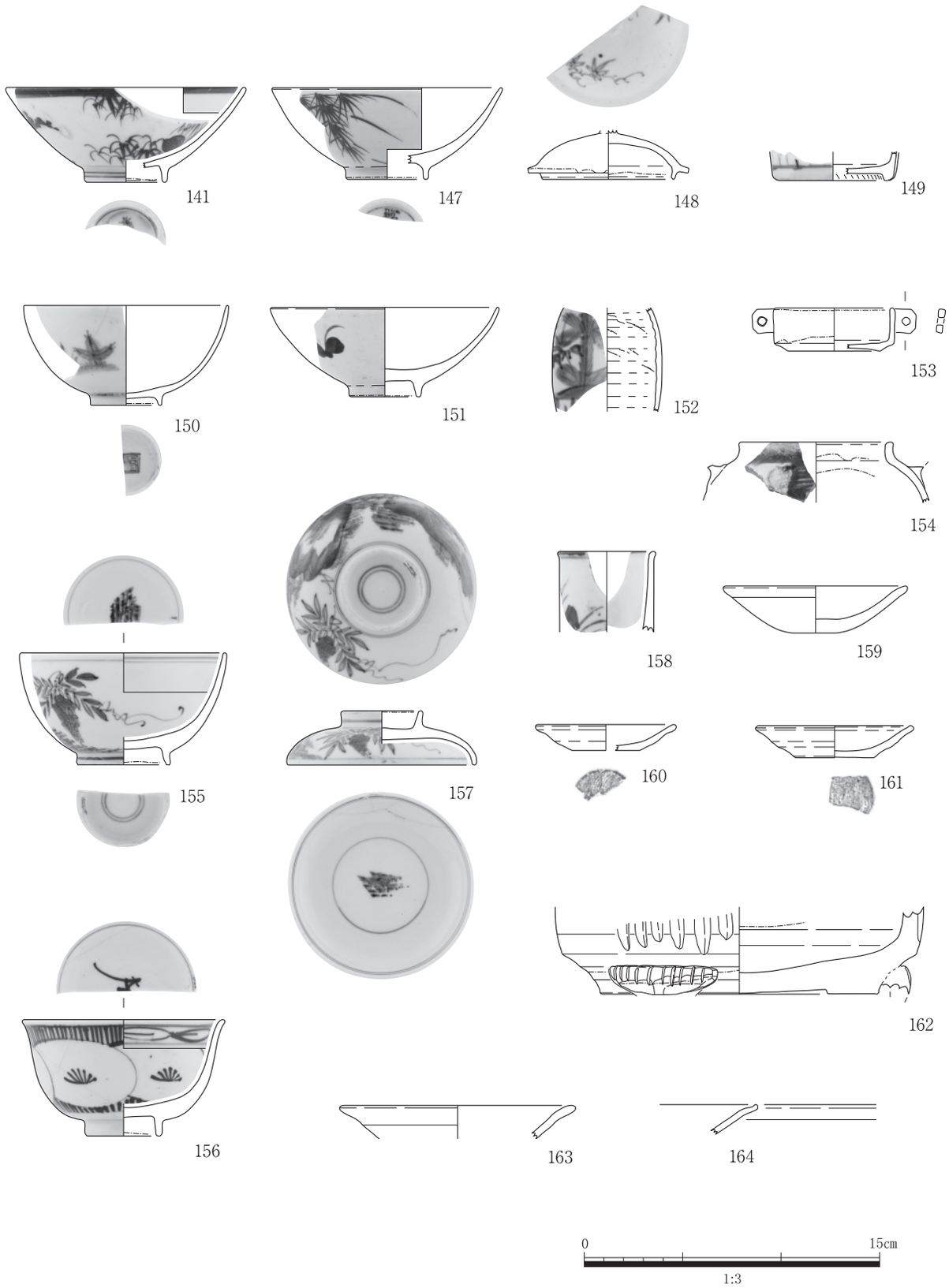
第19図　遺物実測図版7　SK10（96～100・102～113）



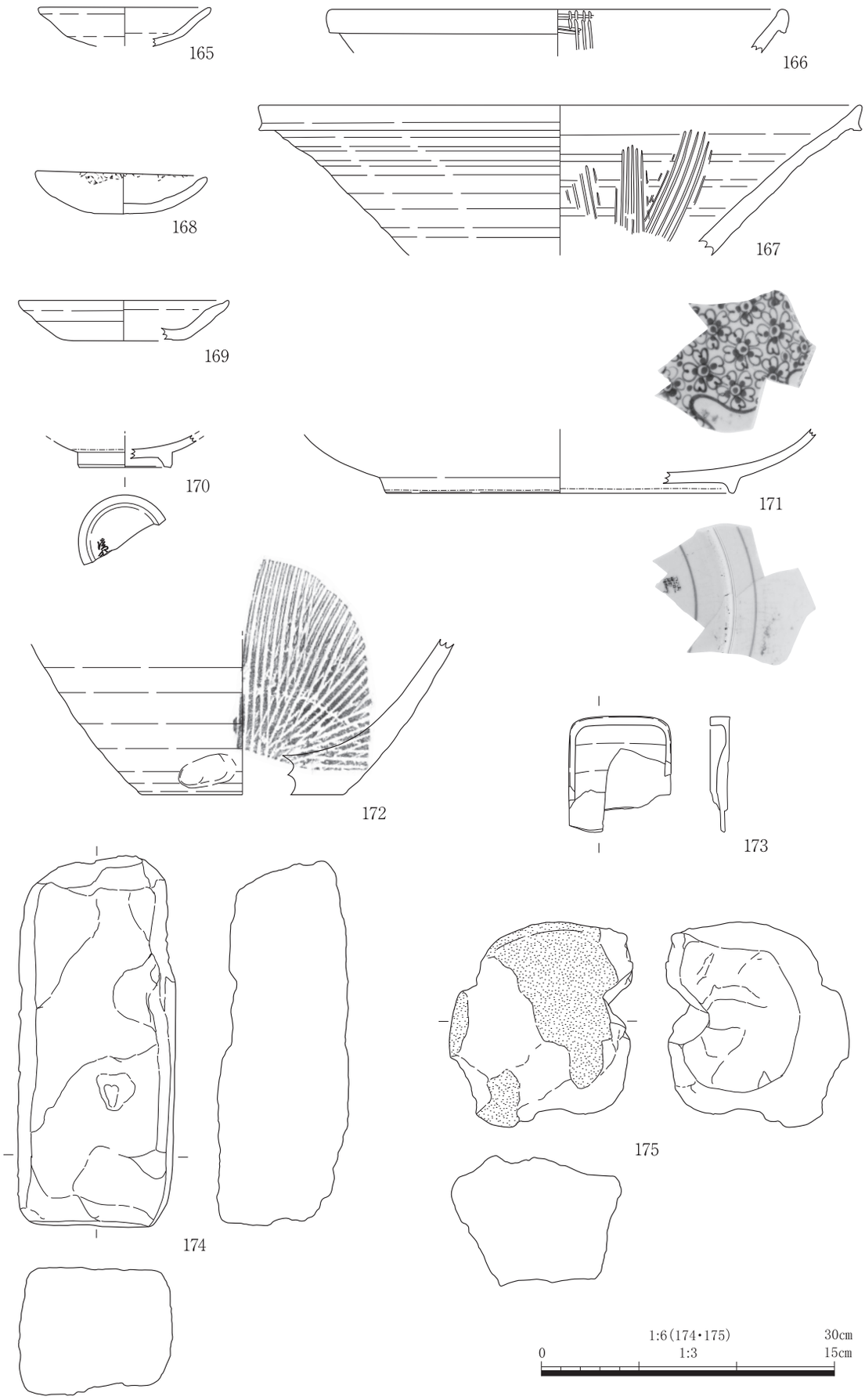
第20図　遺物実測図版8　SK10（114～122）、SD11（123～130）



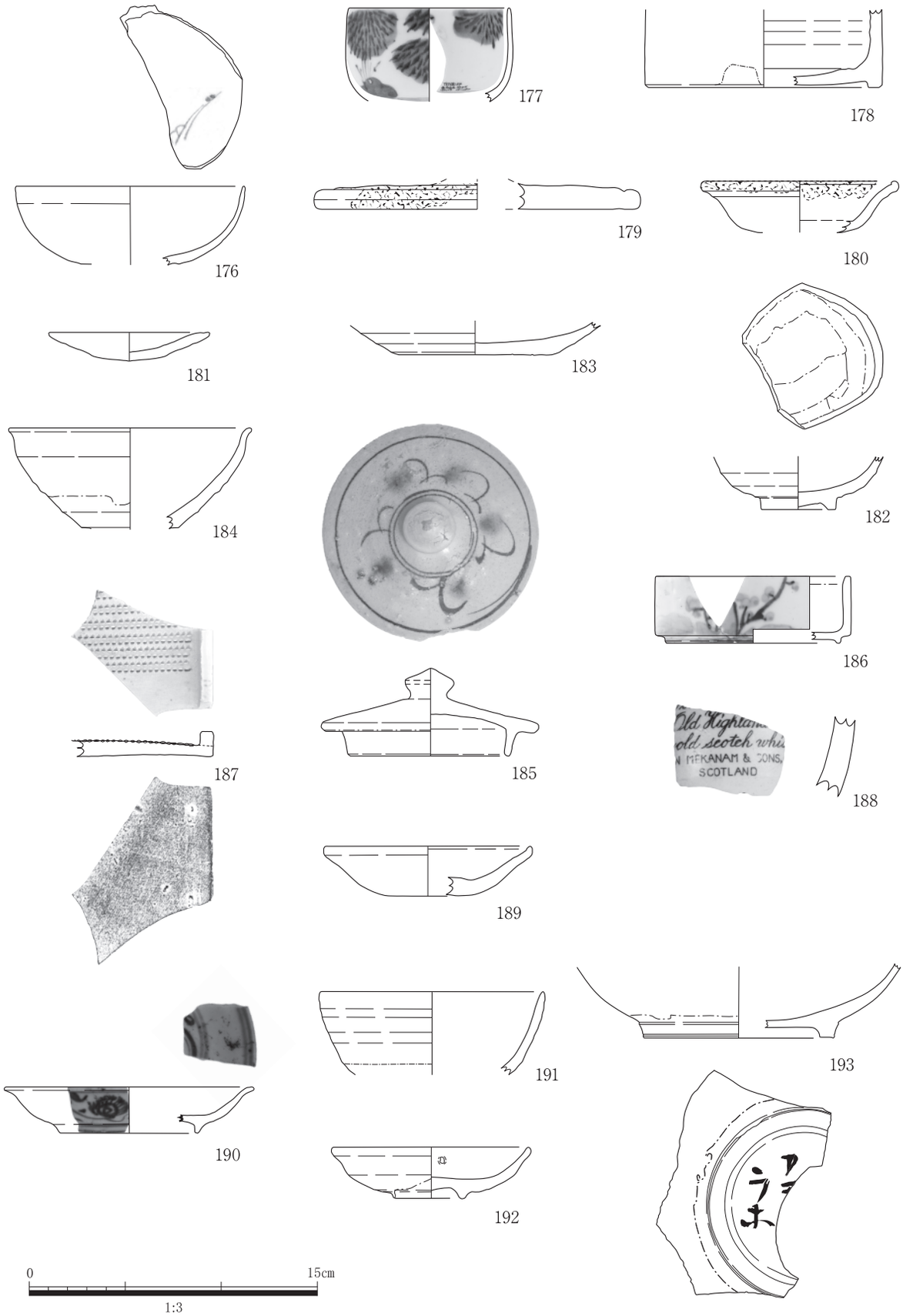
第21図　遺物実測図放9　SD11（131～138）、SD13(139)、SD15(140)、SD27(142～146）



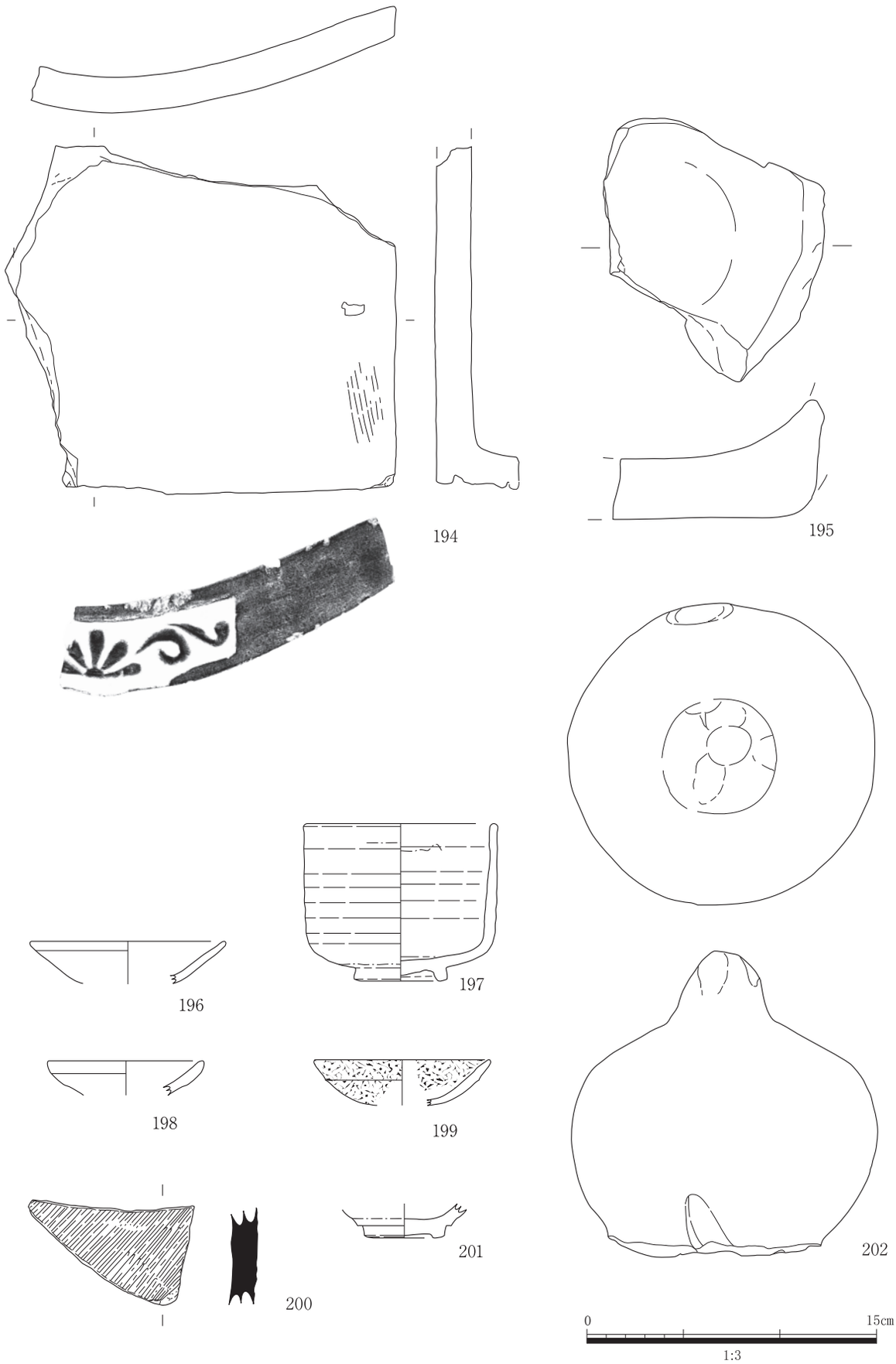
第22図　遺物実測図10　SD27（141・147～154）、SK28（155～158）、SE30（159）
SE31（160）、SK32（161・162）、SD34（163・164）



第23図　遺物実測図11　SK40(165～167)、SK39(168)、SD74・75(169～175)



第24図　遺物実測図12　SE55（176）、遺物包含層（177～193）



第25図　遺物実測図13　撹乱、排土（194・195）、内堀（196～202）

第４章　2016年度・2017年度工事立会（西ノ丸）

第１節　工事立会の方法

2016c調査区は2011c調査区南東辺に隣接し、直径5.0mの立坑を掘削した。2017調査区は2011c調査区の東北東約75mに位置し、直径9.0mの立坑を掘削した。

立坑の掘削は、上部はバックホウ、その後小型バックホウ及び人力で行い、1m毎に土留である高さ50㎝のライナープレート2段を設置しながら深度を深くしていった。掘削時には埋蔵文化財センター職員が立会い、遺構・遺物が確認された際はその都度、手作業により掘削した。

第２節　遺構

内堀　2016c調査区では、10層の地山である灰黒褐色粗砂が調査区南端では標高4m、北端では標高2.5mで検出でき、富山城西ノ丸北側内堀の南法面を確認した。

2017調査区では内堀の北法面を確認した。内堀は、9層の灰褐色粗砂混じり礫層を掘り込んで形成されており、9層が北法面となっている。標高1.2mで箱堀の堀底を確認した。

内堀の埋土は、上層（1層）は富山大空襲の戦災瓦礫層、中層（2～6層）は灰褐色／オリーブ黒色シルトを基調とする江戸時代から戦後直後までの内堀への自然堆積層である。6層と7層の境から近世土師器（196）、越中瀬戸（197）などが出土した。下層（7層）の黒褐色粘質シルトは2017調査区でのみ確認でき、内堀最下層の自然堆積層である。8層の黒褐色砂質シルト混じり礫層は北法面付近に堆積しており、9層の崩落土の堆積である可能性が考えられる。

一方、2017調査区の標高2m付近からは内堀とは違う北側への落ち込みが確認でき、近世富山城以前の堀である可能性が考えられる。その落ち込みには9層が分厚く堆積する。9層から須恵器、古代土師器、中世土師器（198、199）、珠洲（200）、瀬戸美濃（201）、空風輪（202）などが出土した。

第３節　遺物

内堀からは、須恵器、古代土師器、中近世土師器、珠洲、瀬戸美濃、越中瀬戸、近代磁器、燻し瓦、空風輪などが出土した。

１．中近世土師器

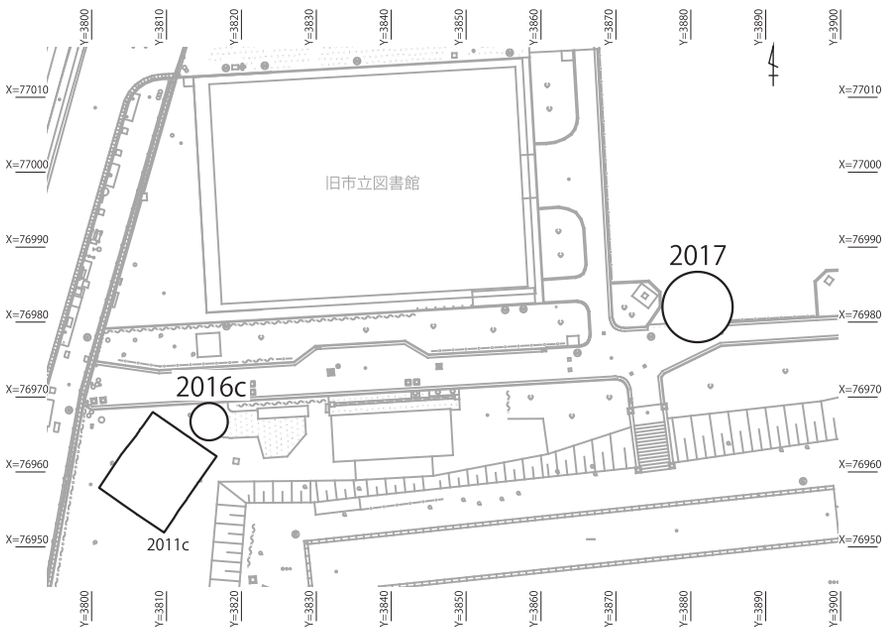
196は丸底から体部が緩やかに立ち上がり、口縁端部を丸く納める。時期は18世紀以降と考えられる。198は体部が緩やかに内湾して立ち上がり、口唇部外面にナデを1周させる。199は丸底で深みのある底部から体部が緩やかに内湾し、口縁部はヨコナデで外反する。口縁端部は丸く納める。198・199の時期は15世紀後半である。

２．中近世陶磁器

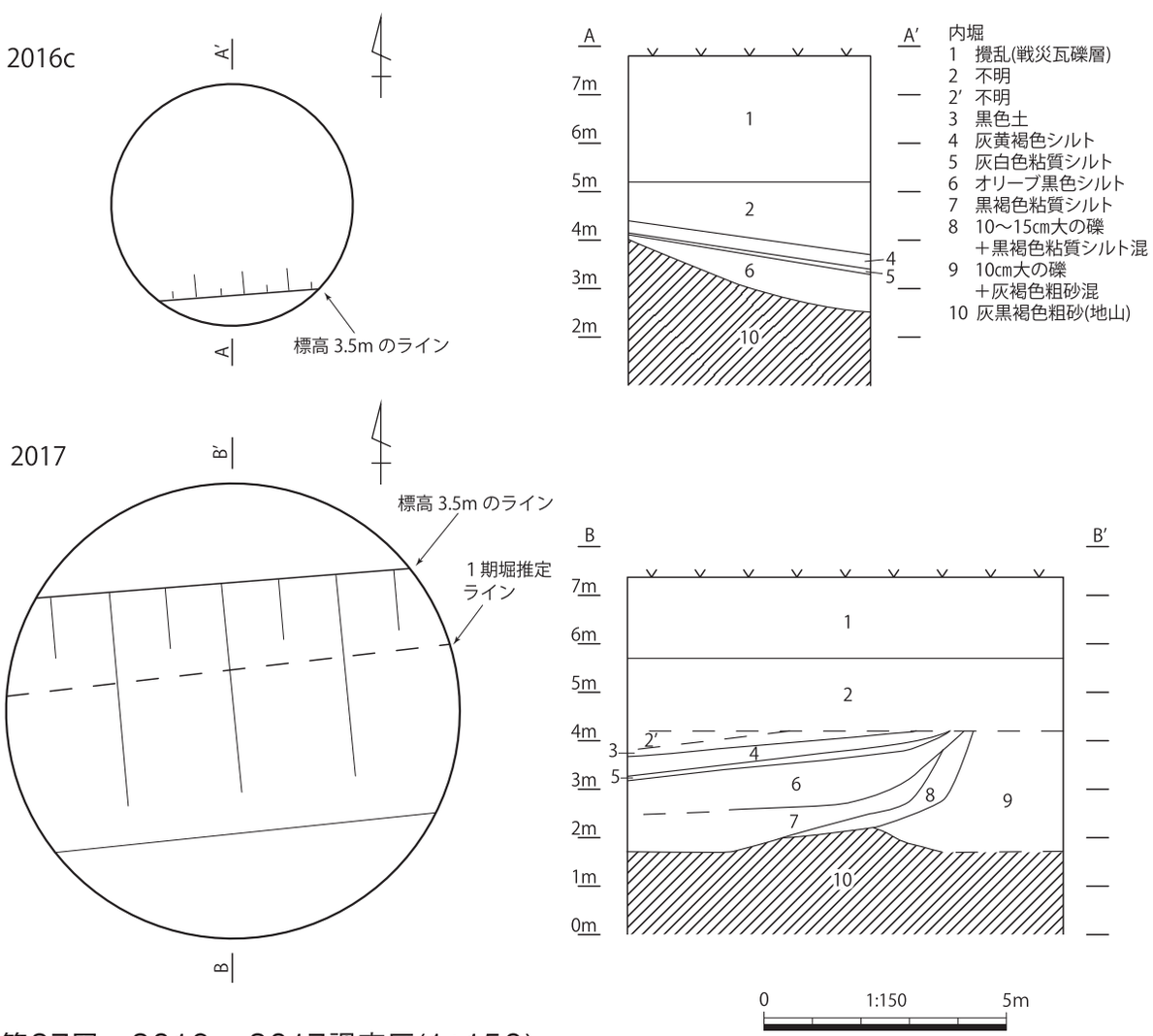
197は越中瀬戸の筒形碗である。高台付近を除き全面に褐色の鉄釉を施し、口縁部に黒色の鉄釉を重ねる。時期は18世紀以降と考えられる。200は珠洲の甕である。201は瀬戸美濃の天目茶碗である。大窯Ⅱ期のものである。

３．その他

195は燻し瓦の軒桟瓦の軒平部分である。文様は、中心飾りが菊花文で、その左右に唐草文を配する。202は五輪塔の空風輪で、風輪部分が欠損している。残存する空輪の突起の形状及び上半が膨らむ体部の形状から、室町時代のものと考えられる。



第26図　調査位置図(1:1,000)



第27図　2016c･2017調査区(1：150)

第２表　遺構一覧表

遺構No.		長径・幅	短径・長さ	深さ	検出面	図	出土遺物	備考
		（m）						
SK	1	0.87	(0.32)	0.084	上層	E2		近代
SK	2	0.57	(0.30)	0.14	中層	E2		近代
SP	3	0.32	0.30	0.17	下層	E2		近代
SP	4	0.20	0.21	0.19	下層	E2		近代
SK	5	1.00	(0.22)	0.41	上層	E2	近代陶磁器	近代：旧市民病院廃棄土坑
SK	6	0.82	(0.30)	0.16	下層	E2		
SK	7	(1.3)	(0.78)	0.07	下層	E2		
SD	8	1.20	(1.2)	(0.38)	上層	E1	伊万里・近代陶磁器	近代：石組水路
SK	9	1.00	(0.30)	0.40	上層	E2	近代陶磁器	近代：旧市民病院廃棄土坑
SK	10	4.80	(0.12)	0.24	中層	E4	珠洲・越前・中国白磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・近代陶磁器・不明陶磁器・石製品（砥石）・土製品（陶製人形）	近世：江戸時代廃棄土坑
SD	11	(0.66)	(1.2)	(0.21)	中層	E4	越前・越中瀬戸・京信楽系・唐津・伊万里・近代陶磁器・不明陶磁器・瓦	近世：2-SD470（新）、4-SD52と同一
SK	12	1.32	(0.33)	(0.26)	中層	E4		近世：SK12＞SD13＞SE21
SD	13	0.45	(0.99)	(0.23)	中層	E4	越中瀬戸・不明陶磁器	近世：SK12＞SD13＞SE21
SK	14	(0.96)	(0.59)	(0.15)	中層	E4		近世：SD15＞SK16＞SK14
SD	15	(0.31)	(1.73)	(0.23)	中層	E4	瀬戸美濃・不明陶磁器	近世：SD15＞SK16＞SK14
SK	16	(0.78)	(0.76)	(0.18)	中層	E4		近世：SD15＞SK16＞SK14
SK	17	0.90	(0.76)	(0.21)	下層	E4		近世以前：SD11北肩部下で検出
SK	18	0.48	(0.22)	(0.26)	下層	E4		近世以前：SD11北肩部下で検出
SK	19	1.47	0.87	(0.23)	下層	E4		近世以前：SD11北肩部下で検出
SK	20	1.40	(0.30)	(0.13)	下層	E4		
SE	21	1.21	(0.96)	(0.25)	下層	E4		近世：SK12＞SD13＞SE21
SD	22	0.42	(0.65)	(0.18)	下層	E4		
SD	23	(1.53)	(1.2)	0.61	下層	E4		
SP	24	0.16	0.15	0.15	下層	E4		
SD	25	1.07	(1.20)	0.15	下層	E4		
SK	26	0.26	0.26	(0.13)	中層	E5		近代？：SK26＞SD27
SD	27	5.43	1.02	(0.23)	下層	E5	瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津・伊万里・近世近代陶磁器	近世：SK26・28＞SD27
SK	28	0.80	(0.41)	0.26	中層	E5	伊万里	近代？：SK28＞SD27・SE30
SK	29	0.30	0.30	0.33	中層	E5		
SE	30	1.50	(0.53)	0.64	下層	E5	中世土師器	中世
SE	31	0.91	(0.37)	(0.37)	中層	E5	中世土師器・越中瀬戸	近世
SK	32	(1.50)	(1.20)	0.30	中層	E5	越中瀬戸・唐津	近世
SK	33	0.52	(0.35)	0.06	中層	E5		近世：SK33＞SD34
SD	34	1.81	(1.20)	0.17	下層	E5	中近世土師器	近世：SK33＞SD34
SK	35	2.04	(0.74)	0.23	中層	N4		中世：石組井戸
SK	36	2.21	(1.04)	0.31	下層	N4		
SK	37	1.31	0.97	0.14	中層	N4		
SK	38	(0.40)	(0.40)	0.13	下層	N4		
SK	39	(0.34)	(0.71)	0.14	下層	N4	中近世土師器・瀬戸・越中瀬戸	近世
SK	40	(0.53)	(0.64)	0.29	下層	N4	中近世土師器・越中瀬戸	近世
SP	41	(0.31)	(0.38)	0.14	中層	N4		
SK	42	(0.89)	(0.63)	0.13	中層	N4		
SK	43	(0.74)	(0.60)	0.34	中層	N4		
SK	44	(0.64)	(0.67)	0.23	中層	N4		
SK	45	(0.95)	(0.59)	0.24	中層	N4		
SK	46	(0.63)	0.53	0.24	中層	N4		
SK	47	1.04	(0.57)	0.29	中層	N4		
SK	48	(2.51)	(0.74)	0.18	下層	N4		
SK	49	0.55	(0.23)	(0.16)	下層	N4		
SD	50	(3.00)	(1.20)	(0.65～)	中層	N1		近世：SD74・75＞SD50／=堀4-SD60
SK	51	0.42	(0.46)	0.20	下層	N4		
SK	52	0.35	0.26	0.14	中層	N4		
SK	53	0.57	(0.24)	0.8	中層	N4		
SK	54	(2.32)	(1.22)	0.15	中層	N4	砥石	
SE	55	1.46	(0.58)	0.58	下層	N5	京焼	近世
SD	56	0.86	(1.24)	0.54	中層	N5		

遺構No.		長径・幅	短径・長さ	深さ	検出面	図	出土遺物	備考
		(m)						
SD	57	(1.71)	(0.58)	0.39	下層	N5		
SK	58	(0.58)	(0.32)	0.59	下層	N5	土師系陶器・瓷器系陶器・磚	
SK	59	(1.12)	(1.35)	0.14	下層	N5		
SX	60	(1.02)	2.43	0.39	下層	N5		
SK	61	1.22	(0.33)	0.16	中層	N5		
SK	62	(0.58)	(0.52)	0.37	下層	N5		
SK	63	2.13	(1.10)	0.13	下層	N5		
SD	64	0.44	(0.91)	0.23	下層	N5		
SK	65	0.61	(0.44)	0.26	下層	N5		
SK	66	0.36	(0.19)	0.21	下層	N5		
SK	67	(0.69)	(0.98)	0.17	下層	N5		
SD	68	(0.43)	(1.14)	(0.21)	下層	N6		
SK	69	(0.72)	(0.69)	0.25	下層	N6		SK69＜SK70
SK	70	(2.18)	(1.12)	(0.29)	下層	N6		SK69＜SK70
SP	71	0.35	0.31	0.17	下層	N3		
SD	72	0.66	(1.73)	0.32	中層	N3		室町か
SK	73	－	－	－	－	－		撹乱の為、欠番
SD	74	(0.42)	(1.73)	0.28	中層	N1	中世土師器・京焼・近世陶器・石製品（硯・不明）・石造物（板碑・五輪塔）	近世：SD74・75＞SD50／＝江戸時代整地痕跡4-SX40（上部）＋近世堀4-SD1（深掘り部分）
SD	75	(0.98)	(5.68)	0.26	中層	N2		
SK	76	(1.31)	0.90	(0.23)	中層	N2		
SK	77	(1.27)	0.93	0.37	中層	N2		
SK	78	(0.73)	(0.23)	(0.16)	中層	N2		
SK	79	(1.08)	(0.40)	0.47	中層	N2	中世土師器	中世
SK	80	(0.61)	(0.94)	0.29	中層	N2		中世
SK	81	1.05	0.72	0.13	中層	N2		中世
SE	82	1.50	(0.88)	(0.49)	中層	N2		中世
SD	83	1.12	(2.46)	0.24	下層	N3	土師質土器・越前・磚	中世か：2-SD776延長部分か
SK	84	－	－	－	－	－		撹乱の為、欠番
SK	85	(1.27)	0.84	0.46	下層	N4	土師質土器	中世
SK	86	(0.53)	0.44	0.22	下層	N4		中世
SK	87	2.16	(0.84)	0.31	下層	N4	中世土師器・鈴州・取鍋	中世
SK	88	0.40	(0.33)	0.16	下層	N4		
SK	89	0.64	(0.52)	0.38	下層	N4		
SK	90	0.57	0.38	0.13	下層	N4		
SK	91	1.07	(0.32)	(0.21)	下層	N4		
SK	92	0.95	0.65	0.26	下層	N4	中世土師器	中世
SD	93	0.17	0.14	0.16	下層	N4		
SK	94	(0.52)	(0.23)	0.42	下層	N4		
SK	95	0.79	(0.21)	0.21	下層	N4		
SP	96	0.25	0.25	0.19	下層	N4		
SK	97	0.51	0.36	0.25	下層	N4		
SK	98	(0.57)	(0.46)	0.44	下層	N4		
SD	99	0.51	(1.15)	0.42	下層	N4		
SK	100	(1.12)	(0.32)	0.30	下層	N4		
SD	101	0.36	(0.70)	0.24	下層	N4		
SK	102	0.50	(0.74)	0.46	下層	N4		
SK	103	0.43	0.34	0.28	下層	N6		
SD	104	0.54	(2.92)	0.22	下層	N6		
SD	105	1.74	(3.08)	0.27	下層	N6		
SD	106	(0.30)	(1.84)	0.15	下層	N6		
SK	107	(0.62)	(0.40)	(0.11)	下層	N6		
SK	108	(0.40)	(0.36)	(0.21)	下層	N6		
SK	109	3.02	(1.06)	(0.18)	下層	E2		
SK	110	(1.16)	(1.20)	(0.30)	下層	E2		
SX	111	27.72	(1.20)	(0.25)	上層	E2～4		近代盛土？
SD	112	(1.23)	(1.2)	(0.11)	下層	E5		
SK	113	－	－	－	下層	E5		SD34の北側、同一遺構
SD	114	－	－	－		E5		撹乱の為、欠番
SP	115	0.32	(0.20)	0.15	下層	N6		

第3表　遺物観察表2

報告書No.	地区	遺構No.		出土位置・備考	遺物種類2	器　種	遺物年代	遺物種類・器種備考 ＊「富山市民病院」の文字は「左→右」・「左←右」の2種類、欠損している部分は　（　）で記載	法量（単位はcm）　＊（　）は復元値　〈　〉は残存値			残存率		胎土焼成・色調、釉の種類・色調		
		種類	No.						口径	底(高台)径	器高	口縁	底部	焼成	釉の種類	色　調
1	E2	SK	5	立会3	近代陶器	皿	近代	見込み胎土に縄目圧痕、見込みに鉄絵	(15.60)	6.00	2.10	25	65	良	透明釉・貫入	2.5Y7/4浅黄
2	E2	SK	5	立会3	近代磁器	小皿	近代	見込みに上絵（赤）で「院(病民市山富)」	8.50	4.70	1.80	50	60	良	透明釉	N8/0灰白
3	E2	SK	5	立会3	近代磁器	小皿	近代	スタンプ（濃緑）で　「富山市民病院」	9.10	5.75	1.70	70	100	良	透明釉	N8/0灰白
4	E2	SK	5	立会3	近代磁器	皿	近代	見込みにスタンプ（濃緑）で「富山市民(病院)」	13.30	6.50	3.00	55	65	良	透明釉	N8/0灰白
5	E2	SK	5	立会3	近代磁器	皿	近代	見込みに同心円状の胎土彫刻	—	(6.50)	〈2.1〉	0	20	良	透明釉	N8/0灰白
6	E2	SK	5	立会3	近代磁器	輪花皿	近代	見込みに色絵	(11.30)	5.70	2.40	40	55	良	透明釉	N8/0灰白
7	E2	SK	5	立会3	近代磁器	輪花皿	近代	見込みに色絵	(11.40)	(5.00)	2.30	5	20	良	緑銅釉か	5GY8/1灰白
8	E2	SK	5	立会3	近代磁器	楕円輪花皿	近代	見込みに上絵（黒）で　「富(山)市民(病院)」	(16)×(11)	(8.4)×(4.8)	3.00	25	35	良	透明釉	N8/0灰白
9	E2	SK	5	立会3	近代磁器	楕円輪花皿	近代	見込みに上絵（黒）で　「(富山)市(民病院)」	(16.2)×(12)	9.0×(5.3)	3.00	20	60	良	透明釉	N8/0灰白
10	E2	SK	5	立会3	近代磁器	中皿	近代	スタンプ（濃緑）で　「富山市民病院」	18.40	10.80	3.35	85	100	良	透明釉	N8/0灰白
11	E2	SK	5	立会3	近代磁器	中皿	近代	見込みにスタンプ（濃緑）で「(富)山市民病院」	19.20	9.00	3.00	50	50	良	透明釉	N8/0灰白
12	E2	SK	5	立会3	近代磁器	中皿	近代	見込みにスタンプ（濃緑）で「富(山市民病院)」	(18.80)	(9.50)	3.30	40	40	良	透明釉	N8/0灰白
13	E2	SK	5	立会3	近代磁器	碗	近代	外面にスタンプ（濃緑）で「富山市民病院」	11.20	4.80	5.90	95	95	良	透明釉	N8/0灰白
14	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼	近代	外面に上絵(赤）で「富(山)市民(病院)」	13.50	5.60	6.30	80	100	良	透明釉	N8/0灰白
15	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼	近代	外面に鉄絵・染付　22蓋と同一意匠、1対	15.20	5.60	7.10	55	100	良	緑銅釉か	5GY7/1明オリーブ灰
16	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼	近代	スタンプ（濃緑）で　「富山市民病院」	15.40	5.60	7.30	50	70	良	透明釉	N8/0灰白
17	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼	近代	外面に色絵　23蓋と同一意匠で1対	(14.80)	5.60	7.40	10	100	良	透明釉か	N8/0灰白
18	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼	近代	外面に上絵(赤）で「院病民市山富」	15.50	—	〈6.5〉	100	0	良	透明釉	N8/0灰白
19	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼	近代	上絵(赤）で「院病民市山富」　51・204・206と同一規格、24・56蓋と1対	15.50	5.05	7.50	95	100	良	透明釉	N8/0灰白
20	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼	1940～1946	統制陶磁器／「岐971」	15.85	6.35	7.80	100	100	良	透明釉	N8/0灰白
21	E2	SK	5	立会3	近代磁器	碗蓋	近代	内外染付	(10.00)	ツマミ3.9	2.50	30	ツマミ90	良	透明釉	N8/0灰白
22	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼蓋	近代	外面に鉄絵・染付　15丼と同一意匠、1対	(14.00)	ツマミ5.2	4.00	25	ツマミ100	良	緑銅釉か	10GY明緑灰色
23	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼蓋	近代	外面に色絵　17丼と同一意匠、1対	(13.00)	ツマミ5.0	3.70	30	ツマミ100	良	透明釉か	N8/0灰白
24	E2	SK	5	立会3	近代磁器	丼蓋	近代	外面に上絵(赤）で「院病(民市山富)」　56と同一規格　19・51・204・206丼と1対	(13.30)	—	〈3.0〉	20	0	良	透明釉	N8/0灰白
25	E2	SK	5	立会3	近代磁器	湯呑	近代	外面にスタンプ（濃緑）で「(富山市民病院)」	(7.00)	—	〈5.9〉	45	0	良	透明釉	N8/0灰白
26	E2	SK	5	立会3	近代磁器	湯呑	近代	病院食器か	—	3.50	〈4.3〉	0	50	良	透明釉	N8/0灰白
27	E2	SK	5	立会3	近代磁器	コーヒーカップ	1912～1940	口縁部に色絵(印刷)、外底面にノリタケの印	(6.10)	3.00	5.50	15	60	良	透明釉	N8/0灰白
28	E1	SD	8	M18m北、東取付GL-0.8m	伊万里	碗	近代	高台見込みに刻印あり、外面に染付	—	3.40	〈2.6〉	0	70	良	透明釉	N8/0灰白
29	E1	SD	8	M18m北、東取付GL-0.8m	磁器	皿	近代	内外染付、見込みに色絵	(12.30)	(6.80)	2.50	25	25	良	透明釉	N8/0灰白

報告書No.	地区	遺構No.		出土位置・備考	遺物種類2	器　種	遺物年代	遺物種類・器種備考 ＊「富山市民病院」の文字は「左→右」・「左←右」の2種類、欠損している部分は　（　）で記載	法量（単位はcm）　＊（　）は復元値　〈　〉は残存値			残存率		胎土焼成・色調、釉の種類・色調		
		種類	No.						口径	底(高台)径	器高	口縁	底部	焼成	釉の種類	色　調
30	E1	SD	8	M18m北、東取付GL-0.8m	磁器（瀬戸か）	碗	近代	外面に染付（印判網目文）	11.50	3.70	5.80	50	100	良	透明釉	N8/0灰白
31	TYJ	SD	8	石組水路	磁器	丼	近代	外面に上絵(赤）で「院病民市山富」　19・51・204・206と同一規格、21・56蓋と1対	15.50	5.40	7.50	75	100	良	透明釉	N8/0灰白
32	E1	SD	8	M18m北、東取付GL-0.8m	近世磁器	急須	近代	外面に上絵（赤絵・金彩）	(7.50)	—	〈2.7〉	25	0	良	透明釉	N8/0灰白
33	E1	SD	8	M18m北、東取付GL-0.8m	磁器	鉢か	近代	外面に色絵	—	(6.20)	〈3.7〉	0	30	良	透明釉	N8/0灰白
34	E1	SD	8	M18m北、東取付GL-0.8m	磁器	植木鉢か	近代	外面に染付	—	(19.80)	〈6.3〉	0	5	良	透明釉	N8/0灰白
35	E2	SK	9	立会1	近代陶器	皿	近代	見込み底部に縄目圧痕、見込みに鉄絵（1と同じ意匠）	(15.00)	6.00	2.30	45	50	良	透明釉	10YR8/2灰白（内）、2.5Y7/4浅黄（外）
36	E2	SK	9	立会1	近代陶器	皿	近代	見込み胎土に縄目圧痕、見込みに鉄絵	(15.60)	(6.50)	2.00	5↓	20	良	透明釉	2.5Y8/3淡黄
37	E2	SK	9	立会1	硬質陶器	皿	近代	病院食器（外底面にわずかにスタンプが確認できる）	18.60	11.00	2.10	50	50	良		7.5Y8/1灰白
38	E2	SK	9	立会1	硬質陶器	輪花皿	近代	洋食器、口縁見込みに色絵、外底面に”日本硬質陶器會社”の印	～5%	10.50	4.10	70	60	良		N8/0灰白
39	E2	SK	9	立会1	硬質陶器	輪花皿	近代	洋食器	(20.60)	(9.90)	3.50	25	40	良		N8/0灰白
40	E2	SK	9	立会1	近代磁器	小皿	近代	舟型の小皿、見込みに胎土陰刻・染付	長〈4.25〉	幅〈5.0〉	2.50	—	—	良	透明釉	N8/0灰白
41	E2	SK	9	立会1	近代磁器	皿	近代	洋食器、見込み口縁に色絵圏線	(18.60)	—	〈3.5〉	25	0	良	透明釉	N8/0灰白
42	E2	SK	9	立会1	近代磁器	輪花皿	近代	見込みに色絵	(10.20)	5.50	1.70	45	50	良	透明釉	N8/0灰白
43	E2	SK	9	立会1	近代磁器	輪花皿	近代	部分輪花、口縁部に染付、見込みに鯛の陽刻	13.00	7.50	2.60	50	70	良	透明釉	N8/0灰白
44	E2	SK	9	立会1	近代磁器	八角皿	近代	見込み染付	(8.80)	(3.40)	2.20	25	5	良	透明釉	N8/0灰白
45	E2	SK	9	立会1	近代磁器	碗	近代	口縁外面に連弁文陰刻、口縁に染付、内面にに染付・色絵	(11.20)	(4.80)	5.20	25	30	良	透明釉	N8/0灰白
46	E2	SK	9	立会1	近代磁器	碗	近代	輪花か、胎土外面全面に七宝花菱文の陽刻（型押し）、高台に連弁文陰刻、口縁部に染付、内面上絵	(11.50)	(4.20)	6.40	5	45	良	緑銅釉か	胎土N8/0灰白、釉調10GY7/1明青灰
47	E2	SK	9	立会1	近代磁器	碗	近代	輪花か、胎土外面全面に七宝花菱文の陽刻（型押し）、高台に連弁文陰刻、内面上絵(金彩あり）	〈11.5〉	(4.00)	〈6.1〉	5	40	良	透明釉	胎土N8/0灰白、釉調10GY8/1明青灰
48	E2	SK	9	立会1	近代磁器	丼蓋	近代	外面に色絵	—	ツマミ(5.2)	〈2.8〉	0	40	良	透明釉	5GY7/1明オリーブ灰
49	E2	SK	9	立会1	近代磁器	丼	近代	胎土外面に微塵格子の陰刻、外面に色絵　54蓋と同一規格で1対	13.50	5.50	7.50	20	35	良	緑銅釉	胎土N8/0灰白、釉調10GY7/1明青灰
50	E2	SK	9	立会1	近代磁器	丼	近代	胎土外面全面に梅花の陽刻（型押し）　55蓋と同一意匠、1対	15.00	5.40	7.1	55	100	良	緑銅釉	胎土N8/0灰白、釉調10GY7/1明青灰
51	E2	SK	9	立会1	近代磁器	丼	近代	外面に上絵(赤）で「院病民市山富」　19・204・206と同一規格、24・56蓋と1対	(15.60)	5.50	7.60	40	60	良	透明釉	N8/0灰白
52	E2	SK	9	立会1	近代磁器	丼	近代	外面に色絵　17と近似の意匠	15.30	5.70	7.70	60	60	良	緑銅釉	N8/0灰白、5GYGY8/1灰白（釉）
53	E2	SK	9	立会1	近代陶器	蓋	近代	上面にロクロ沈線文	(11.30)	ツマミ(3.2)	2.90	5	ツマミ10	良	灰釉	7.5Y6/2灰オリーブ
54	E2	SK	9	立会1	近代磁器	丼蓋	近代	胎土外面に微塵格子の陰刻、外面に色絵49蓋と同一規格、1対	(15.00)	ツマミ(5.5)	4.00	35	ツマミ25	良	緑銅釉	胎土N8/0灰白、釉調10GY7/1明青灰
55	E2	SK	9	立会1	近代磁器	丼蓋	近代	胎土外面全面に梅花の陽刻（型押し）　51丼と同一意匠、1対	(13.50)	ツマミ5.4	4.30	45	ツマミ40	良	緑銅釉	胎土N8/0灰白、釉調10GY7/1明青灰
56	E2	SK	9	立会1	近代磁器	丼蓋	近代	外面に上絵(赤）で「「(院病民)市山富」205と接合、21と同一規格　19・51・204・206丼と1対	(14.00)	ツマミ(5.0)	3.70	25	30	良	緑銅釉	胎土N8/0灰白、釉調5GYGY8/1灰白
57	E2	SK	9	立会1	近代磁器	蓋か	近代	外面に染付	(13.80)	—	〈2.5〉	35	—	良	透明釉	N8/0灰白
58	E2	SK	9	立会1	近代磁器	湯呑	近代	外面に染付・色絵	(7.60)	3.00	5.05	15	100	良	透明釉	N8/0灰白
59	E2	SK	9	立会1	近代磁器	湯呑	近代	外面に染付(吹付状）・色絵	7.40	3.10	5.20	50	80	良	透明釉	N8/0灰白

報告書No.	地区	遺構No.		出土位置・備考	遺物種類2	器　種	遺物年代	遺物種類・器種備考 ＊「富山市民病院」の文字は「左→右」・「左←右」の2種類、欠損している部分は　（　）で記載	法量（単位はcm）　＊（　）は復元値　〈　〉は残存値			残存率		胎土焼成・色調、釉の種類・色調		
		種類	No.						口径	底(高台)径	器高	口縁	底部	焼成	釉の種類	色　調
60	E2	SK	9	立会1	近代磁器	輪花小鉢	近代	口紅（上絵）、体部外面に貨幣文の陽刻、内外に染付、内面に上絵(金彩あり)	(9.00)	3.80	4.70	25	100	良	透明釉	胎土N8/0灰白、釉調10GY8/1明青灰
61	E2	SK	9	立会1	近代磁器	輪花小鉢	近代	口紅（上絵）、体部外面に貨幣文の陽刻、内外に染付、内面に上絵(金彩あり)	(9.00)	3.80	4.70	30	95	良	透明釉	5G7/1明緑灰
62	E2	SK	9	立会1	近代磁器	鉢	近代	内外染付付渦巻き文	14.80	(5.40)	(5.80)	50	0	良	透明釉	N8/0灰白
63	E2	SK	9	立会1	近代磁器	鉢	—	内外染付、外面は印判	(15.40)	(6.00)	5.50	30	25	良	透明釉	N8/0灰白
64	E4	SK	10	南	珠洲	甕		外面平行タタキ、内面当具痕	—	10.10	5.30	0	25	良	—	胎土5Y5/1灰
65	E4	SK	10	M3-北 0～3m	越前	擂鉢			—	—	〈5.4〉	0	0	良	—	胎土2.5Y8/3淡黄（内）・7.5YR6/4にぶい橙（外）
66	E4	SK	10	南	中国白磁	皿	15C後半～16C	森田分類C・D群	(13.40)	(8.00)	3.15	5	25	良	透明釉	5Y8/1灰白
67	E4	SK	10	北	越中瀬戸	素焼皿		灯明皿、糸切底	8.10	3.70	1.95	85	100	良	—	胎土7.5YR7/8黄橙
68	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿	18C前半	やや柱状の高台	9.00	4.40	2.40	25	60	良	—	胎土10YR7/3にぶい黄橙
69	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿	18C前半		10.30	4.40	2.60	15	100	良	—	胎土7.5YR7/6橙
70	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿			10.20	4.80	2.15	40	100	良	—	胎土7.5YR7/3にぶい橙
71	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	10.20	4.40	2.50	90	100	良	—	胎土5YR6/6橙
72	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	10.40	3.85	2.60	100	100	良	—	胎土7.5YR7/4にぶい橙
73	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿	18C中～後半		10.60	4.50	2.60	20	80	良	—	胎土7.5YR7/6橙
74	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／口縁部に灯芯油煙痕あり	10.80	—	〈2.4〉	20	0	良	—	胎土10YR7/2にぶい黄橙
75	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	10.90	—	〈2.15〉	25	0	良	—	胎土10YR7/3にぶい黄橙
76	E4	SK	10	焼土層/北	越中瀬戸	素焼皿	17C後半	灯明皿、糸切底	(11.00)	4.00	3.05	40	100	やや不良	—	胎土10YR8/3浅黄橙
77	E4	SK	10	焼土層/北	越中瀬戸	素焼皿	17C後半	灯明皿、糸切底	(11.00)	4.50	2.70	15	65	良	—	胎土7.5YR7/8黄橙
78	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	11.20	4.00	3.10	40	100	良	—	胎土7.5Y7/2灰黄
79	E4	SK	10	焼土層/北	越中瀬戸	素焼皿	17C後半	灯明皿、糸切底	(10.85)	4.20	2.85	15	100	良	—	胎土7.5YR7/6橙
80	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	11.80	4.70	3.75	70	100	良	—	胎土7.5YR7/4にぶい橙
81	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	11.70	4.40	3.40	60	100	良	—	胎土2.5Y7/2灰黄色
82	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	11.80	4.40	3.20	60	100	良	—	胎土7.5YR7/6橙
83	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿			12.00	—	〈2.7〉	25	0	良	—	胎土10YR7/2にぶい黄橙
84	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿	17C前半		12.40	5.60	2.80	35	100	良	—	胎土7.5YR7/4にぶい橙
85	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	12.60	—	〈1.8〉	15	0	良	—	胎土7.5YR6/6橙
86	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	12.60	5.00	2.70	20	100	良	—	胎土7.5YR7/4にぶい橙が基調
87	E4	SK	10	南	越中瀬戸	素焼皿		高台無し、ヘラ切底	—	5.50	2.00	0	70	良	—	胎土10YR8/4浅黄橙
88	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿			—	4.30	〈1.65〉	0	100	良	—	胎土7.5YR7/4にぶい橙
89	E4	SK	10		越中瀬戸	素焼皿		欠番	12.4	5.60	2.8	35	100	良	—	—
90	E4	SK	10	南	越中瀬戸	皿	17C初	釉止めあり、ケズリ高台	—	(5.00)	1.20	0	5	良	灰釉	胎土10YR6/4にぶい黄橙、釉調5Y4/2灰オリーブ

報告書No.	地区	遺構No.		出土位置・備考	遺物種類2	器　種	遺物年代	遺物種類・器種備考 ＊「富山市民病院」の文字は「左→右」・「左←右」の2種類、欠損している部分は　（　）で記載	法量（単位はcm）　＊（　）は復元値　〈　〉は残存値			残存率		胎土焼成・色調、釉の種類・色調		
		種	No.						口径	底(高台)	器高	口縁	底部	焼成	釉の種類	色　調
91	E4	SK	10	北	越中瀬戸	皿		ケズリ高台	—	(5.00)	〈2.3〉	0	15	良	鉄釉	胎土10YR6/4にぶい黄橙、釉調5YR4/4にぶい赤褐
92	E4	SK	10		越中瀬戸	鉢		錆釉	31.40	—	〈2.3〉	5	0	良	錆釉	胎土7.5YR6/4にぶい橙、釉調7.5YR4/3褐
93	E4	SK	10	北	越中瀬戸	擂鉢			(28.00)	—	〈2.5〉	10	0	良	錆釉	胎土7.5YR7/6橙、釉調5YR5/4にぶい赤褐
94	E4	SK	10		越中瀬戸	擂鉢			—	10.60	〈2.75〉	0	40	良	錆釉	胎土7.5YR7/3にぶい橙、釉調7.5YR5/2灰褐
95	E4	SK	10		越中瀬戸	広口壺			16.00	—	〈13.5〉	25	0	良	鉄釉	胎土10YR7/3にぶい黄橙、釉調7.5YR3/1黒褐色
96	E4	SK	10	南	唐津	菊皿	16C末～17C初	唐津1期、高台内に胎土目痕	—	(6.60)	〈2.0〉	0	25	やや不良	藁灰釉	2.5Y8/1灰白
97	E4	SK	10	南	唐津	大皿		楕円にゆがむ／i56と同一個体	26.60	9.00	5.70	15	100	良	青磁釉	胎土2.5Y6/2灰黄、釉調7.5Y5/3灰オリーブ
98	E4	SK	10	焼土層	唐津	瓶	17C前半	唐津1期：内面に同心円状タタキ	—	(18.00)	〈6.6〉	0	15	良	自然釉	2.5Y6/2灰黄（内）、5Y5/2灰オリーブ（外）
99	E4	SK	10	焼土層下	唐津	擂鉢	17C前半	唐津2期、口縁に鉄釉	(32.00)	—	〈5.1〉	5	0	良	鉄釉	胎土5YR5/3にぶい赤褐、釉調5YR3/2暗赤褐
100	E4	SK	10	北	伊万里	皿		見込みに染付	(14.00)	(6.00)	2.80	25	35	良	透明釉	胎土N8/0灰白、釉調5B7/1明青灰
101	E4	SK	10		伊万里	輪花皿		110（D71）と接合　102と同規格	14.80	6.00	3.00	65	100	良	透明釉	—
102	E4	SK	10	北	伊万里	輪花皿			(14.00)	—	〈1.7〉	10	0	良	透明釉	10Y8/1灰白
103	E4	SK	10		伊万里	碗		報告書作成後に同一個体片が見つかり、接合復元（残存率に数値反映）	9.60	—	〈5.25〉	60	100	良	透明釉	釉調5B7/1明青灰色＋染付（青）
104	E4	SK	10		伊万里	碗			10.60	—	〈5.45〉	15	0	良	透明釉	釉調5B7/1明青灰色＋染付（青）
105	E4	SK	10		伊万里	碗		外底面に「大明成化年製」	—	4.70	〈2.75〉	0	40	良	透明釉	N8/0灰白
106	E4	SK	10	M3-北 0～3m	伊万里	湯呑		外面に染付	(7.00)	(3.50)	5.80	10	25	良	透明釉	N8/0灰白
107	E4	SK	10	南	伊万里	湯呑		外面に染付	(8.20)	(4.00)	6.40	30	40	良	透明釉	N8/0灰白
108	E4	SK	10	M3-北 0～3m	伊万里	瓶		外面に染付:たこ唐草文	—	—	〈5.8〉	0	0	良	透明釉	7.5Y8/1灰白
109	E4	SK	10	南	波佐見	皿	17C中頃	見込みに染付：ねじ花文様	(13.00)	(5.20)	3.60	20	20	良	緑銅釉	5GY8/1灰白
110	E4	SK	10	北	伊万里	輪花皿		内外染付、波佐見か	14.80	6.00	3.00	65	100	良	透明釉	7.5GY8/1明緑灰
111	E4	SK	10		波佐見青磁	碗			11.80	—	〈4.9〉	～5	0	良	緑銅釉	胎土2.5Y7/2灰黄、釉調10Y6/2オリーブ灰
112	E4	SK	10		磁器	碗	18C前半	一重網目文	10.70	—	〈4.3〉	～5	0	良	透明釉	10GY8/1明緑灰＋染付（青）
113	E4	SK	10	南	磁器	猪口か		外面に染付、釉が泡立つ	(5.50)	—	〈2.6〉	20	0	良	透明釉	2.5Y7/1灰白
114	E4	SK	10	北	磁器	鉢		内外染付	(14.50)	(6.20)	6.20	30	30	良	透明釉	7.5Y8/1灰白
115	E4	SK	10	北	統制陶器（磁器）	輪花鉢	1940～1946	蛇の目高台風（非ロクロ）、内外染付、内面は一部スタンプ、腰部にスタンプ「岐933」	(14.60)	6.75	5.00	30	65	良	透明釉	5Y8/1灰白
116	E4	SK	10		陶器	植木鉢			23.60	—	〈4.2〉	～10	0	良	るり釉	胎土2.5Y7/2灰黄、釉調10YR2/2黒褐
117	E4	SK	10	焼土層/北	陶器	擂鉢		底部片、糸切底	—	—	1.50	0	0	良	—	7.5YR5/4にぶい褐
118	E4	SK	10	北	磁器	鉢か		脚部。外面に雲文の印刻・染付	高（2.9）	幅（3.9）	厚1.4	—	—	良	透明釉	N8/0灰白
119	E4	SK	10		不明陶磁器	火皿		口縁部内外面のみ施釉	33.20	—	〈8.65〉	～10	0	良	鉄釉	胎土10YR5/3にぶい黄褐、釉調7.5YR3/2黒褐
120	E4	SK	10		不明陶磁器	擂鉢		鉄釉	31.40	—	〈4.3〉	～10	0	良	鉄釉	胎土7.5YR6/4にぶい橙、釉調7.5YR/2黒褐
121	E4	SK	10	焼土層/北	石製品	砥石		4面イキ	長〈5.9〉	幅2.8	厚〈0.7〉	—	—	—	—	—

報告書No.	地区	遺構No.		出土位置・備考	遺物種類2	器　種	遺物年代	遺物種類・器種備考 ＊「富山市民病院」の文字は「左→右」・「左←右」の2種類、欠損している部分は　（　）で記載	法量（単位はcm）　＊（　）は復元値　〈　〉は残存値			残存率		胎土焼成・色調、釉の種類・色調		
		種	No.						口径	底(高台)	器高	口縁	底部	焼成	釉の種類	色　調
122	E4	SK	10	北	土製品	陶人形		座った人物の背中部分　上絵あり	高（2.5）	幅（2.3）	奥（1.4）	—	—	良	透明釉	5Y8/1灰白
123	E4	SD	11	北肩部/M2-47m北	越前	擂鉢	15C末～16C初	越前Ⅴ1期	(31.60)	—	〈9.5〉	15	0	良	—	10YR7/4にぶい黄橙
124	E4	SD	11		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／口縁部に灯芯油煙痕あり	6.85	3.10	1.50	100	100	良	—	7.5YR7/6橙
125	E4	SD	11		越中瀬戸	素焼皿		灯明皿／スス付着	—	4.60	〈2.45〉	0	40	良	—	7.5YR7/4にぶい橙
126	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	京・信楽系	灯明受皿		外面に付着物	—	(5.00)	〈1.7〉	0	20	良	透明釉（貫入）	2.5Y8/1灰白、2.5Y7/2灰黄
127	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	京・信楽系	碗		腰部が張り出す	(10.80)	—	〈4.2〉	5	0	良	灰釉（貫入）	2.5Y7/2灰黄
128	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	京・信楽系	碗			—	(3.60)	〈1.8〉	0	25	良	透明釉（貫入）	2.5Y8/2灰白
129	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	伊万里	皿		口紅、内外染付	(13.70)	(9.30)	3.30	5↓	10	良	透明釉	N9/0白
130	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	伊万里	輪花皿		内外染付・上絵（金彩あり）	(13.20)	(7.80)	3.30	15	35	良	透明釉	N9/0白
131	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	伊万里	菊皿		見込みに上絵、外底面に朱書き”壽”か	(15.70)	(7.70)	〈4.2〉	5↓	5↓	良	透明釉	N8/0灰白
132	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	伊万里	碗／蓋物の身		口唇部内面に釉なし、外面染付：格子状文	(14.00)	—	〈5.8〉	10	0	良	透明釉	N9/0白
133	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	近代磁器	皿		白磁、見込みに陰刻　統制陶磁器か	(9.40)	(5.20)	1.90	20	25	良	透明釉	N9/0白
134	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	近代磁器	碗		外面に染付・鉄絵	(11.00)	4.00	5.70	15	70	良	透明釉	N9/0白
135	E4	SD	11		不明陶磁器	蓋		ツマミ部分のみ欠損	6.30	—	〈1.7〉	100	ツマミ0	良	透明釉+色絵・金彩・上絵付	5GY8/1灰白＋色絵・金彩・上絵付
136	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	瓦	桟瓦	19C前半	いぶし瓦	長（11）	幅（11.8）	高（4.5）	—	—	良	—	N5/0灰（表）N8/0灰白(断面)
137	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	瓦	桟瓦	19C前半	いぶし瓦	長（9.1）	幅（6.9）	高（2.7）	—	—	良	—	N5/0灰（表）N7/0灰白(断面)
138	E4	SD	11	北肩部か/M2-43～47m、GL-1.2～1.5	瓦	桟瓦	19C前半	いぶし瓦	長（15.5）	幅（15）	高（5.9）	—	—	良	—	N5/0灰
139	E4	SD	13	中層/M2-48m北	越中瀬戸	皿			(9.60)	—	〈1.7〉	10	0	良	灰釉か	胎土2.5Y8/2灰白、釉調2.5Y5/3にぶい赤褐
140	E4	SD	15	中層/M2-48～49m北/④	瀬戸美濃	皿			(11.80)	—	〈1.6〉	5	0	良	鉄釉	胎土10YR7/3にぶい黄橙、釉調7.5YR3/2黒褐
141	E5	SD	27	①	瀬戸か	碗		内外染付、外面に上絵	(12.00)	(4.00)	4.80	15	35	良	透明釉	N8/0灰白
142	E5	SD	27	①下層	越中瀬戸か	素焼皿	19C	灯明皿、糸切底	(7.90)	(4.00)	1.80	10	30	不良	—	10YR8/3浅黄橙
143	E5	SD	27	①	越中瀬戸	素焼皿	19C	灯明皿、糸切底	(7.90)	(3.90)	10.1.7	45	45	良	—	7.5YR7/3にぶい橙
144	E5	SD	27	①	越中瀬戸	皿	19C	灯明皿、底部外面に墨書（梵字か）	7.50	3.50	2.10	80	100	不良	鉄釉	胎土2.5Y8/2灰白、釉調7.5YR3/2黒褐
145	E5	SD	27	①	越中瀬戸	水指		糸切底	—	(11.60)	〈2.4〉	0	15	良	鉄釉	胎土10YR8/3浅黄橙、釉調5YR3/2暗赤褐
146	E5	SD	27	①	刷毛目唐津	鉢	18C前	唐津Ⅳ期、見込みに色絵	(31.30)	—	〈4.0〉	5	0	良	長石釉ほか	胎土7.5YR7/3にぶい褐、釉調2.5Y8/2灰白、10YR5/3にぶい黄褐（外）
147	E5	SD	27	①	伊万里	碗		外面に色絵、高台内に染付	(11.50)	(4.10)	4.70	25	30	良	透明釉（内）、緑銅釉（外）	N8/0灰白
148	E5	SD	27	①下層	伊万里	蓋		壺蓋か、上面に染付	(6.60)	—	〈2.5〉	40	0	良	透明釉	N8/0灰白
149	E5	SD	27	①	伊万里	徳利か		体部十角形か、外面に染付	—	(5.60)	〈1.5〉	0	40	良	透明釉	N8/0灰白
150	E5	SD	27	①下層	磁器	碗		外面に染付	(10.30)	3.60	5.10	15	50	良	透明釉	N8/0灰白
151	E5	SD	27	①	磁器	碗		外面に色絵	(11.50)	3.50	4.60	15	100	良	透明釉（内）、緑銅釉（外）	N8/0灰白
152	E5	SD	27	①	磁器	瓶		外面に染付	—	—	〈5.3〉	0	0	やや不良	透明釉	5Y8/1灰白

報告書No.	地区	遺構No.		出土位置・備考	遺物種類2	器　種	遺物年代	遺物種類・器種備考 ＊「富山市民病院」の文字は「左→右」・「左←右」の2種類、欠損している部分は　（　）で記載	法量（単位はcm）　＊（　）は復元値　〈　〉は残存値			残存率		胎土焼成・色調、釉の種類・色調		
		種	No.						口径	底（高台）	器高	口縁	底部	焼成	釉の種類	色　調
153	E5	SD	27	①	陶器	碗		把手あり	(6.00)	(4.70)	2.20	25	30	良	透明釉	胎土2.5Y8/1灰白、釉調2.5Y7/1灰白
154	E5	SD	27	①	陶器	耳付壺		陶胎染付	(7.70)	—	〈3.1〉	5	0	良	外面透明釉、内面鉄釉＋灰釉か	胎土7.5YR5/3にぶい褐、釉調2.5Y8/1灰白（外）・7.5Y4/3暗オリーブ（内）
155	E5	SK	28	②	伊万里	碗		内外染付　157蓋と同一規格、1対	10.30	4.70	5.70	50	55	良	透明釉	N8/0灰白
156	E5	SK	28	②	伊万里	碗		内外染付	(10.20)	3.80	5.90	40	50	良	透明釉	N8/0灰白
157	E5	SK	28	②	伊万里	碗蓋		内外染付　155碗と同一規格、1対	9.40	ツマミ4	2.70	100	ツマミ100	良	透明釉	N8/0灰白
158	E5	SK	28	②	伊万里	猪口か		外面に染付	(4.80)	—	〈4.1〉	10	0	良	透明釉	N8/0灰白
159	E5	SE	30		中近世土師器	皿	17C後半		(9.10)	—	2.40	5↓	—	良	—	胎土：10YR7/3にぶい黄橙
160	E5	SE	31		越中瀬戸	素焼皿	19C	糸切底	(6.80)	(3.40)	1.30	10	20	やや不良	—	胎土：7.5YR7/4にぶい橙
161	E5	SK	32	③	越中瀬戸	素焼皿	18C～19C	糸切底	(7.80)	(4.00)	1.60	10	15	良	—	胎土：7.5YR8/4浅黄橙
162	E5	SK	32	③	唐津	火入れ	17C後半	ケズリ高台に脚あり、仏具香炉か	—	(14.00)	〈4.4〉	0	25	良	鉄釉	胎土10YR8/2灰白、釉調7.5YR3/3暗褐色
163	E5	SD	34	埋土（暗褐色土）	中近世土師器	皿			(11.50)	—	〈1.7〉	10	0	良	—	胎土10YR7/3にぶい黄橙
164	E5	SD	34	埋土（暗褐色土）	中近世土師器	皿	15C後半～16C	能登系	—	—	〈1.5〉	5	0	良	—	胎土：7.5YR7/6橙
165	N4	SK	40		中近世土師器	皿			8.90	—	〈2.0〉	～5	—	良	—	胎土：10YR7/3にぶい黄橙
166	N4	SK	40		越中瀬戸	擂鉢			26.00	—	〈2.25〉	5↓	0	良	錆釉	胎土7.5YR6/4にぶい橙、釉調7.5YR5/2灰褐
167	N4	SK	40		越中瀬戸	擂鉢			30.60	—	〈7.7〉	～5	0	良	錆釉	胎土2.5Y8/2灰白、釉調7.5YR5/4にぶい褐
168	N4	SK	39		中近世土師器	皿		灯明皿／スス付着	8.60	—	2.20	70	—	良	—	胎土10YR73/にぶい黄橙
169	N1	SD	74・75		中世土師器	皿	16C後半		10.60	—	2.10	～10	—	良	—	胎土7.5YR6/4にぶい橙
170	N1	SD	74・75	④/W-9～12m	京焼	碗		高台見込みに押印	—	(4.70)	〈1.6〉	0	45	良	透明釉（貫入）	胎土2.5Y8/1灰白、釉調7.5Y7/1灰白
171	N1	SD	74・75	堀埋土（黒褐シルト炭焼土混層）/24～27m、GL-0.8～1.6m	磁器	大皿		内外染付	—	(17.80)	〈3.3〉	0	10	良	透明釉	N8/0灰白
172	N1	SD	74・75	④/W-9～12m	陶器	擂鉢		糸切底（マメツ）	—	(10.40)	〈8.0〉	0	30	良	—	胎土：7.5YR6/3にぶい褐
173	N1	SD	74・75	堀埋土（黒シルト炭混層）/21～24m、GL-1.6m	石製品	硯			長（5.9）	幅5.2	高〈1.0〉	—	—	—	—	—
174	N1	SD	74・75		石造物	板碑		砂岩製、文字なし	長36.5	幅15	厚13	—	—	—	—	—
175	N1	SD	74・75		石造物	五輪塔か		火輪か	長20.9	幅18.5	厚13.3	—	—	—	—	—
176	N5	SE	55		京焼	皿		内面山水	11.80	—	〈4.15〉	20	0	良	透明釉	胎土5Y7/1灰白、釉調5Y7/2灰白
177	E3	—	—	落ち込み/M2-15～18m北、GL-1.55m	瀬戸美濃	碗		内外染付	(8.30)	—	〈4.9〉	20	0	良	透明釉	N8/0灰白
178	E3	—	—	落ち込み/M2-15～18m北、GL-1.55m	肥前系陶器	徳利			—	(12.00)	〈4.1〉	0	30	良	緑銅釉（外）、鉄釉（内）	胎土10YR8/3浅黄橙、釉調明青緑（外）・7.5YR3/3暗褐（内）
179	E3	—	—	落ち込み/M2-15～18m北、GL-1.55m	瓦器	蓋		煤付着	(17.00)	—	〈1.4〉	15	ツマミ0	良	—	10YR7/2にぶい黄橙
180	E2	—	—	黒褐シルト/M2-3～7m北、GL-0.8m	中近世土師器	皿		灯明皿	(10.00)	—	〈2.7〉	15	—	良	—	7.5YR6/6橙
181	E3	—	—	Ⅱa層（黒褐シルト）/33～36m	中近世土師器	皿			(8.20)	—	1.50	20	—	良	—	胎土7.5YR8/4浅黄橙
182	E2	—	—	Ⅱ層/M2-7～11m北、GL8.5-0.8m	越中瀬戸	碗		見込みに灰釉で、「の」の字状に施釉	—	3.90	〈2.75〉	0	100	良	鉄釉・灰釉	胎土5Y7/1灰白、釉調（下）7.5Y5/3灰オリーブ（錆釉）、（上）5YR4/3にぶい赤褐（鉄釉）

報告書No.	地区	遺構No.		出土位置・備考	遺物種類2	器　種	遺物年代	遺物種類・器種備考 ＊「富山市民病院」の文字は「左→右」・「左←右」の2種類、欠損している部分は　（　）で記載	法量（単位はcm）　＊（　）は復元値　〈　〉は残存値			残存率		胎土焼成・色調、釉の種類・色調		
		種	No.						口径	底(高台)	器高	口縁	底部	焼成	釉の種類	色　調
183		—	—	Ⅱ層	越中瀬戸	素焼皿		ヘラ切底	—	8.00	〈1.7〉	0	55	やや不良	—	胎土7.5Y8/2灰白
184	E3	—	—	M2-31～35m、GL-1～1.2m	越中瀬戸	天目茶碗			(12.50)	—	〈5.2〉	5↓	0	不良	鉄釉	胎土2.5Y8/2灰白、釉調2.5Y4/2暗黄灰
185	E3	—	—	M2-31～35m、GL-1～1.2m	陶器	蓋		ツマミあり、上面に鉄絵	8.20	ツマミ2.5	4.60	95	ツマミ100	良	灰釉＋鉄絵	胎土N8/0灰白、釉調2.5GY明オリーブ灰
186	E1	—	—	M1、H.1.5m	磁器	碗／蓋物の身		外面に染付、口唇部釉カキ取り	(10.00)	(9.00)	3.50	35	35	良	透明釉	N8/0灰白
187	E1	—	—	M1-17～21m北、GL-0.6～1.4m	磁器	卸皿		表裏とも布目あり	長〈9.8〉	幅〈7.4〉	厚1.3	—	—	良	透明釉	N8/0灰白
188	E1	—	—	M1から7m北GL-0.7m	近代磁器	瓶	近代	ウィスキー瓶、外面にラベル表記 ”Old Highland old scotch whis□□/□N MEKANAM&SONS/SCOTLAND”	—	—	〈4.0〉	0	0	良	透明釉	10YR8/1灰白
189	N1	—	—	包含層（黒）	中世土師器	皿	16C末		10.70	—	2.60	10	—	良	—	胎土7.5YR6/2橙
190	N5	—	—	包含層（黒）／SE55に伴う遺物の可能性あり	中国製磁器	皿	16C後～17C前	青花／漳州窯	11.40	6.00	2.40	～5	10	良	透明釉	胎土5Y8/1灰白、釉調10GY8/1明緑灰＋染付（青）
191	N5	—	—	包含層（黒）／SE55に伴う遺物の可能性あり	唐津	丸碗			11.60	—	〈4.35〉	～10	0	良	灰釉（長石釉）	胎土2.5Y7/1灰白、釉調5Y6/3オリーブ黄
192	E2	—	—	包含層／M2	唐津	施釉皿	17C初	唐津1～2期　ケズリ高台	10.10	3.20	2.70	10	100	良	灰釉	胎土2.5Y6/2灰黄、釉調5Y4/3暗オリーブ
193	E4	—	—	包含層（褐色）	不明陶磁器	大皿		ケズリ調整、裏：墨書・表：焼台跡	—	9.80	〈3.9〉	0	50	良	鉄釉	胎土2.5Y7/3浅黄、釉調2.5Y6/3にぶい黄
194	E3	—	—	撹乱/M2-39～44m、GL-1.2～1.5m	瓦	軒桟瓦		いぶし瓦、唐草文	長〈17.7〉	幅〈19.5〉	高〈7〉	—	—	良	—	N4/1灰
195	N4	—	—	排土/21～23m	石製品	石皿			長〈13.7〉	短〈11.4〉	高〈6.1〉	—	—	—	—	—
196	タテ坑	—	—	堀北側肩直上/N60°W、GL-4m	中近世土師器	皿			(10.00)	—	〈2.2〉	5	—	良	—	胎土10YR7/3にぶい黄橙（内）、2.5Y7/3浅黄（外）
197	タテ坑	—	—	堀北側肩直上/N60°W、GL-4m	瀬戸美濃	筒形碗	16C末～17C初	慶長期	(9.60)	4.00	8.20	5↓	100	良	鉄釉	2.5YR4/4にぶい赤褐
198	タテ坑	—	—	堀底	中近世土師器	皿			(8.00)	—	〈1.8〉	15	—	良	—	胎土10YR6/3にぶい黄橙
199	タテ坑	—	—	堀底	中近世土師器	皿		灯明皿	(9.00)	—	〈2.4〉	20	—	良	—	胎土2.5Y8/1灰白
200	タテ坑	—	—	堀底	珠洲	甕		体部片、平行タタキ	—	—	〈5.5〉※平置き	0	0	良	—	N4/1灰
201	タテ坑	—	—	堀底	瀬戸美濃	天目茶碗	17C	大窯2期	—	4.00	〈1.8〉	0	50	良	鉄釉	胎土7.5YR8/4浅黄橙、釉調5YR4/2灰褐
202	タテ坑	—	—	堀底	石製品	五輪塔		空輪	径15.5	—	高〈15.8〉	—	—	—	—	—

第５章　総括

第1節　三ノ丸における既往の調査との比較

1.はじめに

今回の調査は、平成26～28年の富山城発掘調査（”総曲輪レガートスクエア整備に伴う埋蔵文化財発掘調査”、以下、既往の調査）の調査区の東・北側外周部分で実施したものである（第28図）〔富山市教委2017a・2018b〕。以下では、今回の調査で確認した遺構・遺物のうち、堀や区画溝等、既往の調査で検出した遺構と同じ可能性がある遺構を中心に述べる。

2. 東側調査区

東側調査区は、既往の調査の1・2区から約2～5m東側と隣接している。既往の調査との連続性が認められた遺構として、SD8、SK10、SD11がある。

SD8（上層遺構／1-SD01）第28図及び図版1(2)⑦⑧

東側調査区南、E1ブロックに位置する石組水路で、西側に隣接する1-SD01と同一遺構である。1-SD01を含むと、推定長45m以上を測る。遺物は伊万里や近代陶磁器等が出土した。遺構の時期は近代である。

SK10（中層遺構／2-SK1000）第28図及び図版1(2)③④

E4ブロックに位置する土坑である。西側に隣接する2-SK1000の東側延長部分である。2-SK1000は南北方向の長軸が10.8mを測る大型土坑で、今回の調査を含めると、短軸方向でも幅5.5mを超えることが判明した。遺物は越中瀬戸、唐津、伊万里、近世近代陶磁器等、2-SK1000と同様のものがまとまって出土した。なかでも中～下層埋土である焼土層から17世紀後半の越中瀬戸素焼皿が一定量出土していることから、この焼土が1675年の大火に伴うものである可能性が高いと考えられる。以上から、遺構の時期は17世紀後半～18世紀となる。

SD11（中層遺構／2-SD470新・4-SD52）第28図及び図版1(2)③⑤⑥

E4ブロックに位置する堀の北肩部分である。遺構埋土と検出地点、遺物の時期・種類の共通性から、西側に隣接する2-SD470（新）・4-SD52と同一の遺構と判断した。2-SD470（新）・4-SD52を含むと、推定長は約112m以上を測り、軸方向はN-168°-Wである。遺構埋土上層部分の撹乱等の遺物も混入したため、越前、越中瀬戸、京・信楽系、唐津、伊万里、近世近代陶磁器、不明陶磁器、瓦等、近世～近代の遺物が出土した。遺構の時期は近世である。

3.北側調査区

北側調査区では、既往の調査との連続性が認められた遺構として、SD50／SD74、SD56、SD72、SD83がある。また、SE35、SK42など中世の遺構を3区の北西部周辺で確認した。

SD50・SD74・75（中層遺構／4-SD60・SD1・SX40）第28図及び図版1(1)①②

N1ブロックに位置する堀または区画溝である。軸方向は東北東-西南西で、隣接する4-SD60・SD1・SX40と同一遺構である。SD50は4-SD60の延長に当たり、調査区西側へ更に延び

ている。4-SD60を含むと、推定長は約45m以上を測る。幅は約5.7mを測る。SD74・75は4-SX40・4-SD1の延長に当たる。調査区西端の断面ではSD50の堀肩しか確認しなかったことから、SD74・75は西へ延びずに北へ屈曲している可能性が高い。SD74・75は4-SD1を含めると、推定長約46mを測る。またSD74・75の堀肩が4-SD1の北堀肩とすれば、4-SD1の幅は約10.8mとなる。今回調査のN1ブロックの掘削深度が標高6.90mであり、整地痕跡4-SX40の堆積が標高約7.10～6.40mであったことから、SD74・75の上層部は整地痕跡4-SX40と同一遺構といえ、一部深堀した下層部は4-SD1と同一遺構といえる。遺物は中世土師器、京焼、近世陶磁器、硯、板碑、五輪塔の火輪、不明石造物が出土した。遺構の時期はSD50（4-SD60）が17世紀後半（18世紀初までに埋没）、SD74・75の下層部分（4-SD1）が16世紀後半（17世紀初までに埋没）、上層部分（4-SX40）が18世紀前半である。

SD56（下層遺構）第28図及び図版1(2)⑨⑩

N5ブロックの位置する区画溝である。軸方向は南北で、隣接する3-SD122と同一の可能性がある。東側が攪乱により削平されているため、正確な幅は不明である。3-SD122から中世土師器皿と越前が出土していることから、遺構の時期は中世である。

SD72（下層遺構）第28図及び図版1(1)①②

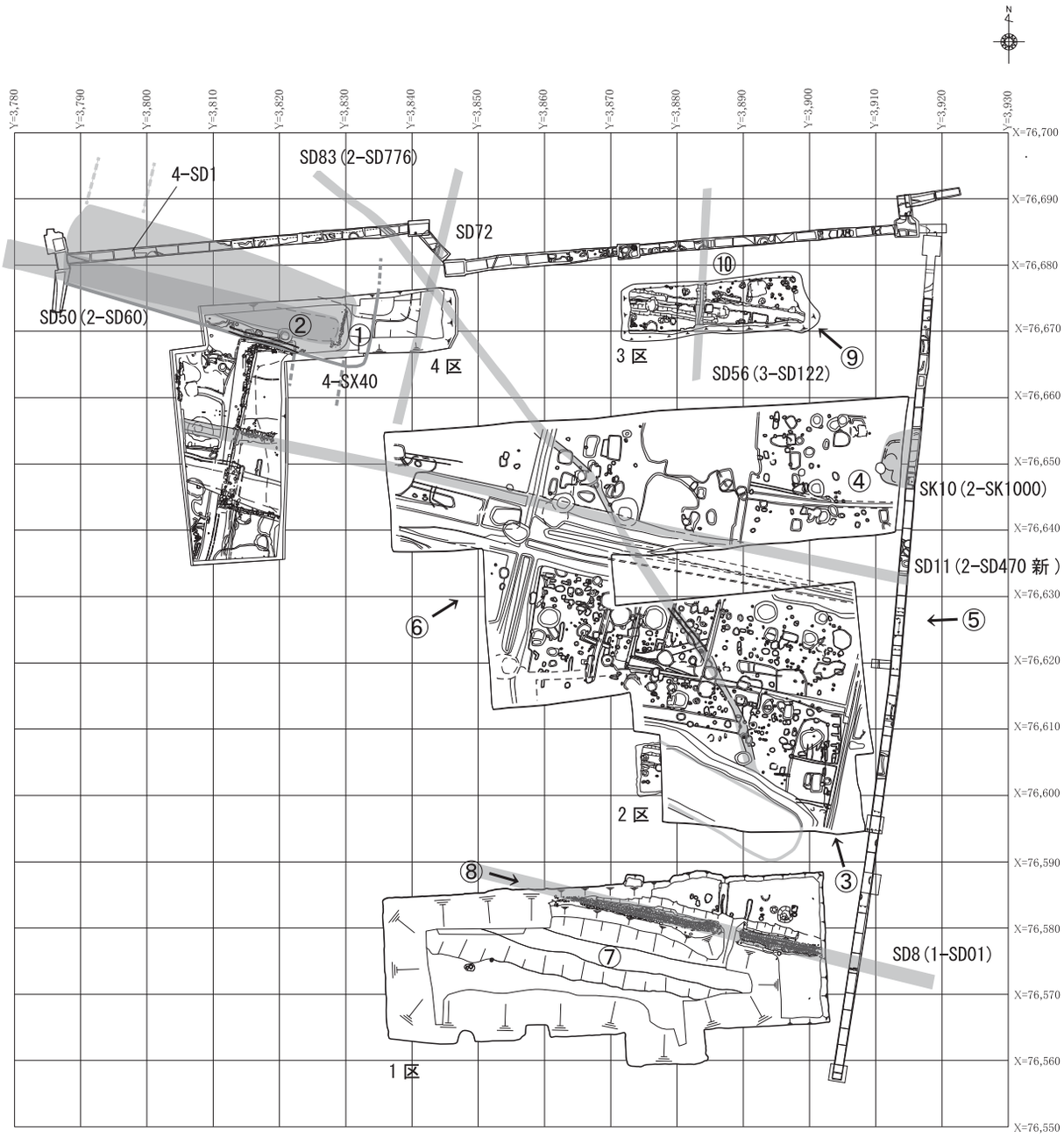
N4ブロックに位置する区画溝である。調査区内で幅0.66m、検出長1.73m、深さ0.32mを測る。軸方向はN-11～12°-Eで、溝の形状の共通性から、2-SD70等の同一の軸方向の区画溝群と同じ時期に開削されたものである可能性が高く、遺物は伴わないものの、遺構の時期は15世紀前半頃と考える。

SD83（下層遺構）第28図及び図版1(2)⑥

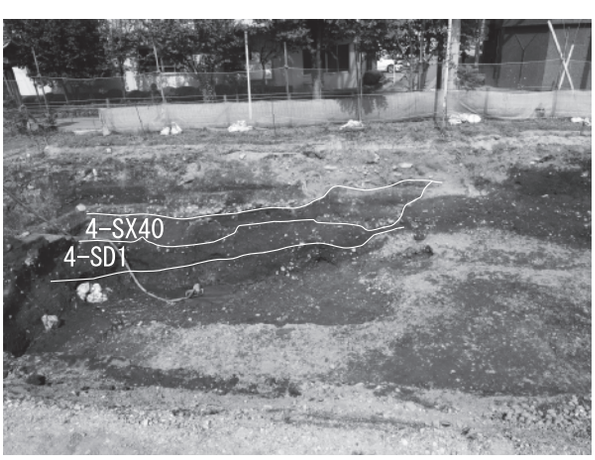
N3ブロックに位置する溝である。軸方向はN-30/40°-Wで、遺構の検出レベル及び埋土の性質から同一軸方向を持つ溝2-SD776の推定延長上にあると考える。同一遺構の場合、推定長で約100mを測る。遺物は伴わないものの、下層で検出していることと、重複関係にある近世の遺構より古いことから、遺構の時期は中世である。

4.まとめ

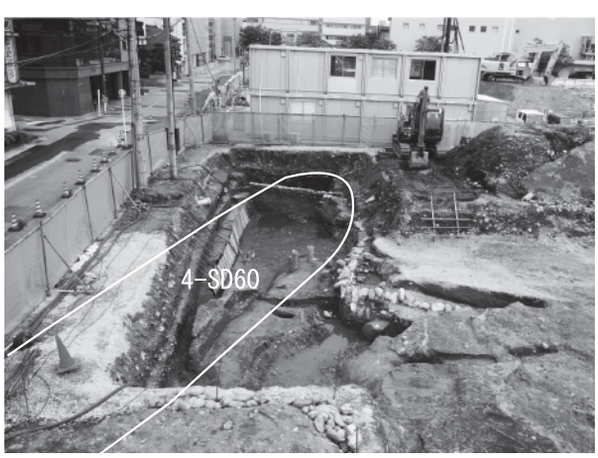
既往の調査区の延長部分の可能性がある遺構を中心に概観した。主な成果として、4-SD1・SD60の規模と拡がりが確認できたことと、3区北側に石組井戸SE35を中心とする遺構群があり、室町～戦国時代の遺構が北側に確実に拡がることも確認できたこと、が挙げられる。（朝田）



第28図　調査区全体平面図・遺構位置図（S=1:1,000）



①2期4区SD1・SX40断面（南から）

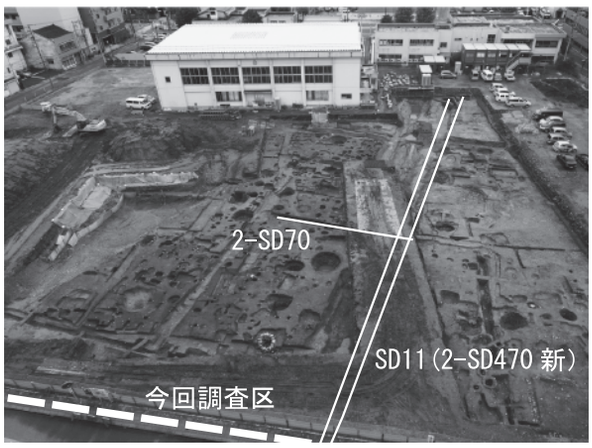


②3期4区SD60・SD1・SX40（西から）

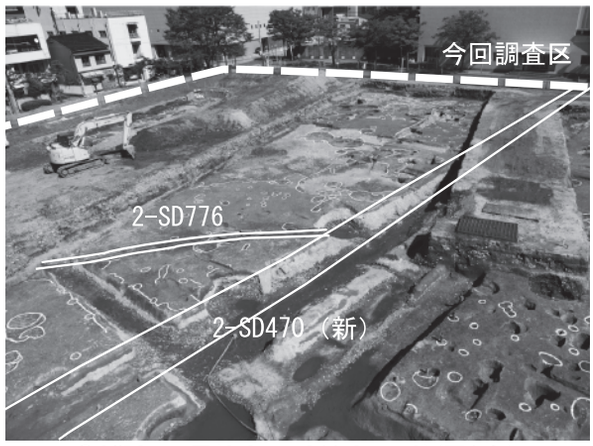
図版1（1）

③2期2区中層と今回調査区(南から)

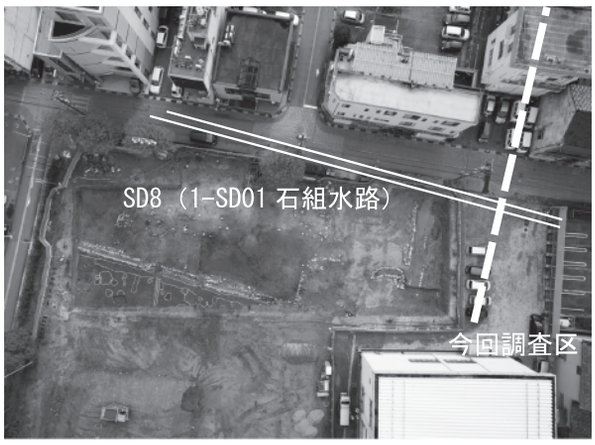
④2-SK1000断面及び遺物出土状況(南西から)



⑤2期2区中層と今回調査区(東から)

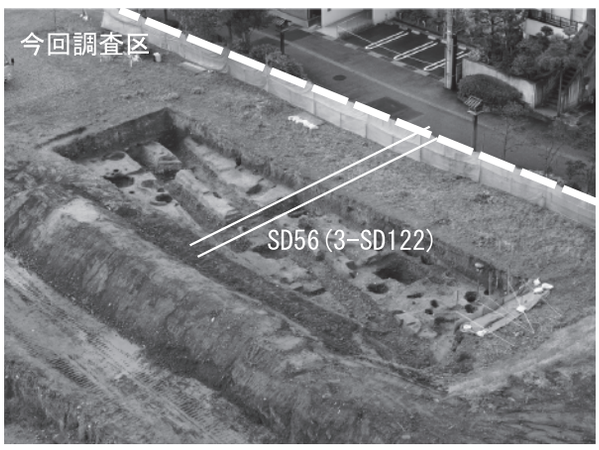


⑥2期2区下層(2-SD470新・SD776)(西から)



⑦1期上層と今回調査区(真上から)

⑧1期SD01石組水路(西から)



⑨3区下層と今回調査区(南東から)

⑩3-SD122(北から)

図版1(2)

第２節　近世富山城内堀について

1.内堀に関する文献史料

二代加賀藩主前田利長が隠居城として慶長10(1605)年に整備した富山城を初代富山藩主前田利次が寛文元(1661)年から改修している。利次による富山城の改修内容は、万治4(1661)年の『江戸幕府老中連署奉書』（以下『万治四年奉書』）に詳細に記載されている。『万治四年奉書』の中で内堀に関する記載として「本丸二之丸西之出丸之堀三ヶ所埋候ニ付而浚候事」とあり、内堀の浚渫が許可されている。内堀の浚渫が必要だったことは、正保4(1647)年に描かれたとされる『越中国富山古城之図』（金沢市玉川図書館所蔵）から伺い知ることができる。古絵図の西ノ丸北側内堀部分には「深三尺」と記されており、内堀の水深が3尺（約90㎝）しかなかったことがわかる。

また、内堀は昭和11(1936)年の『富山市略図』（富山市郷土博物館所蔵）などから、戦前まで開口していたことが確認できる。

2.堀断面の検討

第29図は、2016c調査区復元断面図及び2017調査区復元断面図（第27図）を合わせた内堀全体の合成断面図である。両断面には東西に約70mズレがあり、厳密には同一ライン上にはない。

堀の堆積層は断面観察からおよそ3期に区分できる。最も古い1期は2017調査区北半に確認した北側落ち込み部分で、標高1.2mが堀底となる。堀の埋土は砂礫層（9層）で、砂礫によって堀が一気に埋められたものと推測する。遺物は須恵器、古代土師器、中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、空風輪などが出土した。主な遺物の時期は15～16世紀代である。

2期は、1期堀が埋没した後に新たに開削された堀で、9層を北法面としている。標高1.2mが堀底となる。堀の埋土は堀底付近には黒褐色粘質シルト（7層）が堆積し、北法面付近には9層の崩落土の可能性がある砂礫層（8層）が堆積する。2期の堆積層から遺物の出土はない。

3期は、2期堀を再掘削した堀と推測する。標高2.3mが堀底となり、2期堀より浅い。遺物は、6層と7層の境で北法面付近から近世土師器、越中瀬戸が出土した。遺物の時期は18世紀以降である。

3期堀の上層には、富山大空襲の瓦礫廃棄場として内堀が利用されたことを示す焼土混じりの瓦礫層（1層）が厚さ2～2.5m堆積している。

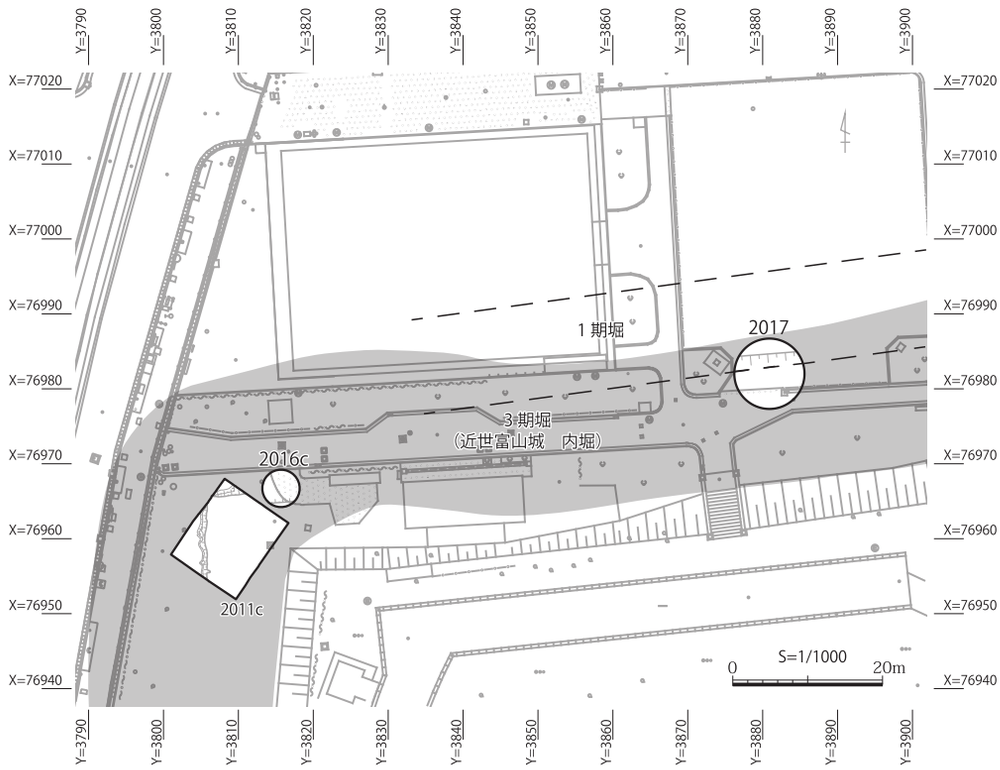
3.考察

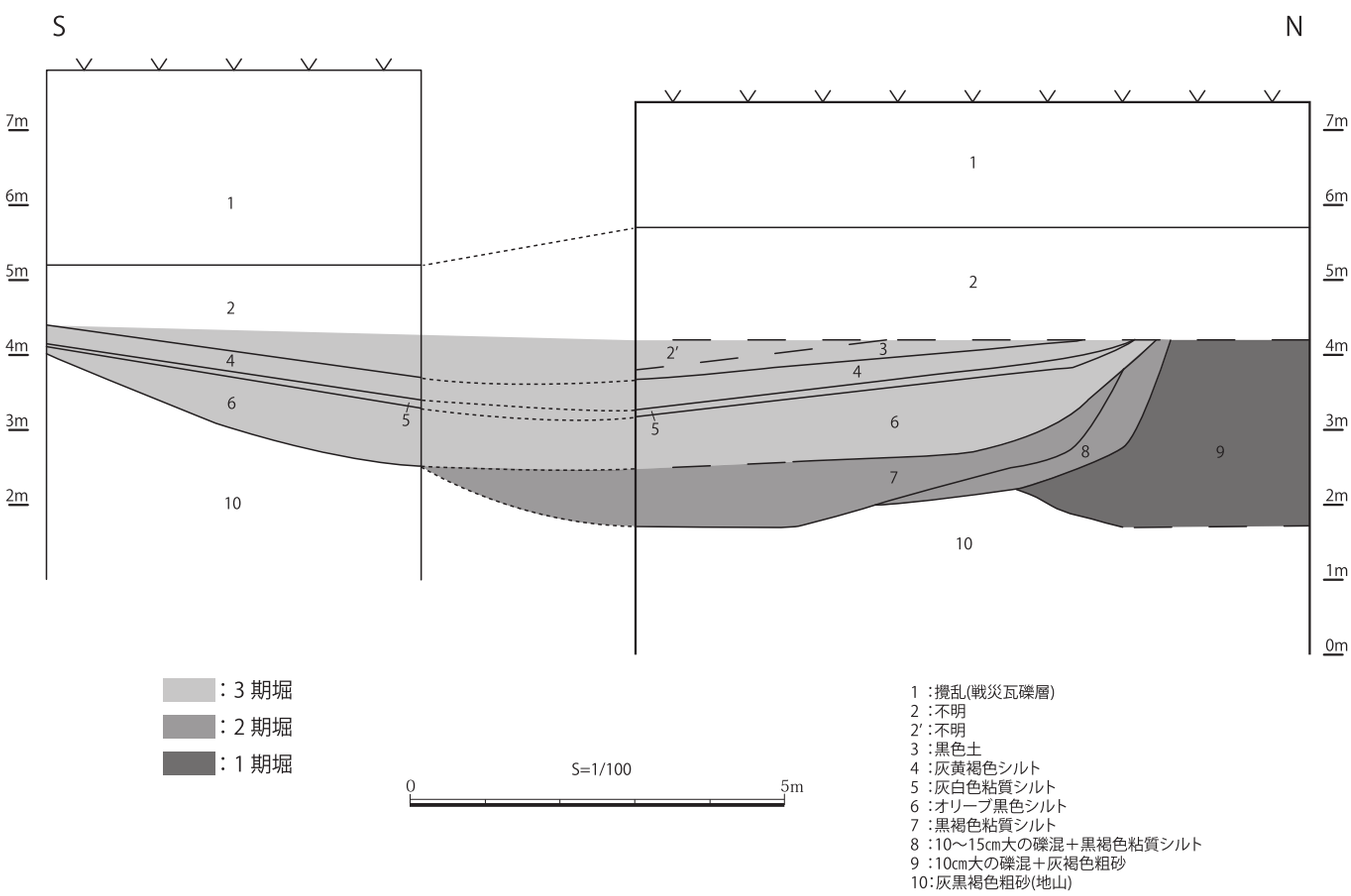
今回調査を行った西ノ丸北側内堀は戦前まで開口しており、戦災瓦礫層1層の真下で確認できる3期堀が近世富山城の内堀であることがわかる。3期堀は2期堀の再掘削であり、3期堀の最下層の埋土から出土した遺物の時期が18世紀以降の遺物であることから、3期堀が寛文の改修時に幕府に許可された内堀の浚渫の痕跡と推測する。3期堀の深さが2期堀より浅くなっていたことは平成26年度の2014d調査区発掘調査で寛文の改修時に浅く掘削されていたことを確認した近世富山城外堀〔富山市教委2017a〕と同様の状況といえる。3期堀が寛文の改修の痕跡であるならば、遺物の出土はないが2期堀は慶長期に整備した富山城の内堀の可能性が高い。

また隣接する2011c調査区で確認した内堀の堀底は標高1.9～2.0mであり、今回の2016c調査区内で2期堀を確認できなかったことを考えると、2011c調査区で確認した内堀は2期堀と推測する。

1期堀から15～16世紀代の遺物が出土すること、2期堀に削平されていることから1期堀は中世富山城の堀と推測する。また、砂礫層で一気に埋め立ててあることから、天正13(1585)年の豊臣秀吉の命による破却行為の痕跡である可能性がある。

今回は工事立会の調査結果からの検討であり、今後の調査をもって再検討をしたい。　（堀内）





第29図　内堀横断面合成図

第３節　病院銘の陶磁器について

1.はじめに

今回の工事立会調査で土坑SK5及びSK9からまとまって富山市民病院銘入りの陶磁器が出土した。近年、隣接する発掘調査区においても病院銘の入った陶器やガラス製品が出土したことから、近代における病院の変遷を概観し、これらの用途について検討したい。

2.富山市民病院銘の陶磁器

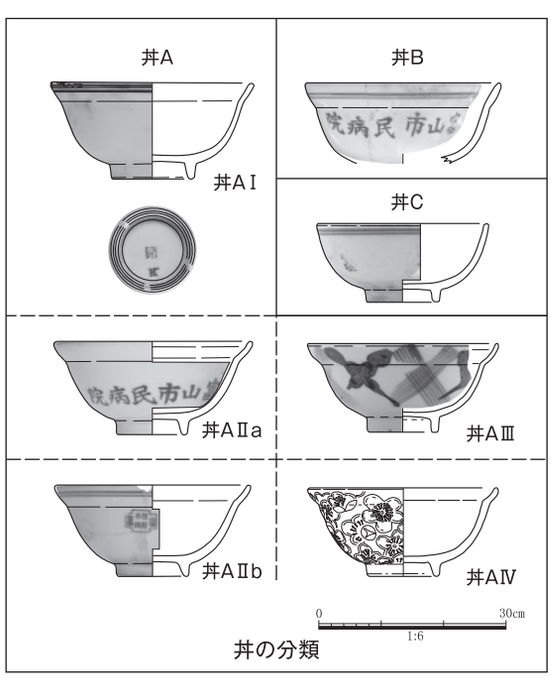
器種には、丼、丼蓋、碗、皿（中・小）、輪花皿、湯呑がある。病院銘が多用される丼について、分類・検証を試みる。丼は、口縁部が内傾ぎみに外反し蓋が付く丼Aと、口淵部が外反し内面に稜を持たない丼B、口縁が外反しない丼Cがある。

丼Aは、外面口縁部に緑色の二重圏線を施し、病院銘を付さず底部に統制番号を付す丼ＡⅠと外面口縁部に二重圏線を施し、病院銘を付す丼ＡⅡに分類した。また、丼ＡⅡは病院銘を上絵の朱書きで右横書き（院病民市山富）する丼ＡⅡaと、病院銘を緑色でスタンプする丼ＡⅡbに分類、外面口縁部に二重圏線を施さず、植物などの色絵を施す丼ＡⅢ、二重圏線を施さず、内外面に青磁釉を施すもの丼ＡⅣとした。蓋はそれぞれの後に蓋を付す（例：丼ＡⅣ蓋）。丼Cは病院銘を朱書きで左横書き（富山市民病院）する。

次に製作年代について検討する。丼ＡⅠは統制番号「岐971」（＊1）が付されていることから、昭和15（1940）年8月から21（1946）年頃（＊2）の間に製作された統制陶磁器である。丼ＡⅡの右横書きと左横書きについて、太平洋戦争前は右横書きが優勢であったが、昭和15年頃から左横書きが散見されるようになり、『公用文作成の要領』（昭和26年10月30国語審議会審議決定・同27年4月4日内閣官房長官依命通知）で「書類の書き方についてなるべく広い範囲にわたって左横書きとする」こととなった。新聞の見出しの横書きは昭和23年頃までに左横書きに切り替わっている。これらのことから、昭和25年前後に右横書きから左横書きに替わっていることがうかがえる。よって、丼ＡⅡaは昭和21年～昭和25年頃に製作され、丼ＡⅡbは昭和25年頃以降に製作されていたと推測できる。

一方、土坑SK9から出土する丼は丼ＡⅡaに限られる（丼蓋を含め）。土坑SK5からは、丼ＡⅡaと丼Cが混在して出土していることから、SK9はSK5よりやや古い時期（昭和25年頃以前）に埋まったことが推測される。丼ＡⅢ・丼ＡⅣはいつ頃から生産され始めたかは不明であるが、いずれもSK9からの出土のため、丼ＡⅡaとほぼ同時期に生産・使用されていたことが推測される。丼ＡⅡcタイプは全てSK５からの出土となり、昭和25年頃以降に製作されていたと推測できる。

丼などの食器の出土類品として、金沢市宝町遺跡出土の病院給食器がある（金沢大学埋蔵文化財センター2017）。



丼の分類

3.近代病院の動向と「病院」銘入り陶器瓶

明治維新までの医療は、医師が患者の自宅を往診するスタイルで、外来も入院もなかった。病院という患者を収容して治療をする施設は、江戸の小石川養生所と長崎の小島養生所のみであった（福永2014）。小島養生所は文久元（1861）年、日本初の西洋式近代病院として長崎市に開所した。平成27（2015）年には養生所跡が発掘調査され、石垣やヨーロッパ製のガラス薬瓶などが出土し、注目を集めた。

西洋式近代病院は、北陸では明治3（1870）年に金沢藩立医学館（現・金沢大学附属病院）が金沢市大手町津田玄蕃邸に開設、同年、福井藩立魁病院が開設された。医学館は黒川良安（上市町生まれ、長崎で蘭方医学を学び、金沢で開業）が藩命で開設した。明治8（1875）年、医学館が石川県に移管され、石川県病院となる。廃藩置県で新川県となった越中国内でも、病院の必要性が建議されていた。高桑致芳は公立病院の必要性を唱えて、新川県令に請願書を提出し、その結果医学所及び付属病院の設置がほぼ決定されるが、明治9（1876）年4月に新川県が石川県へ編入され実現しなかった。その後も富山から病院誘致の陳情が相次いだ（金沢大学1999）。その計画は石川県に引き継がれて、同年10月には石川県権令桐山純孝から「公立金沢病院富山分院」設置の命令が出た（富山県1981）。

これを受け富山市千石町の武家地、加藤貞知邸に公立金沢病院富山分院が仮設置される（高桑1895）。病院長は田中信吾（緒方洪庵の適塾出身）、その翌年の同10年11月、石川県富山病院と改称し、総曲輪（現・大手町、富山市民プラザの場所）に新築移転した。同年に富山病院内に医学所が設置された。同16年7月、富山県が設置されると同時に富山県富山病院と改称し、同21年4月には上新川郡立病院、同22年4月には新川郡と婦負郡２郡立の新負病院となり、同24年4月には富山市立病院となった。同32年までは市内唯一の総合病院であったが、同年8月の市内大火で焼失した。千石町に仮設置された公立金沢病院富山分院は、西洋式近代病院システムが導入された現在の富山県内最初の病院である。旧総曲輪小学校跡地（2015b）からは、「富山病院」銘が陽刻されたガラス製薬瓶が4点出土した（211～214）。大火の後、同34年8月、富山市立病院が旧敷地にて新築された。同40年5月、市立病院を富山市より買収して、日本赤十字社富山支部病院が開設された。2015b地点の調査では、「日本赤十字社富山支部病院」銘陽刻されたガラス製薬瓶が2点（215・216）出土している。

一方、富山市総曲輪四丁目・旅籠町にまたがるマンション新築工事に先立つ発掘調査(2008b)で、「病院」銘の陶器製徳利瓶（210）が１点出土した。明治時代前期まで生産された越中丸山あるいは小杉焼製とみられ、千石町から総曲輪に移転した富山病院にて使用されていたと推測されている（鹿島2016）。「病院」のみで「富山病院」と銘記されなかったのは、明治32年まで市内唯一の総合病院であったことからと推測される。同地区では、「高村薬□ヵ」（□は房・局か）と記された陶器瓶の体部片（208）も1点出土した。

「病院」銘入り陶器瓶は、これまで旧総曲輪小学校跡地（2014b）、小矢部市五社遺跡で各１点出土している（県財団1998）。五社遺跡のある県西部では、伏木町（現・高岡市）で明治14（1881）年に、県内で最初の私立病院である長谷川病院が創立し、同18年に今石動町（現・小矢部市）、同22年には津沢町（現・同市）に病院が開設された（小矢部市1971）。病院銘入り陶器瓶が出土した五社遺跡は、これらの病院に近接しておらず、その背景を検討する必要がある。また砺波民具展示室には「長谷川福光分病院」銘の陶器瓶が1点収蔵されており（*3）、同じ銘の個人蔵の陶器瓶も1点確認している（鹿島2016）。長谷川病院福光分院では、感染症の検査や治療に効果のある血清療法による治療が行われていた。同病院の創設者、長谷川徳之は伝染病が頻発していた当時、防疫活動に従事し（高井2003）、毎年伏木町児童に無料で種痘を施すなど公衆衛生に尽力していた（寺畑1987）。

一方、石川県金沢市の前田氏（長種系）屋敷跡から「金沢病院」と書かれた徳利瓶が1点出土した（口径2.2㎝、底径6.1㎝、高さ18㎝）。当屋敷地東側には、津田玄蕃邸があり、明治3年に開設された金沢藩医学館を前身とする金沢病院（同5年）があった。同8年に石川県金沢病院として経営が県に移管した後、同38年に中石引町に移転新築するまで、当地にあったとされる（石川県教育委員会ほか2002）ことから、この金沢病院にて何らかの用途で使用されていたとみられる。他に金沢市広坂遺跡でも同様の徳利瓶（口径2.8㎝、底径6.3㎝、高さ17.5㎝）が1点出土している（金沢市2009）。

さらに、福井県坂井市の三国焼札場窯から出土した陶片にイッチン掛けによる「福井病院」銘の薬瓶とされる陶器片がある（龍翔館1987）。札場窯は明和5（1768）年に開窯し、明治29（1896）年に廃窯となっている。福井病院は、石川県富山病院と同時期に石川県福井病院として開設され、その分病院が坂井港に設置されていた。

また、富山城下町遺跡では、「日精堂」銘の磁器瓶（207）や陶器瓶（208）も出土した。

富山、石川、福井の病院銘入り陶器瓶はいずれも19世紀後半の明治前期に生産・使用されていたと推測される。福井例は、小瓶（目薬サイズヵ）であるが富山・石川の例は徳利サイズである。江戸期の通い徳利のような使用方法も考えられるが、長谷川病院福光分病院における療法や時代背景からも伝染病対策用の消毒用の生理食塩水やアルコール容器、薬瓶などの医療用品としての用途を推測しておきたい。

写真1　左:「金沢病院」銘徳利（＊4）、中:208、右:210

写真2　「長谷川福光分病院」銘徳利

4.富山市民病院の開設と病院用食器について

明治40（1907）年に富山市立病院が日本赤十字社富山支部病院になって以降、当地には明治43年に県立薬学専門校が新築竣工し、大正13（1924）年には富山警察署が薬学専門学校跡に移転、昭和15（1940）年には富山警察署跡に富山市工業指導所を設けるといった変遷をたどる。明治40年以降は市立の総合病院は存在しなかった（＊5）。

昭和20年８月の富山大空襲によって富山市内の公私立の医療施設は壊滅した。同年９月14日に富山市議会が開会され、富山市民病院建設費の予算が提出され全会一致で可決された。更に11月16日、市民病院の設置が富山市参事会に附議され、可決された。

昭和二十年　富山市參事會議決書附會議録　富山市役所

議案第二十一號

　市民病院設置ノ件

本市ハ傷病者ニ對スル診療ヲ行フ為メ市民病院ヲ設置シ其ノ名稱、位置及患者収容定員ヲ左ノ通定昭和二十一年壹月一日ヨリ其ノ供用ヲ開始スルモノトス

　昭和二十年十一月十六日提出

富山市長　石坂豊一

記

一、　名稱　　富山市立富山市民病院

一、　位置　　富山市總曲輪三八九番地

一、　患者収容定員　五十名

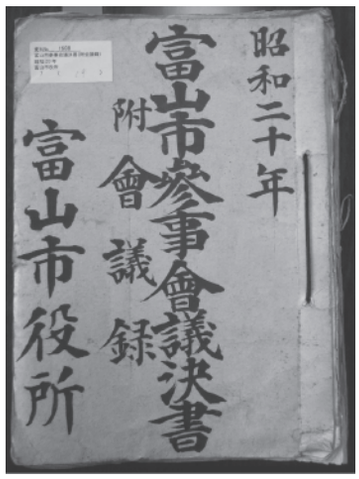


写真３

（富山市公文書館資料No.1988）

『富山市民病院史』によると、昭和21年1月30日に第1病棟が竣工し、2月5日に富山市民病院仮開院式並びに病棟竣工式を挙げ、2月12日から診療を開始した。病院開設許可申請書を富山県知事に提出し、12月1日富山県指令第2047号で許可された。県からは戦災地の医療施設として市民の福祉を図るとともに運営の円滑を期し、市民の医療施設として適正な医療の普及、充実に格段の努力と熱意をもって当たるよう要望された。

また、入院患者及び付添人の便宜上、食堂設置の要望があり、総曲輪の宮本力雄が経営することになった（富山市立富山市民病院1987）。同病院史の診療棟、病棟見取図には北側の第一病棟と南側の第二病棟にそれぞれ「炊事場」の表記が見える。今回の調査で富山市民病院銘の病院用食器が出土した土坑は、第二病棟の炊事場に近接しているとみられ、ここで使用されていたものが廃棄されたと推測することができる。

以上のことから、SK5、9で出土した「富山市民病院」銘の陶磁器は、昭和20年11月に富山市立富山市民病院の名称が定まった以降に製作されたことが分かる。その一方、右横書きで「院病民市山富」と書かれた丼や丼蓋などには、口縁部に二重圏線を有する厚手の食器、国民食器が用いられる。この食器は、工場や病院、軍隊施設などにおいて給食用の食器として生産され用いられた（瑞浪市2012）。終戦直後の物資不足の中、戦前から使用されていた国民食器や統制陶磁器などを利用しながら病院用給食食器を確保していた実態を垣間見ることができ、近代から現代への移行期の病院史を物語る貴重な資料である。（鹿島）

註

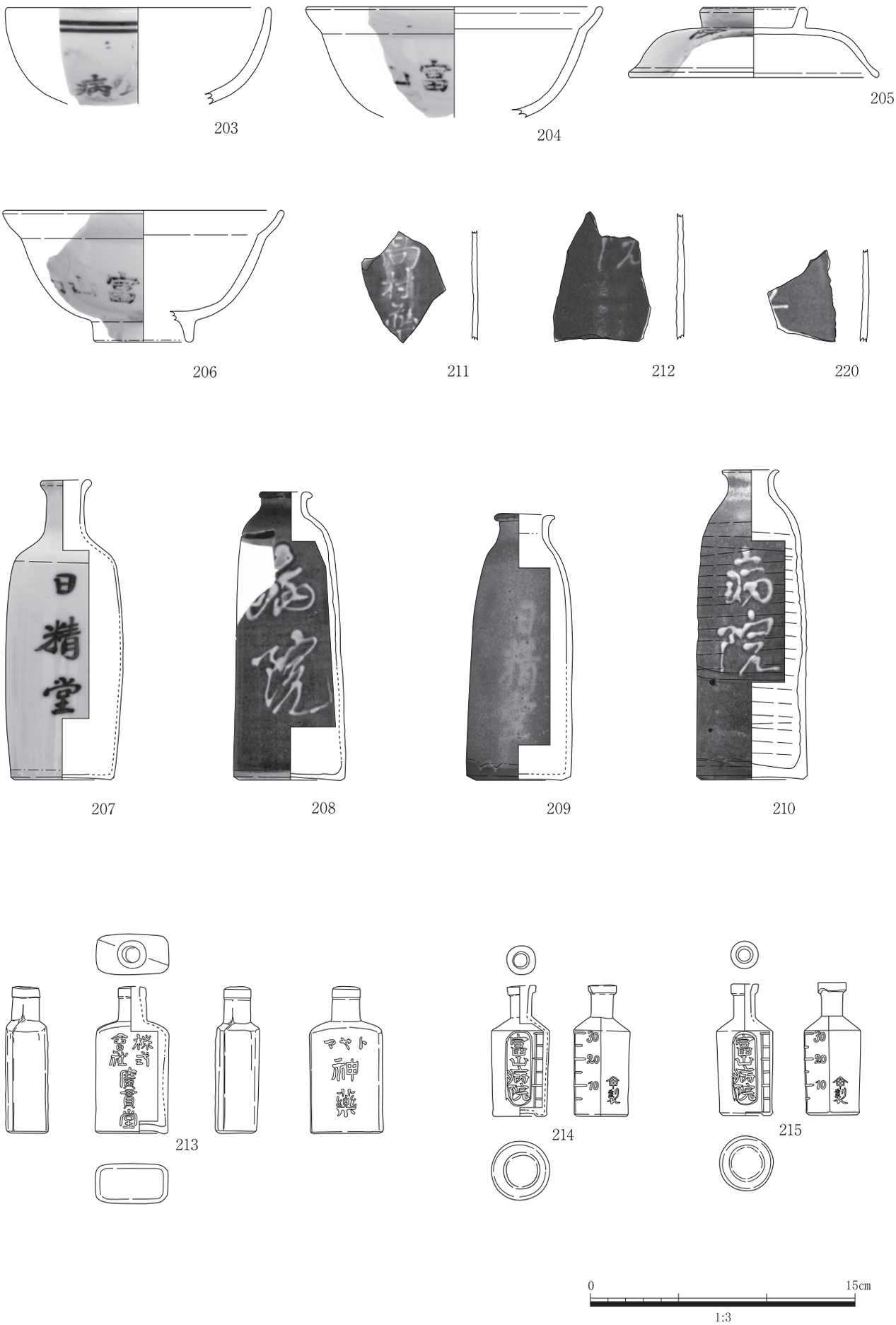
＊1　統制番号「岐阜971」は、美濃古窯研究会1999『美濃の古陶』によると、駄知陶磁器工業組合の駄知町（現・岐阜県土岐市）塚本久造が生産者であることが分かる。

＊2　萩谷茂行2013「統制経済下における陶磁器製品製造、流通の一考察～いわゆる「統制番号に関する検証」『瑞浪市歴史資料集』第2集 瑞浪市陶磁資料館を参考

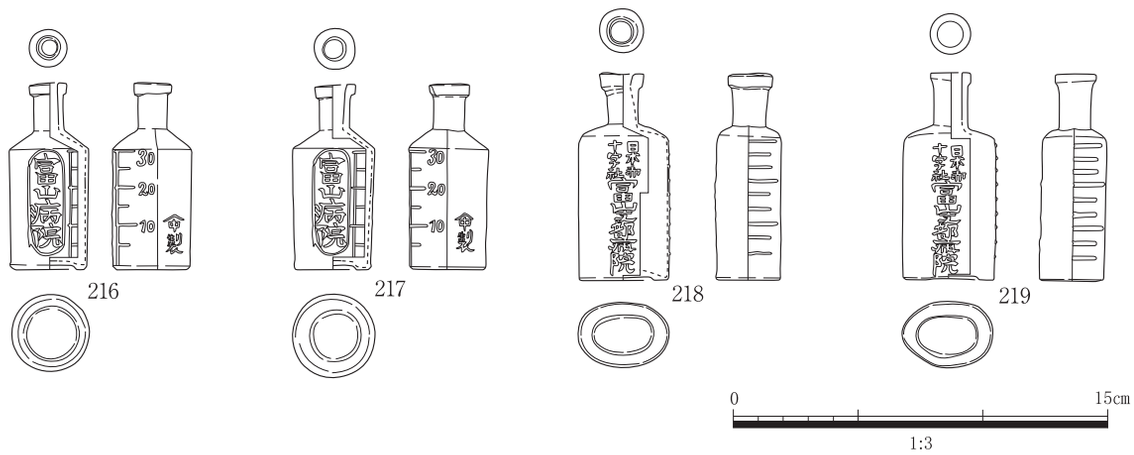
＊3　口径2.6㎝、底径6.2㎝、高さ16.4㎝

＊4　（公財）石川県埋蔵文化財センター所蔵

＊5　昭和19年1月1日現在の「富山市有財産表」『昭和十九年富山市會議決書』には、大正7年に建築された「神通病院」の記載が見える。神通病院は、1989『船橋向かいものがたり―愛宕の沿革』によると、牛島の伝染病院が「市立神通病院」として新築し、改称された。コレラ患者などを隔離する避病院であった。



第30図(1)　遺物実測図版（近隣調査区病院関連）（203～215・210）



第30図(2)　遺物実測図版（近隣調査区病院関連）（216～219）

第4表　遺物観察表（近隣調査区病院関連）

報告書No.	地区	遺構No. 種類	遺構No. No.	出土位置・備考	遺物種類	器種	遺物年代	遺物種類・器種備考	法量（単位はcm）＊（ ）は復元値〈 〉は残存値 口径	底(高台)径	器高	残存率 口縁	底部	胎土密度・色調、釉の種類・色調 焼成	釉の種類	色調
203	2014d	—	—	排土	磁器	碗		外面に上絵(赤)で「(院)病民(市山富)」	(14.80)	—	〈5.5〉	5	0	良	透明釉	N8/0灰白
204	2014d	—	—	排土	磁器	丼		外面に上絵(赤)で「富山市民病院」	(16.60)	—	〈6.3〉	15	0	良	透明釉	N8/0灰白
205	2014d	—	—	排土	磁器	丼蓋		外面に上絵(赤)で「富山市民病院」56と接合	14.00	ツマミ 5.6	4.00	25	30	良	透明釉	N8/0灰白
206	2014d	—	—	排土	磁器	丼		外面に上絵(赤)で「富山市民病院」	(15.50)	(5.20)	7.50	5↓	5	良	透明釉	N8/0灰白
207	2014d	SD	4	堀埋土上層　砂	磁器	瓶		体部に染付で「日精堂」の文字	2.40	5.40	17.00	100	100	良	透明釉	—
208	2014d	SD	4	堀埋土粘土	陶器	瓶		体部に「病院」の文字	2.50	5.70	16.30	100	100	良	灰釉+長石釉	5Y6/3灰オリーブ黄(釉)、7.5YR5/4にぶい褐
209	2014e	—	—	検出面	陶器	瓶		体部に「日精堂」の文字	3.00	4.80	15.10	100	100	良	灰釉	2.5Y5/4にぶい赤褐、5Y7/3淡黄（釉）
210	2008b	SD	1	F3区	陶器	瓶		体部に「病院」の文字	(3.00)	6.30	17.30	100	100	良	灰釉／（下）錆釉	胎土N4/0灰、釉調10Y5/2オリーブ灰
211	2008b	SD	15	F2区	陶器	瓶		体部に「高村薬」の文字	—	—	〈6.35〉	0	0	良	灰釉＋長石釉	胎土10YR6/3にぶい黄橙、釉調2.5Y5/4黄褐色（外）
212	2008b	—	—	包含層	陶器	瓶		体部に「院」の文字	—	—	〈6.6〉	0	0	良	灰釉	胎土7.5YR5/4にぶい褐、釉調10Y5/2オリーブ灰
213	2008b	—	—	F2区試掘トレンチ	ガラス	瓶		褐色ガラス、体部に「トヤマ神薬」「株式會社廣貫堂」の文字	1.70	4.1×2.3	8.35	100	100	—	—	—
214	2015b	SK	116	—	ガラス	瓶		青みのある透明ガラス、体部に目盛・10・20・30の数字、「富山病院」「〇製」の文字、中に白色の固形物あり	1.75	2.85	7.15	100	100	—	—	—
215	2015b	SK	116	—	ガラス	瓶		青みのある透明ガラス、体部に目盛・10・20・30の数字、「富山病院」「〇製」の文字	1.60	3.05	7.50	100	100	—	—	—
216	2015b	SK	116	—	ガラス	瓶		青みのある透明ガラス、体部に目盛・10・20・30の数字、「富山病院」「〇製」の文字	1.60	2.80	7.40	100	100	—	—	—
217	2015b	SK	116	—	ガラス	瓶		青みのある透明ガラス、体部に目盛・10・20・30の数字、「富山病院」「〇製」の文字、中に黒色の固形物あり	1.50	2.80	7.50	100	100	—	—	—
218	2015b	—	—	Ⅱ層	ガラス	瓶		透明ガラス、体部に目盛、「日本赤十字社富山支部病院」の文字	1.80	3.6×2.6	8.20	100	100	—	—	—
219	2015b	—	—	Ⅱ層	ガラス	瓶		透明ガラス、体部に目盛、「日本赤十字社富山支部病院」の文字	1.65	3.75×2.65	8.30	100	100	—	—	—
220	2013c	SD	2	北側　石積みの下	陶器	瓶		体部に「院」の文字の一部	—	—	〈5.2〉	0	0	良	（内）鉄釉（外）灰釉	胎土N4/0灰、釉調10Y5/2オリーブ灰（内）・7.5Y5/3灰オリーブ（外）

第４節　富山城跡(2016c 調査区)出土の動物遺存体

1.はじめに

今回、報告する資料は、2016年度に行われた下水管埋設に伴う富山城跡の立会調査の際に出土した動物遺存体である。資料は、そのほとんどが包含層中から出土しており、詳細な出土位置は不明である。また、資料の帰属時期は、共伴した遺物の年代から江戸時代から近現代にいたると考えられる。

資料は総点数で15点を数え、そのすべてを同定することができた。イワガキが最も多く計10点出土しているほか、アワビ類、エゾバイ科、サルボウガイ、コタマガイまたはオキアサリと考えられるもの、ニホンジカが各1点出土している。

以下、資料の詳細を述べる。

2.分類群ごとの詳細

貝類

アワビ属の一種(*Haliotis* sp.)：包含層中から殻が1点出土している。破片のため、大きさは分からない。

エゾバイ科の一種(Buccinidae gen. et sp. Indet.)：包含層中から殻が1点出土している。破損が著しく、計測はできないが、殻高55㎜前後の個体と考えられる。

イワガキ(*Crassostrea nippona*)：包含層中から左殻3点、右殻7点の計10点が出土している。計測できたものは右殻のみであるが、殻高85～115㎜前後のものが出土している。

サルボウガイ(*Anadara kagoshimensis*)：包含層中から右殻が1点出土している。殻長75.7㎜、殻高66.8㎜を計る大型の個体である。

コタマガイまたはオキアサリ(*Macridiscus melanaegis or Macridiscus multifarious*)：包含層中から左殻が1点出土している。形状的にはコタマガイに近似するが、破損しており殻の全形が不明瞭なため、明確な同定は避ける。

哺乳類

ニホンジカ(*Cervus Nippon*)：排土から上腕骨(左)が1点出土している。成獣のものであり、遠位端最大幅41.3㎜を計る。遠位端内側面及び前面外側に、解体する際についたと考えられる刃物傷が見られた。傷の鋭さ等から見て金属器により付けられたものと考えられる。

3.考察

今回分析した資料は、イワガキを主体とし、バイ類やサルボウ、アワビ類等が少量ずつ混じるほか、解体痕のみられるニホンジカの出土も見られた。これらの種類は、サルボウを除いてこれまでの富山城・城下町遺跡の調査で江戸時代から近代の遺構、包含層から出土しているものばかりであり、今回の分析結果は、江戸時代から近代における富山城・城下町における動物利用の傾向と大まかに一致するといえる。

また、今回の組成をこれまでの三ノ丸の調査出土資料、特に2015b、2016a地区出土資料の様相と比較すると、特に貝類について、イワガキが多く、これまでの調査で多く出土していたシジミ類の出土が見られない。今回分析した資料が出土した地点とこれまでの調査地点の位置関係を踏まえるならば、この様な差異は同じ武家屋敷地内における場の使い分けを示していることが可能性の一つとして考えられる。

しかし、今回分析した資料は、江戸時代から近現代という広い時期幅で捉えざるを得ないものであり、近代に入り、場の性格が変化したことにより、モノの廃棄傾向が変化したことに伴う可能性も考えられるだろう。その為、本稿ではこの点についての積極的な解釈は差し控えたい。

4.おわりに

今回の分析では、出土状況に不明確な部分が多いものの、分析対象資料の出土傾向が江戸時代から近代にかけての富山城・城下町における動物利用の傾向と大まかに一致することが確かめられた。更にこれまでの三ノ丸出土資料の様相と比較したところ、これまでの三ノ丸出土資料とは様相が異なることが明らかになった。

今回の分析では、資料の帰属時期が不明確な為、既往の調査例との差異については、踏み込んだ検討をすることができなかったが、今後は帰属時期の明確な資料を用いて、先に挙げた場の使い分けや廃棄傾向の変化といった点についての検討を進めることが求められる。（納屋内）

《参考文献》

納屋内高史2017「出土動物遺存体から見た近世富山城下町の食生活」『江戸藩邸と国元・金沢の食生活』東京大学埋蔵文化財調査室調査研究プロジェクト3,東京大学埋蔵文化財調査室・加賀藩食文化史研究会,pp.25-34.

納屋内高史2017「富山城下町遺跡主要部(2016b地区)出土の動物遺存体」『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書 - 総曲輪三丁目地区第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 -』富山市埋蔵文化財調査報告89,pp.77-81.

納屋内高史2017「動物遺存体分析」『富山城跡発掘調査報告書 - 総曲輪レガートスクエア整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(1) -』富山市埋蔵文化財調査報告88,富山市教育委員会,pp.121-126.

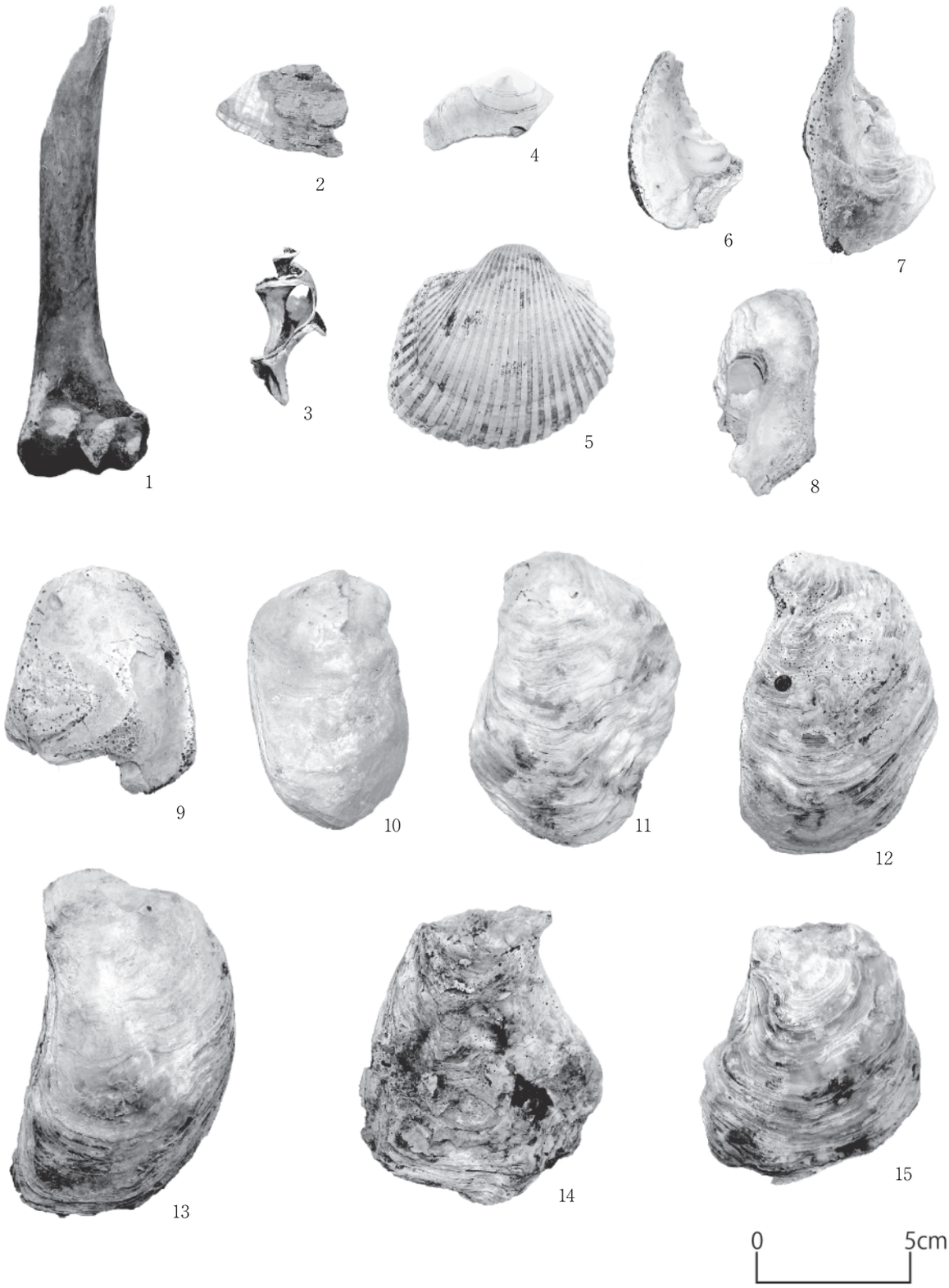
納屋内高史2018「動物遺存体分析」『富山城跡発掘調査報告書 - 総曲輪レガートスクエア整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2) -』富山市埋蔵文化財調査報告93,富山市教育委員会,pp.46-50.

表1：出土動物遺存体集計表

出土位置	種別	種名	部位	左右	点数	合計
包含層	貝類	アワビ類	殻	−	1	1
		イワガキ	殻	L	3	10
				R	7	
		エゾバイ科	殻	−	1	1
		コタマガイ/オキアサリ	殻	L	1	1
		サルボウガイ	殻	R	1	1
排土	哺乳類	ニホンジカ	上腕骨	L	1	1
総計						15

表2：出土動物遺存体集計表

出土位置	種別	種名	部位	左右	計測値
包含層	貝類	イワガキ	殻	R	殻長:66.85,殻高95.50
	貝類	イワガキ	殻	R	殻長:63.35,殻高:114.60
	貝類	イワガキ	殻	R	殻長:51.50,殻高:85.35
	貝類	イワガキ	殻	R	殻長62.15,殻高:99.05
	貝類	イワガキ	殻	R	殻長:79.40,殻高:95.55
	貝類	イワガキ	殻	R	殻長:72.05,殻高:84.00
	貝類	サルボウ	殻	R	殻長:75.65,殻高:66.75
排土	哺乳類	ニホンジカ	上腕骨	L	Bd:41.25



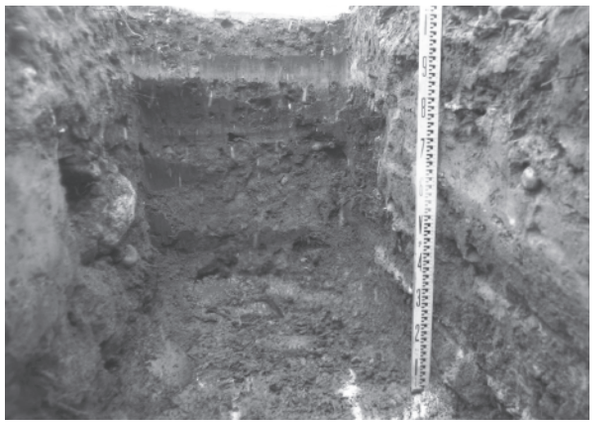
1：ニホンジカ上腕骨L,2:アワビ類,3:エゾバイ科殻,4:コタマガイ or オキアサリ左殻,4:サルボウガイ右殻,6～8:イワガキ左殻,9～15：イワガキ右殻

引用・参考文献

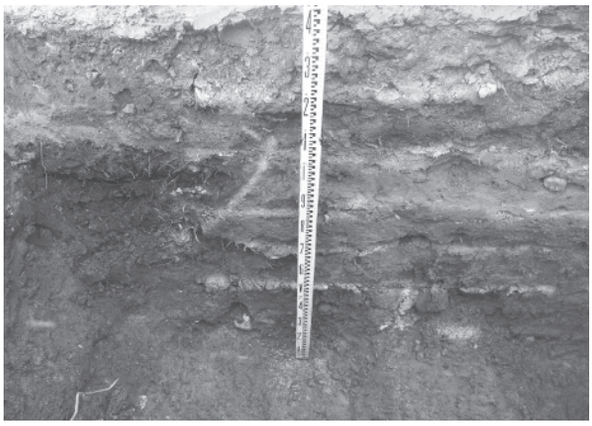
愛知県史編纂委員会　2007　『愛知県史』別編　中世・近世　瀬戸系　窯業２
赤祖父一知1993「石川県富山病院・同医学所について」『医譚』第64号
石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター2002『金沢市前田氏（長種系）屋敷跡』
小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』№2日本貿陶磁研究会
尾山京三2004『富山県の陶磁器思考（1）藩政時代～昭和終戦時代』（株）シンクハウス
鹿島昌也2011「富山市総曲輪遺跡出土の墨書土器「宅持」について」『大境』第30号　富山考古学会
鹿島昌也2015「富山城下町遺跡出土「病院」銘入り徳利形陶器瓶の意義について」『日本考古学協会第81回総会 研究発表要旨』日本考古学協会
鹿島昌也2016「富山県内の近代「病院」銘入り陶器瓶について」『富山市の遺跡物語』第17号富山市教育委員会 埋蔵文化財センター
金沢市2009『広坂遺跡（1丁目）Ⅴ』
金沢大学埋蔵文化財センター2017『金沢大学構内遺跡―角間遺跡、宝町遺跡、鶴間遺跡―』
久保尚文1983「富山城の形成と神保氏」『越中中世史の研究』　桂書房
久保尚文2014「京都東岩蔵寺と富山郷　－越中地域史研究の原点⑩－」『富山史壇』第174号　越中史壇会
九州近世陶磁学会　2000　『九州陶磁の編年』
定塚武敏　1974　「越中の焼きもの」『富山文庫』２　巧玄出版
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1998『五社遺跡』7
瑞浪市陶磁資料館2012『特別展 番号の付されたやきもの』
瀬戸市史編纂委員会　1988　『瀬戸市史陶磁史編』２
瀬戸市史編纂委員会　1993　『瀬戸市史陶磁史編』５
瀬戸市史編纂委員会　1998　『瀬戸市史陶磁史編』６
総曲輪通り南地区市街地再開発組合・富山市教育委員会2006『富山城跡発掘調査報告書』
総曲輪四丁目・旅籠町地区開発協議会・富山市教育委員会2010『富山城跡発掘調査報告書』
高井靖夫2003「県下初の私立病院創立者長谷川徳之」『高岡の図書館』第69号
多治見市教育委員会　1993　『美濃窯の焼物』
寺畑喜朔1987「長谷川徳之の事績と系譜」『医譚』復刻第55号
富山県1981『富山県史』通史編Ⅴ近代上
富山市教育委員会2004『富山城跡試掘確認調査報告書』
富山市教育委員会2005『富山城跡発掘調査概要』
富山市教育委員会2006a『富山市金屋南遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
富山市教育委員会2006b『富山城跡試掘確認調査報告書』
富山市教育委員会2007『富山市金屋南遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
富山市教育委員会2008『富山城跡試掘確認調査報告書』
富山市教育委員会2009a『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉Ｂ遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会2009b『富山城跡試掘確認調査報告書』
富山市教育委員会2012『富山市百塚遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会2014『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書』
富山市教育委員会2015a『千石町遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会2015b『富山城跡・富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書』
富山市教育委員会2015c『富山市埋蔵文化財調査概要ＸⅤ』
富山市教育委員会2016『富山城跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会2017a『富山城跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会2017b『富山城跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会2017c『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書』
富山市教育委員会2018a『富山城跡本丸石垣解体修理発掘調査報告書』
富山市教育委員会2018b『富山城跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会2018c『富山城跡発掘調査報告書』
富山市郷土博物館2005『富山城ものがたり』
富山市郷土博物館2015『特別展　都市“富山”の四○○年』
富山市上下水道局・富山市教育委員会2012『富山城跡発掘調査報告書』
富山市立富山市民病院1987『富山市民病院史　創立40周年記念』
富山市路面電車推進室・富山市教育委員会2009『富山城跡発掘調査報告書』
西町南地区市街地再開発組合・富山市教育委員会2014『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書』
西田尚紀1972「石川県（金沢）病院および医学所」『金沢大学医学部百年史』
福永肇2014『日本病院史』株式会社ピラールプレス金沢大学1999『金沢大学五十年史』
古川知明2006「慶長期富山城と城下町構造」『富山史壇』第150号　越中史壇会
古川知明2014『富山城の縄張と城下町の構造』桂書房
古川知明・野垣好史・小林高太・蓮沼優介2010「富山藩主前田家墓所長岡御御廟所基礎調査報告」『富山市考古資料館紀要』第29号　富山市考古資料館
宮田進一　1988　「越中瀬戸の窯資料1」『大鏡』第12号　富山考古学学会
宮田進一　1998　「第４節　越中瀬戸の変遷と分布」『中・近世の北陸』　桂書房
龍翔館＜三国町郷土資料館＞1987『第6回 特別展「三国焼」展』

SD8断面 (東から)

SD8検出状況 (南から)



SD11検出状況 (南西から)

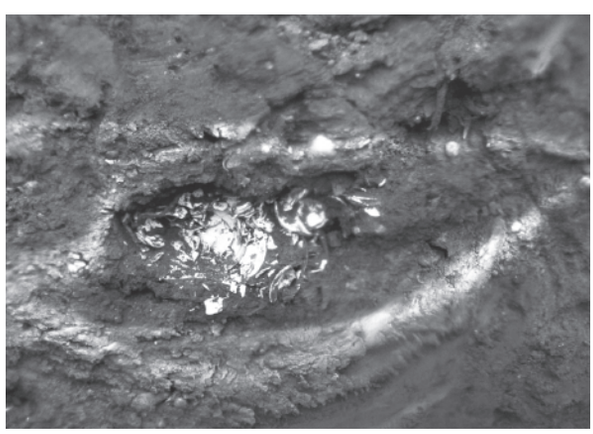


SD11完掘 (東から)

SD11 北肩部分 (東から)

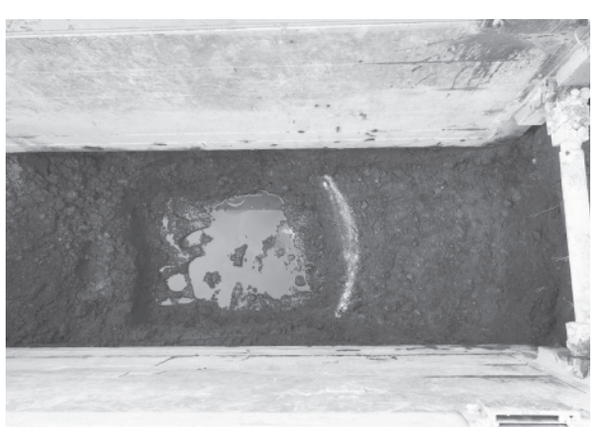
SK5断面 (西から)

SK5遺物出土状況 (南西から)



SK9断面 (西から)

SD10北肩部分 (東から)



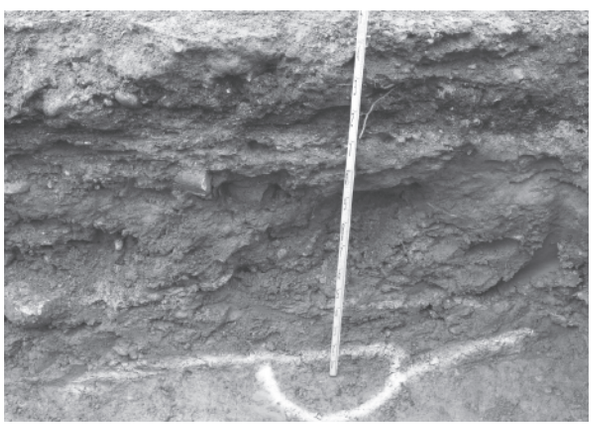
SK10 完掘 (東から)

SD11･SK12･ SD13･ SK14 ･SD15 ･SK16 完掘 (東から)

SD11 ･SK12･ SD13 ･SK14 ･SD15 ･SK16 検出 (東から)

SK17･SK18･SK19 完掘 (東から)

SK17･SK18･SK19 検出状況 (東から)



西壁断面断面(SK18付近) (東から)

SK19･SK20･SE21･SD22 完掘 (東から)

SD23･SP24 ･SD25検出 (南東から)

SD23 ･SP24･ SD25完掘 (東から)

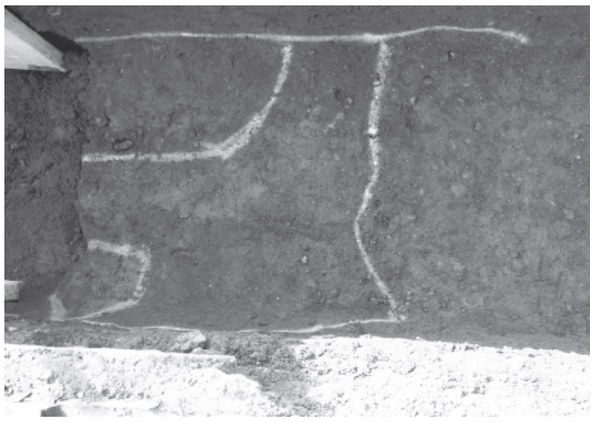
SD27 ・SK28・ SK29 ・SE30 完掘 (東から)

SD27 ・SK28・ SK29 ・SE30 検出 (東から)

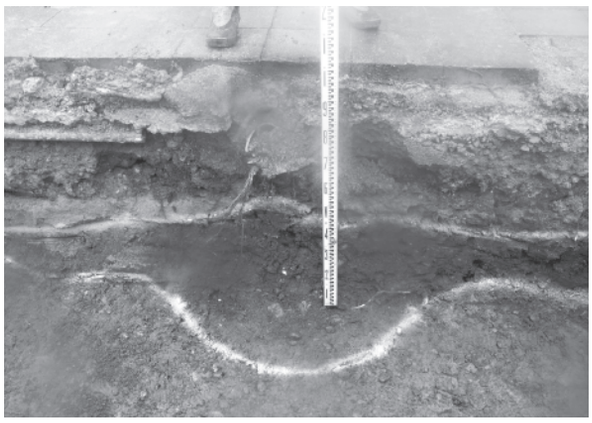
SK28 ・SE30 検出 (東から)

西壁断面(SE31付近) 断面 (北東から)

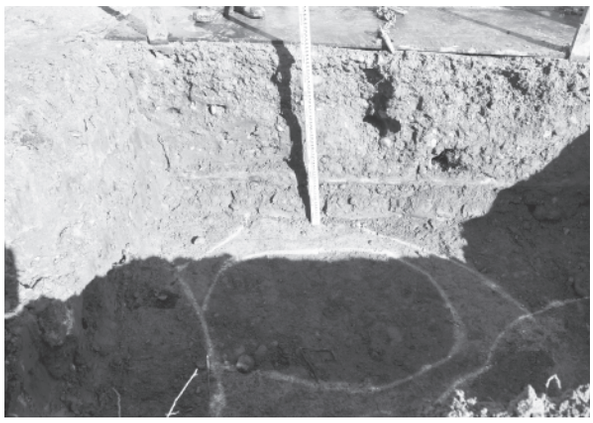
SE31・SK32・SK33・SD34 完掘 (東から)



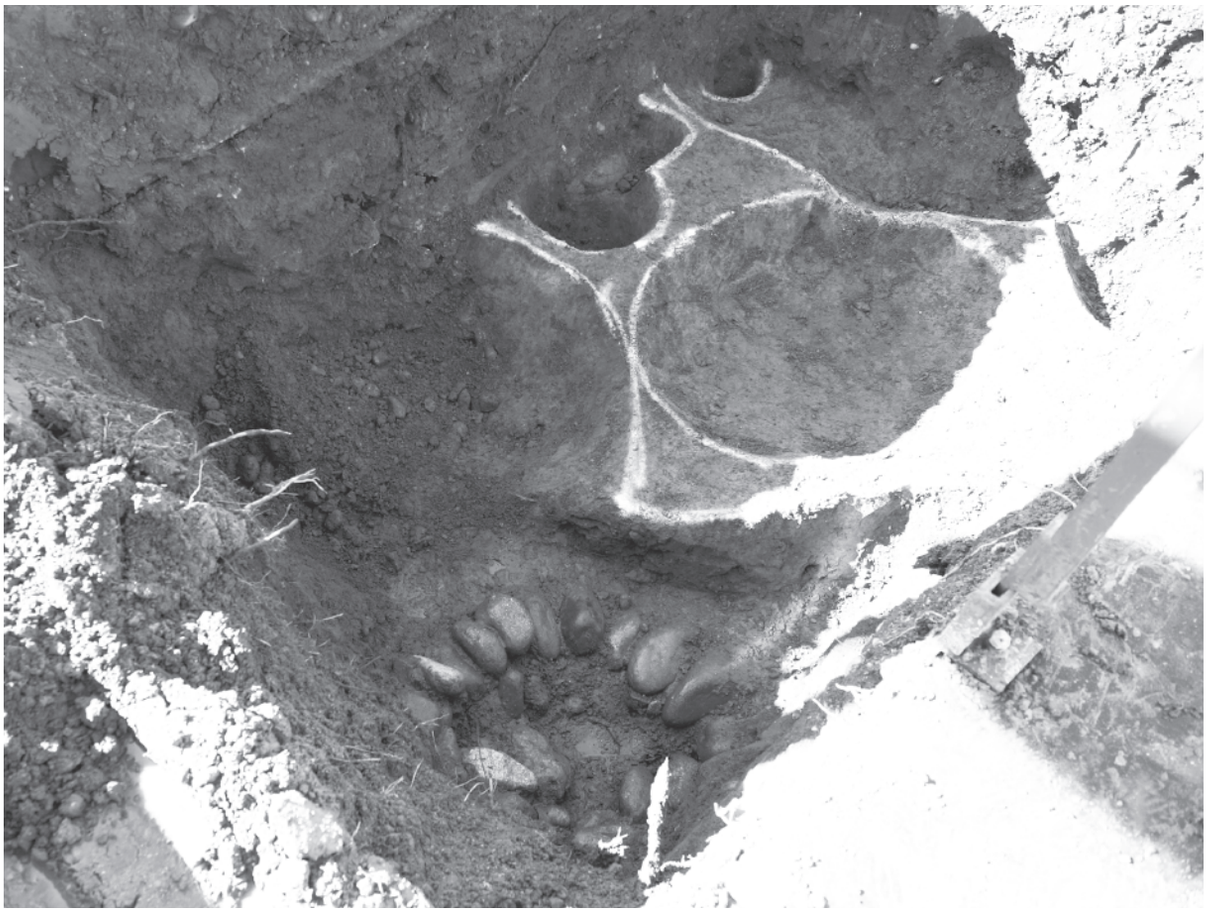
SE31・SK32・SK33・SD34 検出 (東から)



東壁断面(SK28付近)　(西から)



北壁断面(SE35付近)　(南から)



SE35・SK36・SK38・SK39・SK40・SK41・SK42 完掘 (北東から)

SE35 完掘 (北から)

SE35・SK36・SK38・SK39・SK40・SK41 検出 (西から)

SK43・SK44・SK45完掘 (南から)

SK43・SK44・SK45 検出 (南西から)

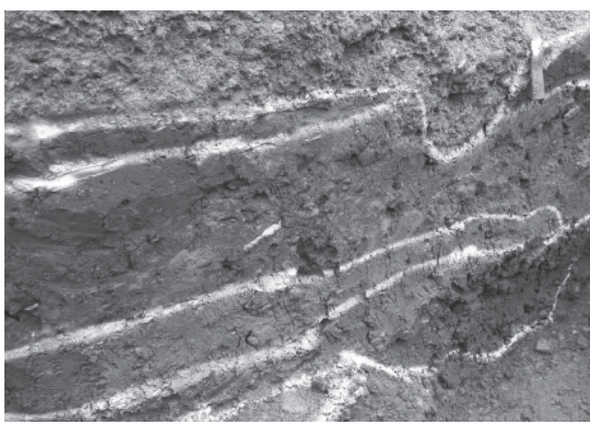
南壁(SD51付近)断面 (北から)

SK48･SK49･SD51完掘 (北西から)

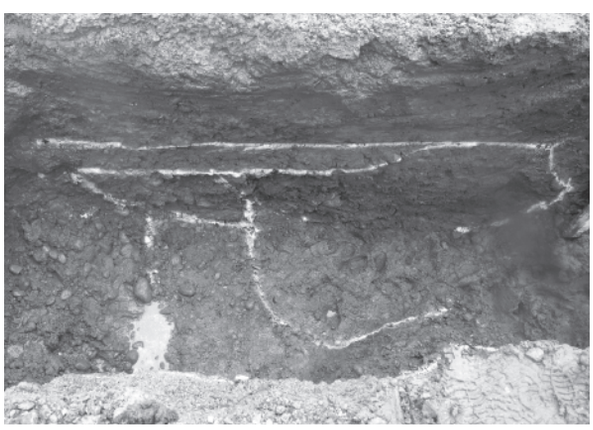
SK52･SK53･SK54完掘 (南から)

SK52･SK53･SK54検出 (東から)

SD56 検出(南西から)

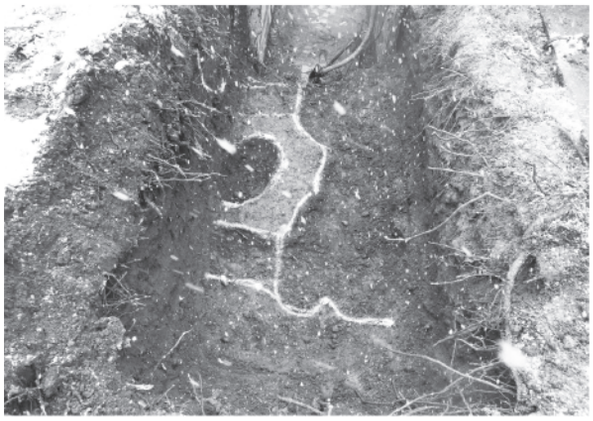


北壁(SD56付近)断面 (南西から)



SE55掘削状況 (北から)

作業風景



SK57・SK58・SK59完掘 (東から)

SK57・SK58・SK59検出 (南西から)

SX60完掘 (北西から)

SX60検出 (東から)

SK61・SK62・SD63完掘 (南から)

北壁(SK62付近)断面 (南から)

SD63・SD64・SK65・SK66・SK67完掘 (北から)

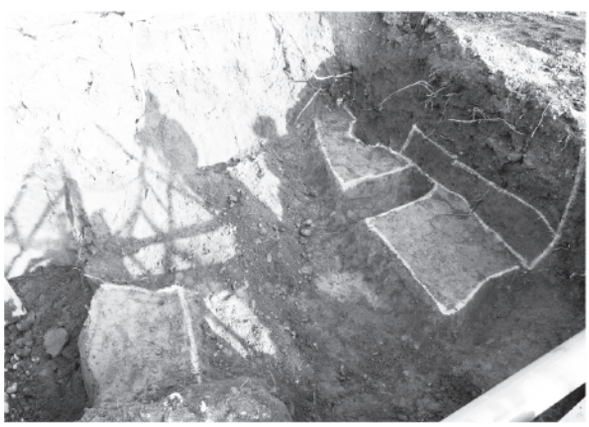
SD63・SD64・SK65・SK66・SK67検出 (北から)

SD68・SK69・SK70完掘 (北から)

SD68・SK69・SK70断面 (北から)

SK103・SK107完掘 (北から)

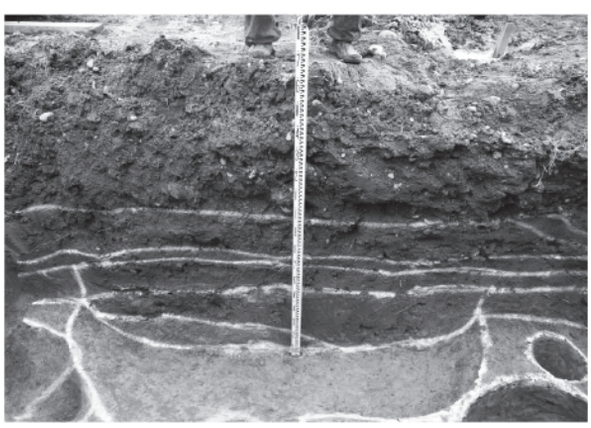
SK103・SK107検出 (北から)



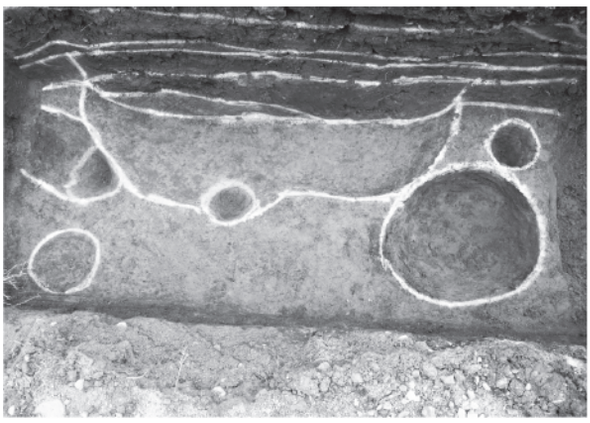
SD104・SD105完掘 (西から)

SD104・SD105検出 (北から)

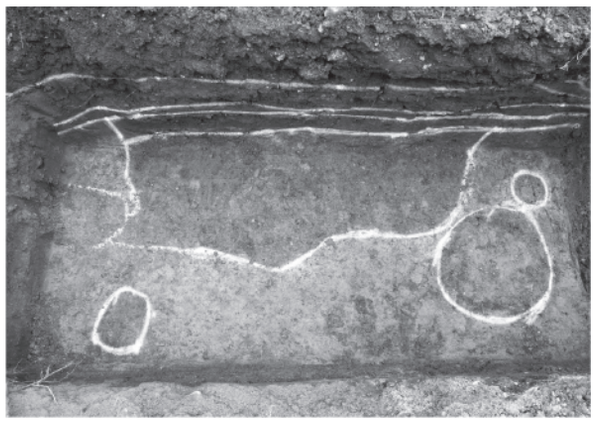
南壁断面(SD104付近) 北から



SK87断面(北から)



SK85・SK86・SK87・SK88・SK89 完掘 (北から)

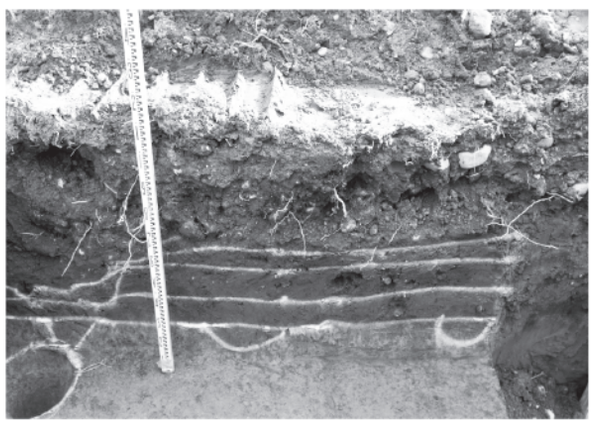


SK85・SK86・SK87・SK88・SK89 検出 (北から)

SK90・SK91・SK92・SD93・SK94 完掘 (北から)

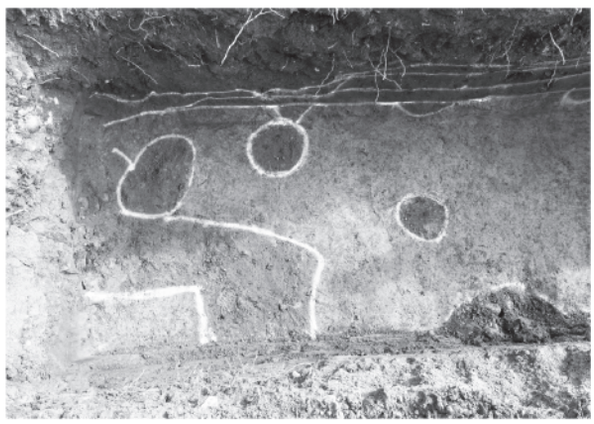
SK90・SK91・SK92・SD93・SK94検出 (北から)

北壁断面(SK91付近) (南から)



南壁断面(SK97付近) (北から)

SK95・SK96・SK97・SK98・SD99完掘 (南から)



SK95・SK96・SK97・SK98・SD99検出 (南から)

SK100・SD101・SK102・SK108完掘 (東から)

SK100・SD101・SK102・SK108検出 (東から)

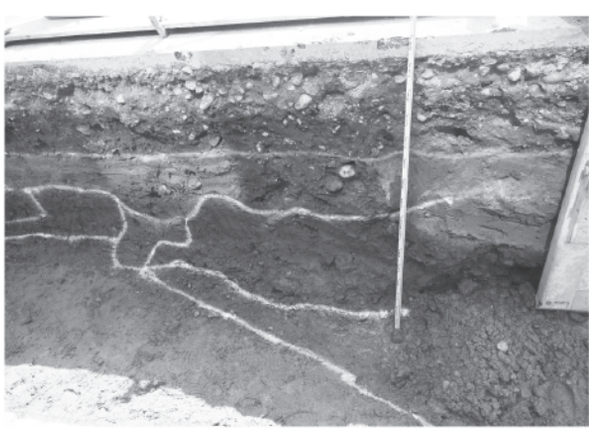
SP71検出・南壁断面 (北から)

SD72断面 (北東から)

SD72完掘 (北東から)

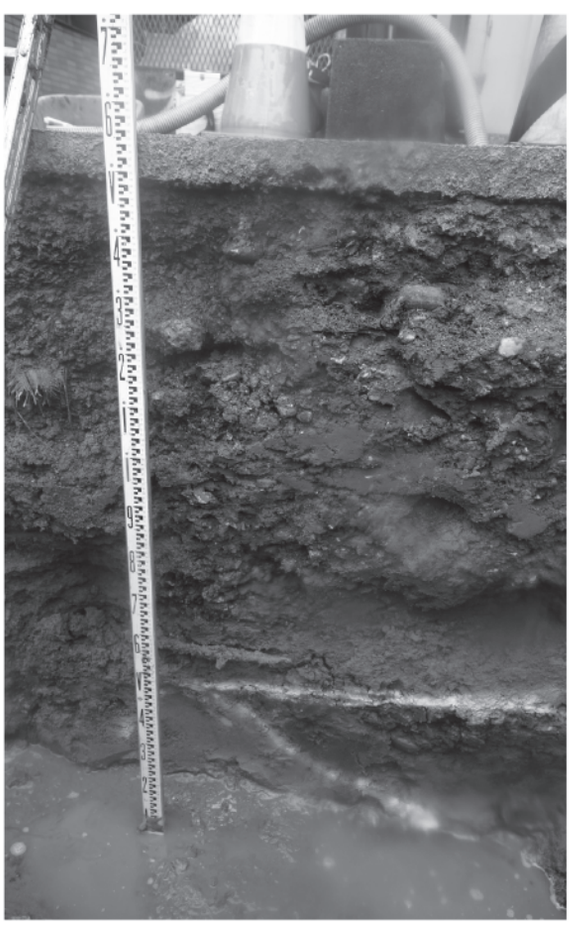
SD72検出 (北東から)

SD74完掘 (東から)



SD74断面 (北から)

SD74断面 (南から)



SD50北側肩部分 (西から)

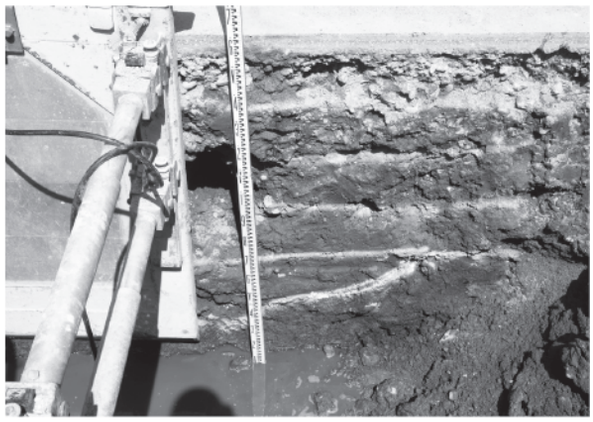
SD50検出 (南から)

SD50南側肩部分(西から)

北壁断面(SD74付近) (南から)

SD74検出 (北から)

SD75北東掘方・南壁断面 (北西から)

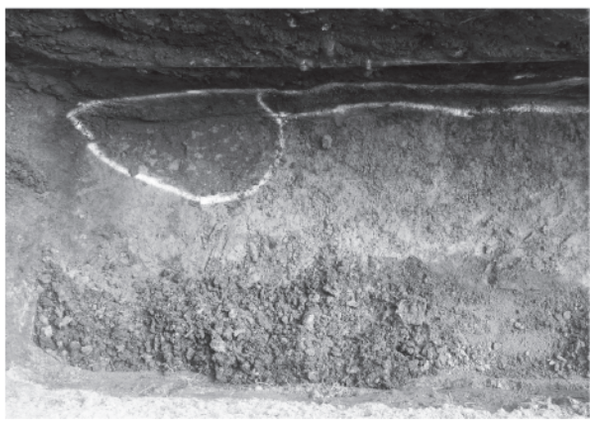


SD75北壁断面 (南から)

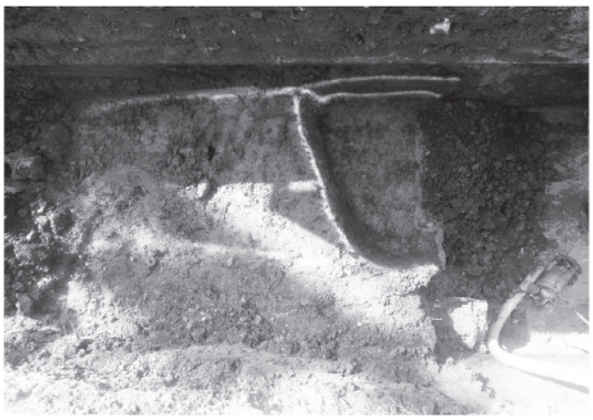
SK77完掘 (北から)

南壁断面(SK79付近) (北から)

SK79断面 (北から)

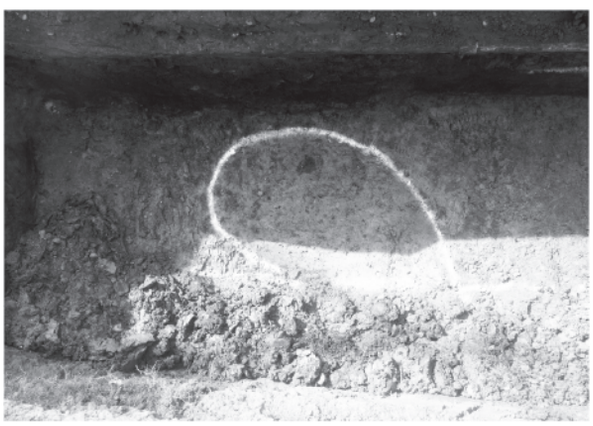


SK79検出 (北から)



SK80完掘 (北から)

SK80検出 (北から)

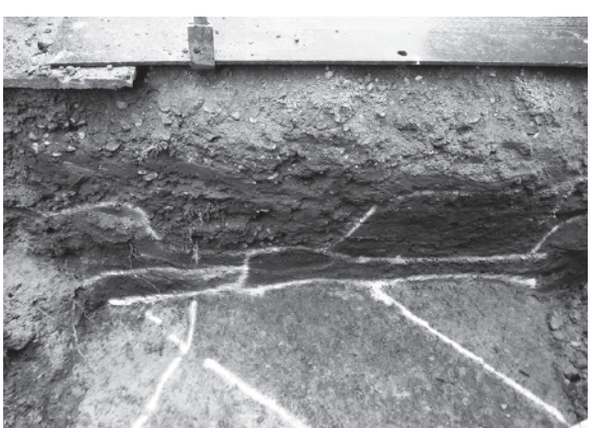


SK81完掘 (北から)

SK81検出 (北から)

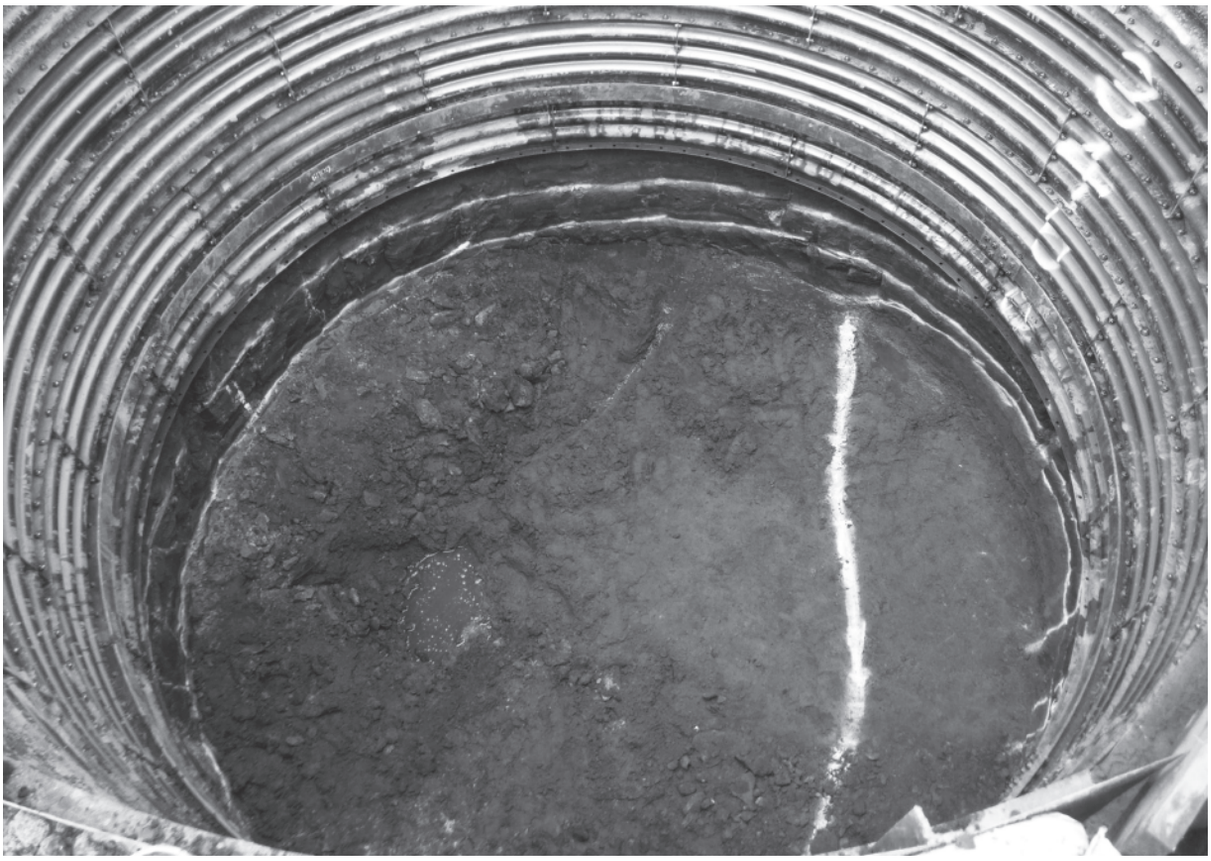
SE82上層遺構掘削 (北から)

SE82上層遺構下部 (北から)

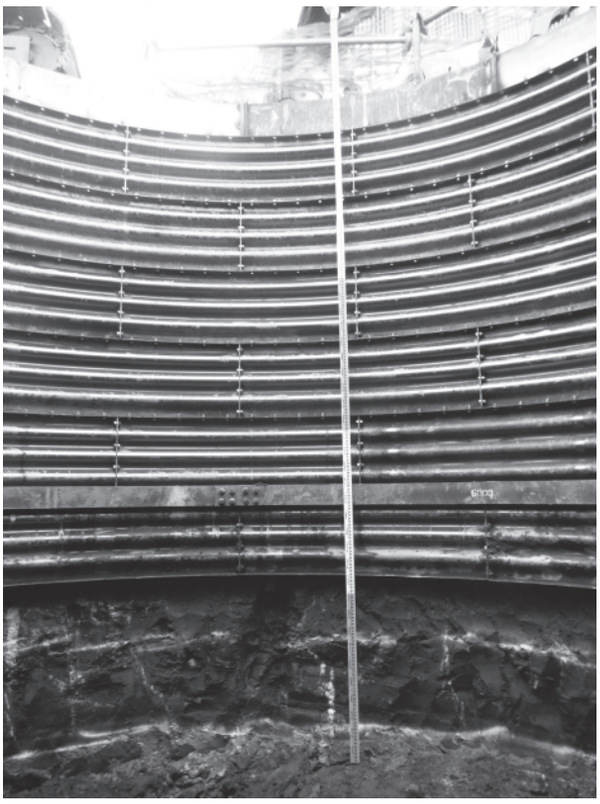


SD83断面(北から)

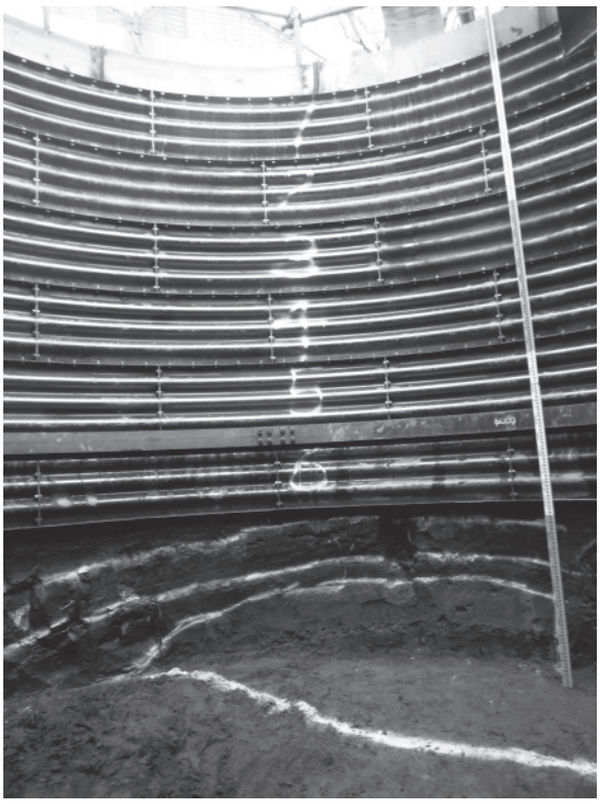
SD83検出(西から)



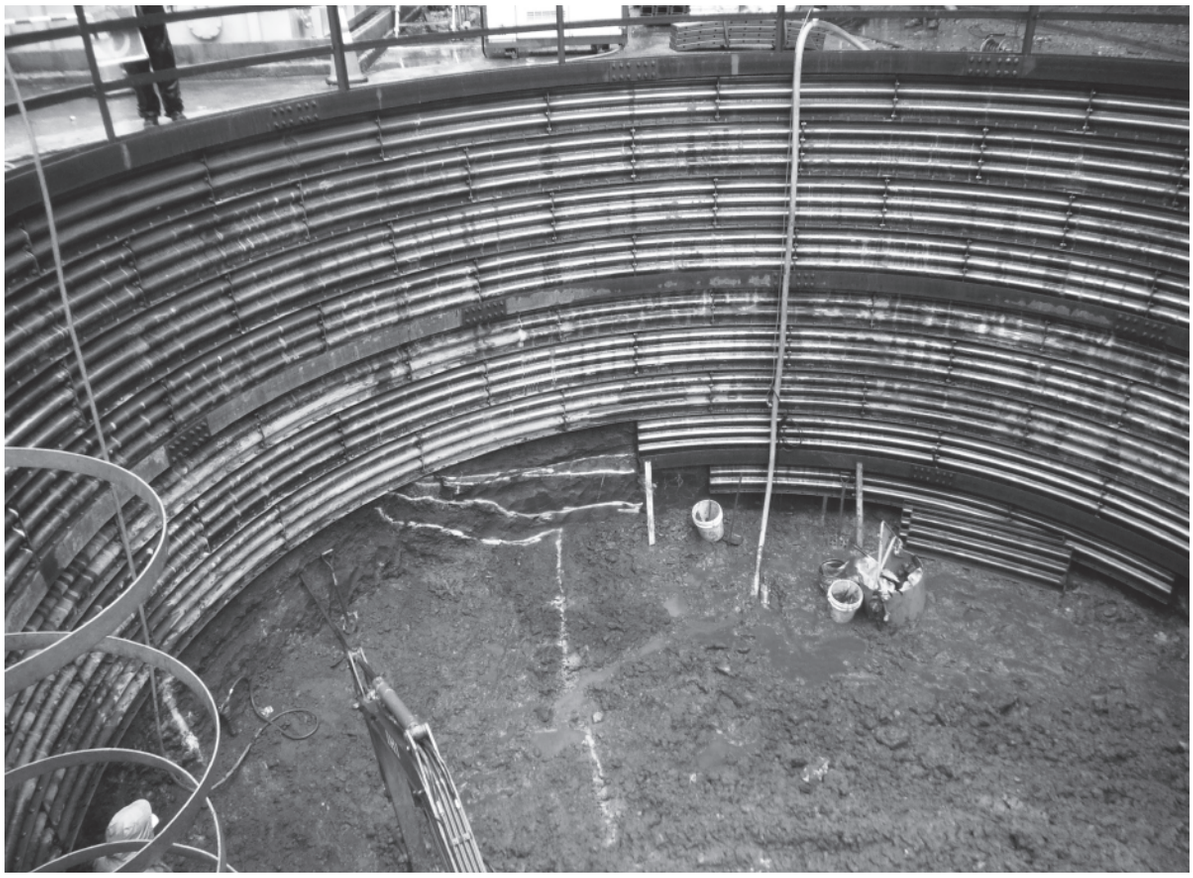
2016c調査区　完掘状況(西から)



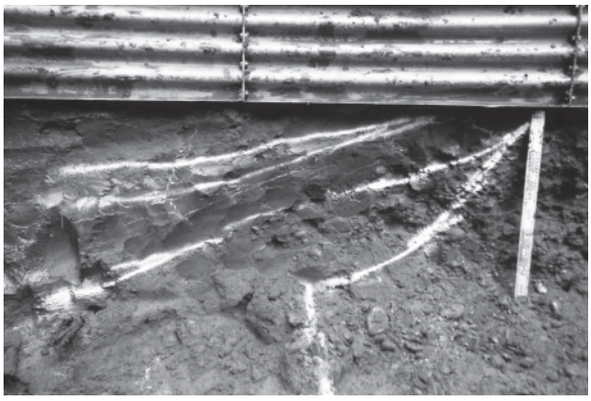
北壁断面



東壁断面



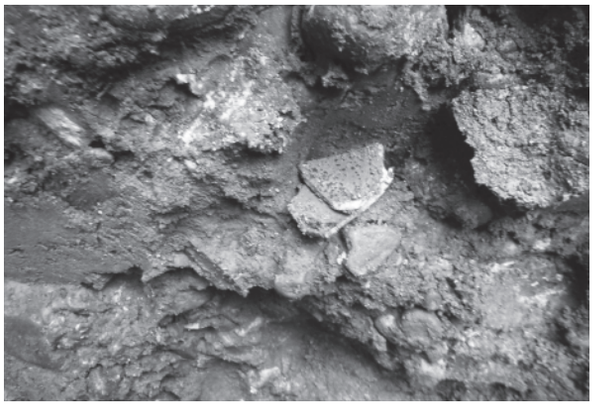
2017調査区　北堀肩部検出状況(西から)



西壁断面

東壁断面

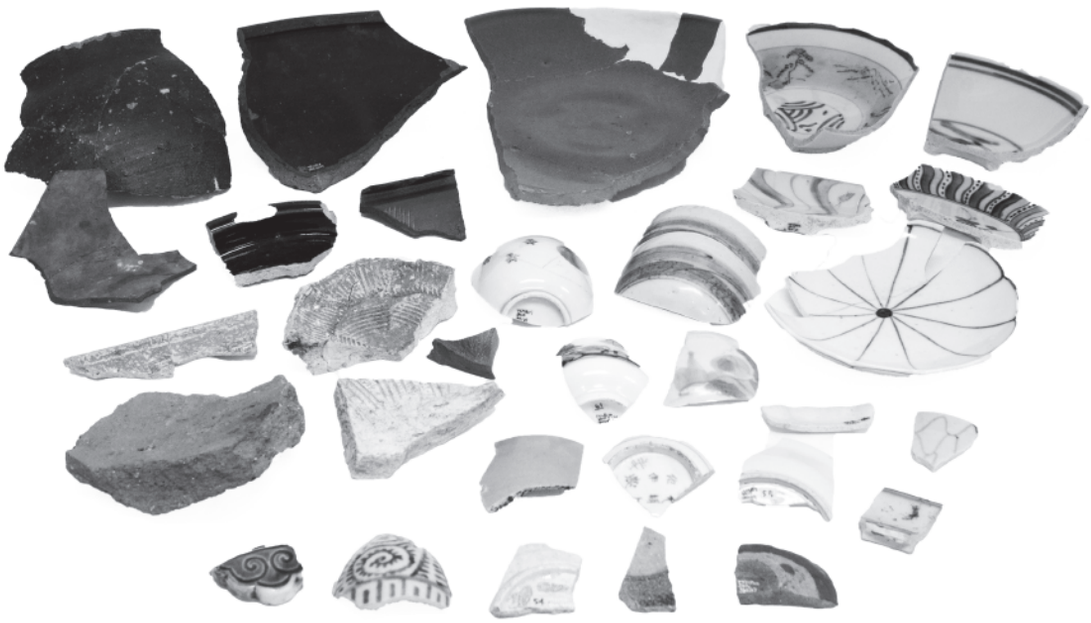
内堀堀底付近西壁断面



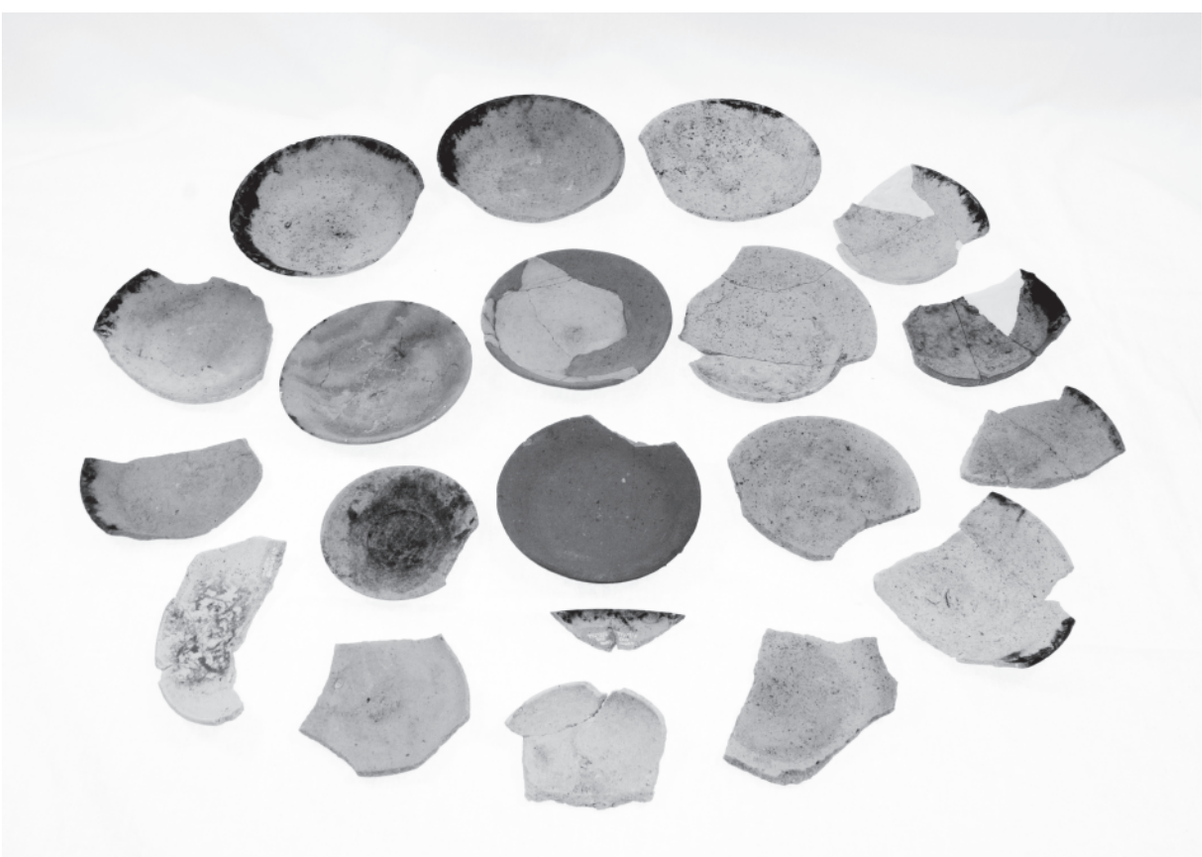
遺物出土状況

SK5出土遺物集合

SK9出土遺物集合

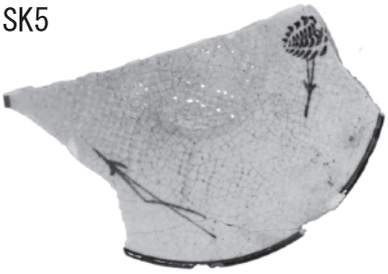


SK10出土遺物集合（土器陶磁器）

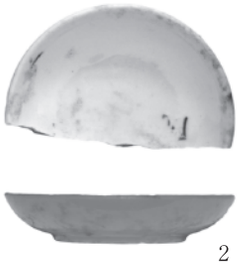


SK10出土遺物集合（越中瀬戸素焼皿）

SK5

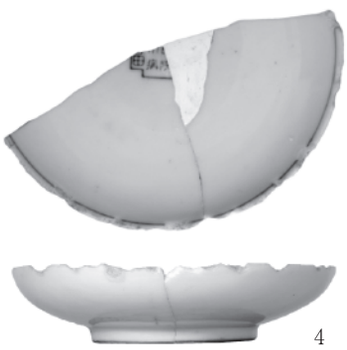


1



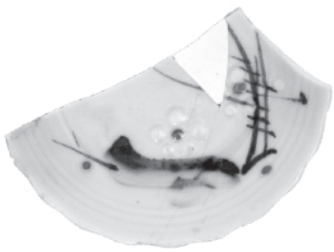
2

3



4

5

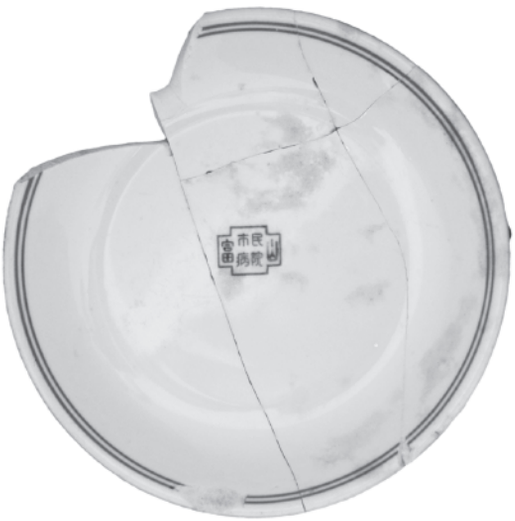


6

7

8

9



10

11

SK5

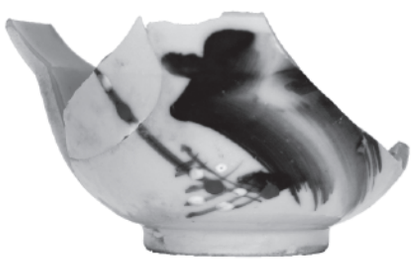
13

14

12

15

16



17

18

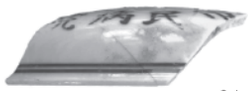
19

21

22

20

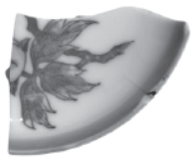
SK5

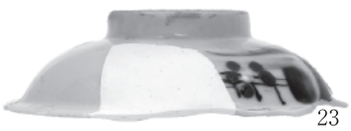


24

25

26





23

27

SD8

28

29

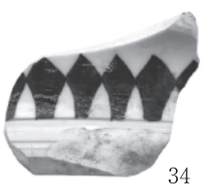
30

31

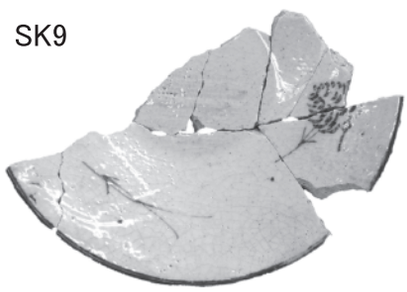
32

SK9

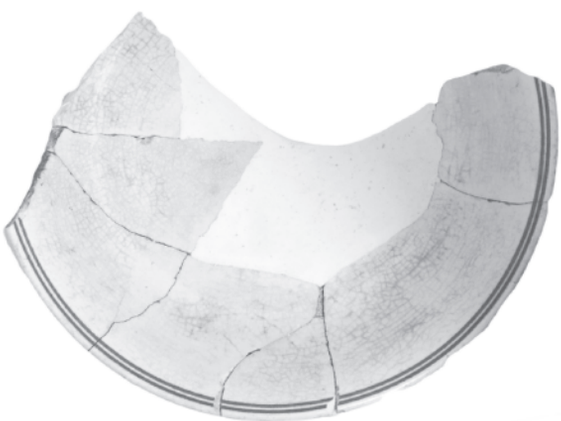
33



34



35

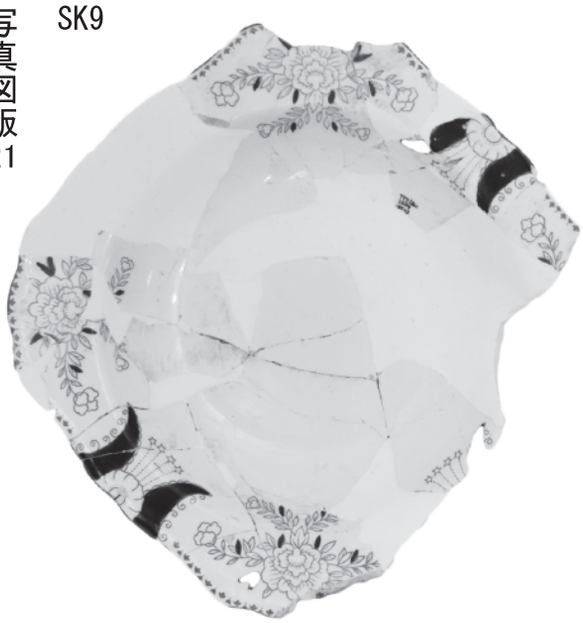


37

36

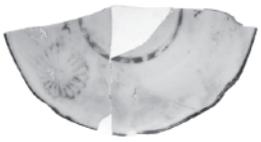
写真図版21

SK9



39

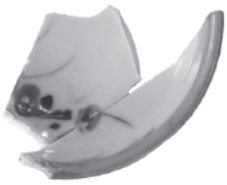
40

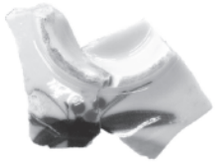


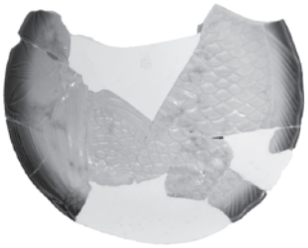
41

42

38







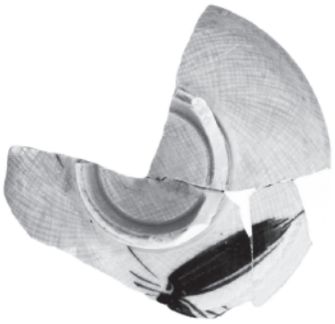
44

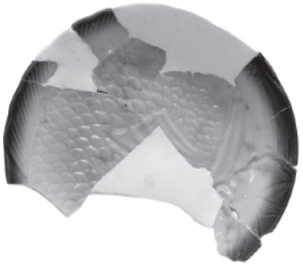
45

48

43

46





47

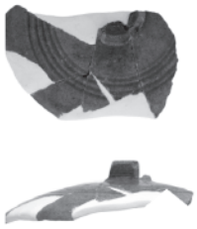
49

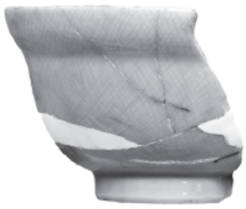
50

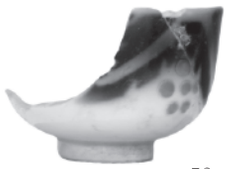
51

SK9

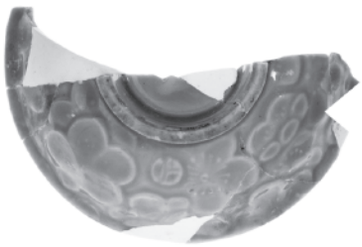
52


53


54

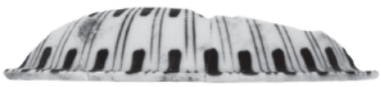

58

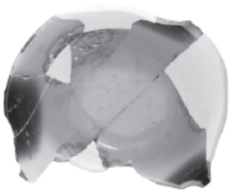
59

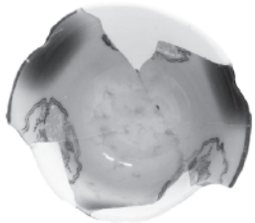


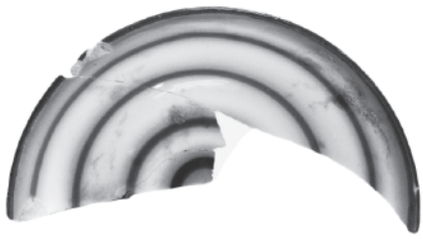
55

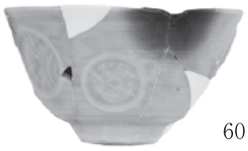
56


57





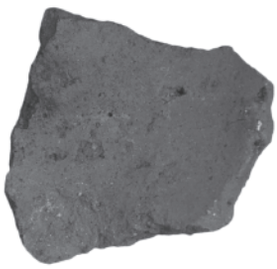


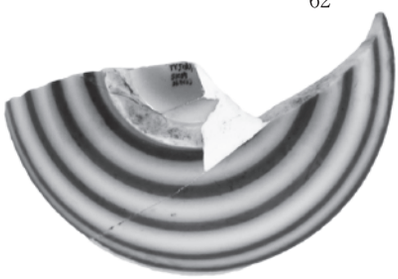

60

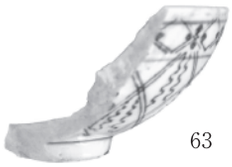
61

62

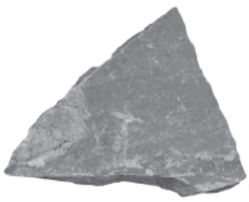
SK10

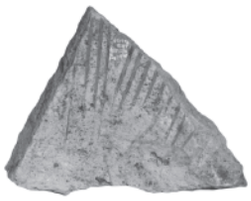





63

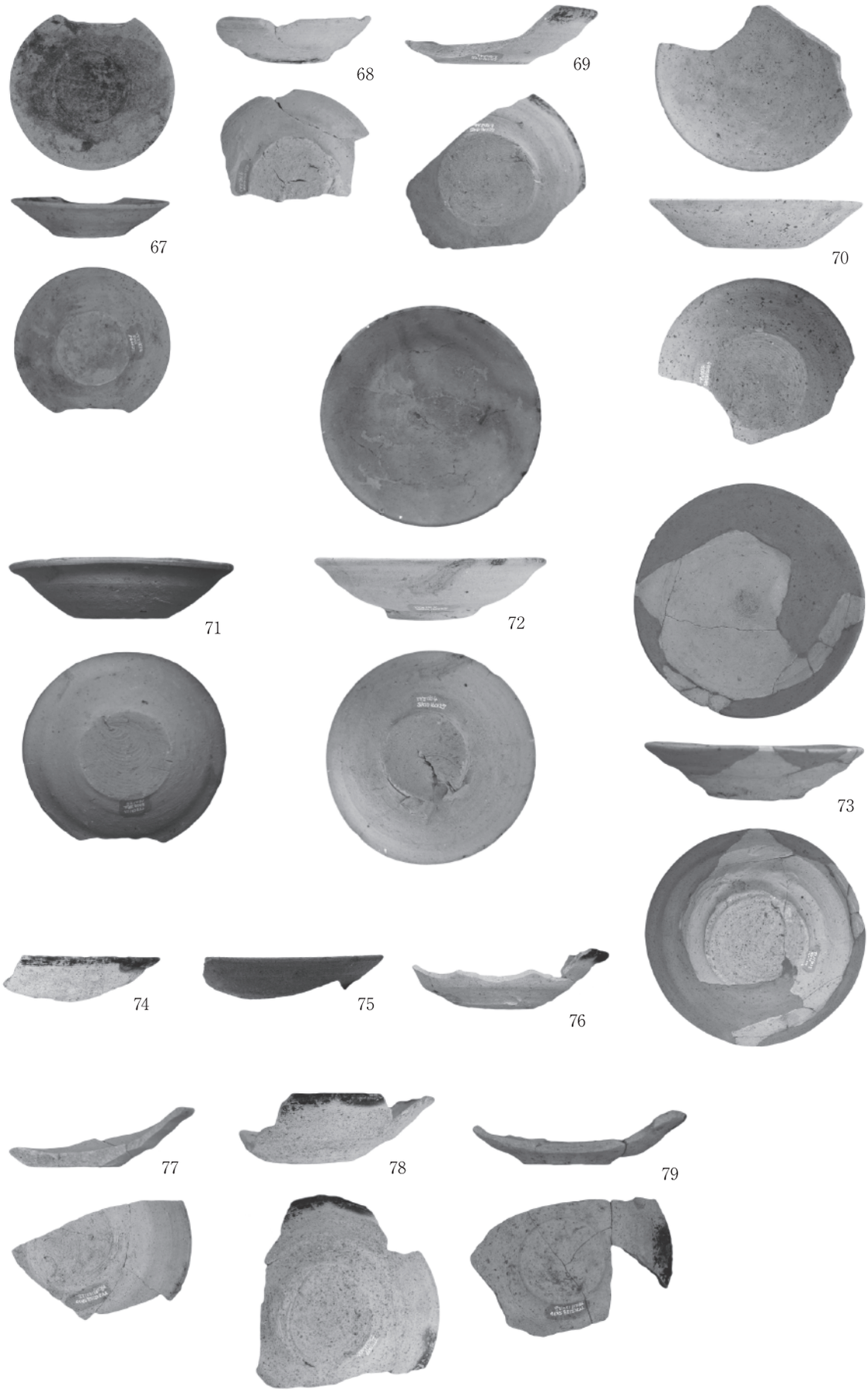
64


65

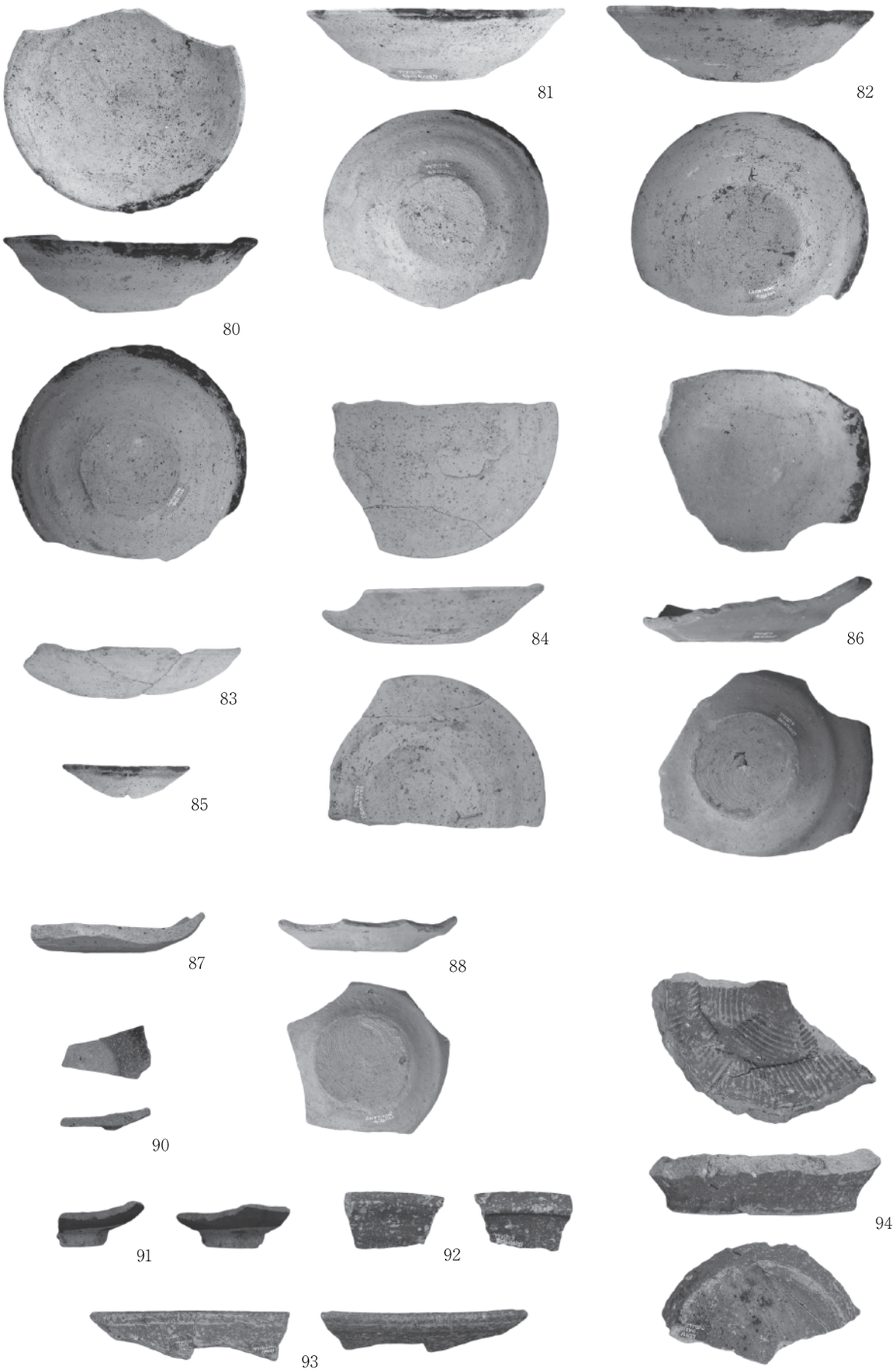


66

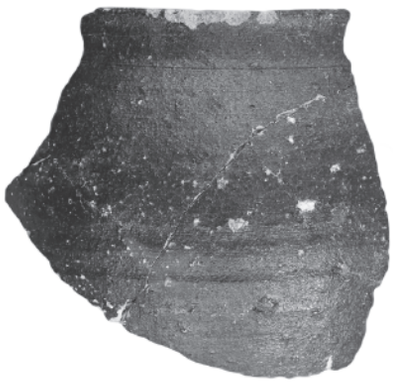
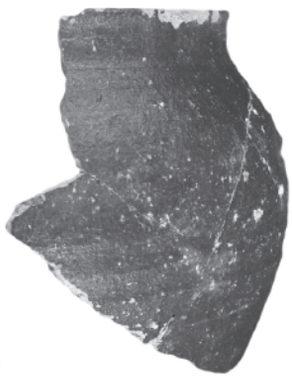
SK10

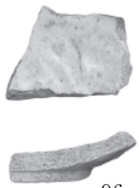


SK10

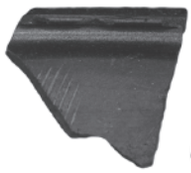


SK10

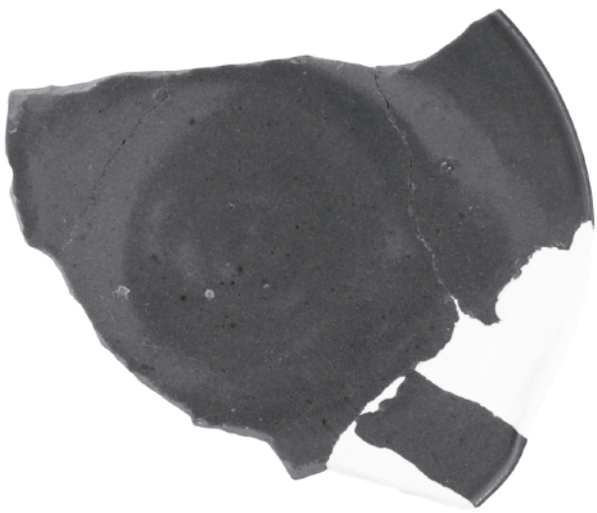


95


96

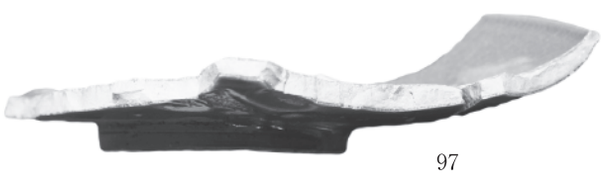
98

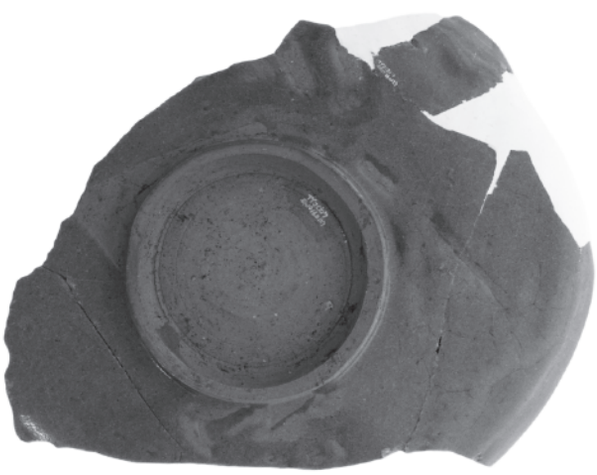


99

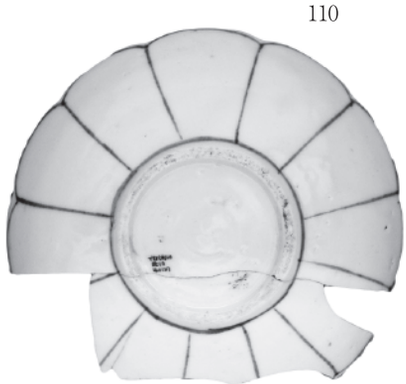


100

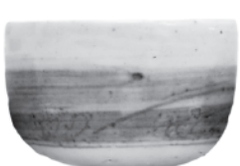

97



110



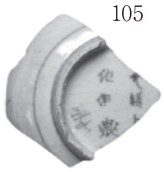
102


103

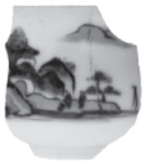
SK10

104

105

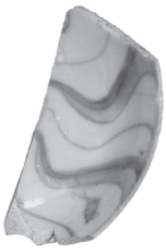


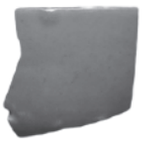
106



107

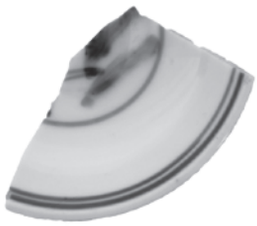
108

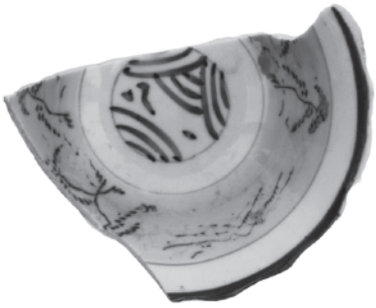

109

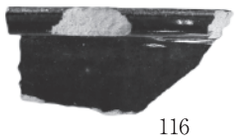

111

112

113

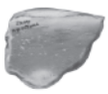

114



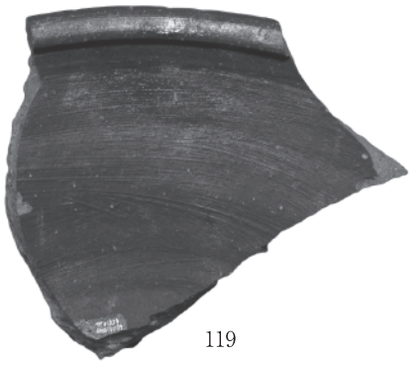

116

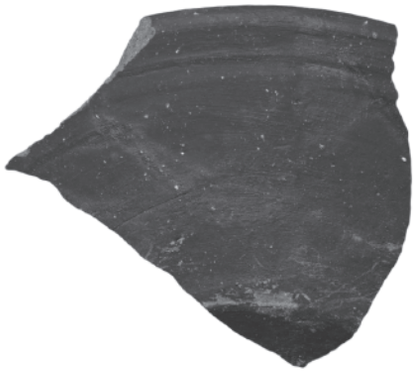
115

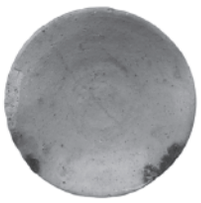
117



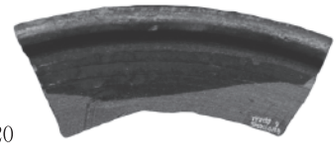
118


119





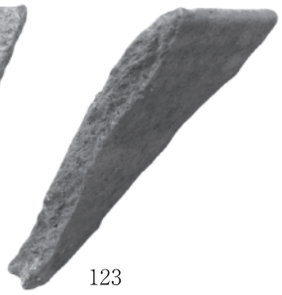
124

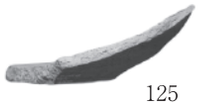

120

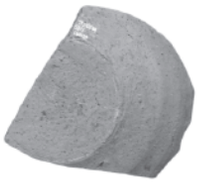
SD11

121

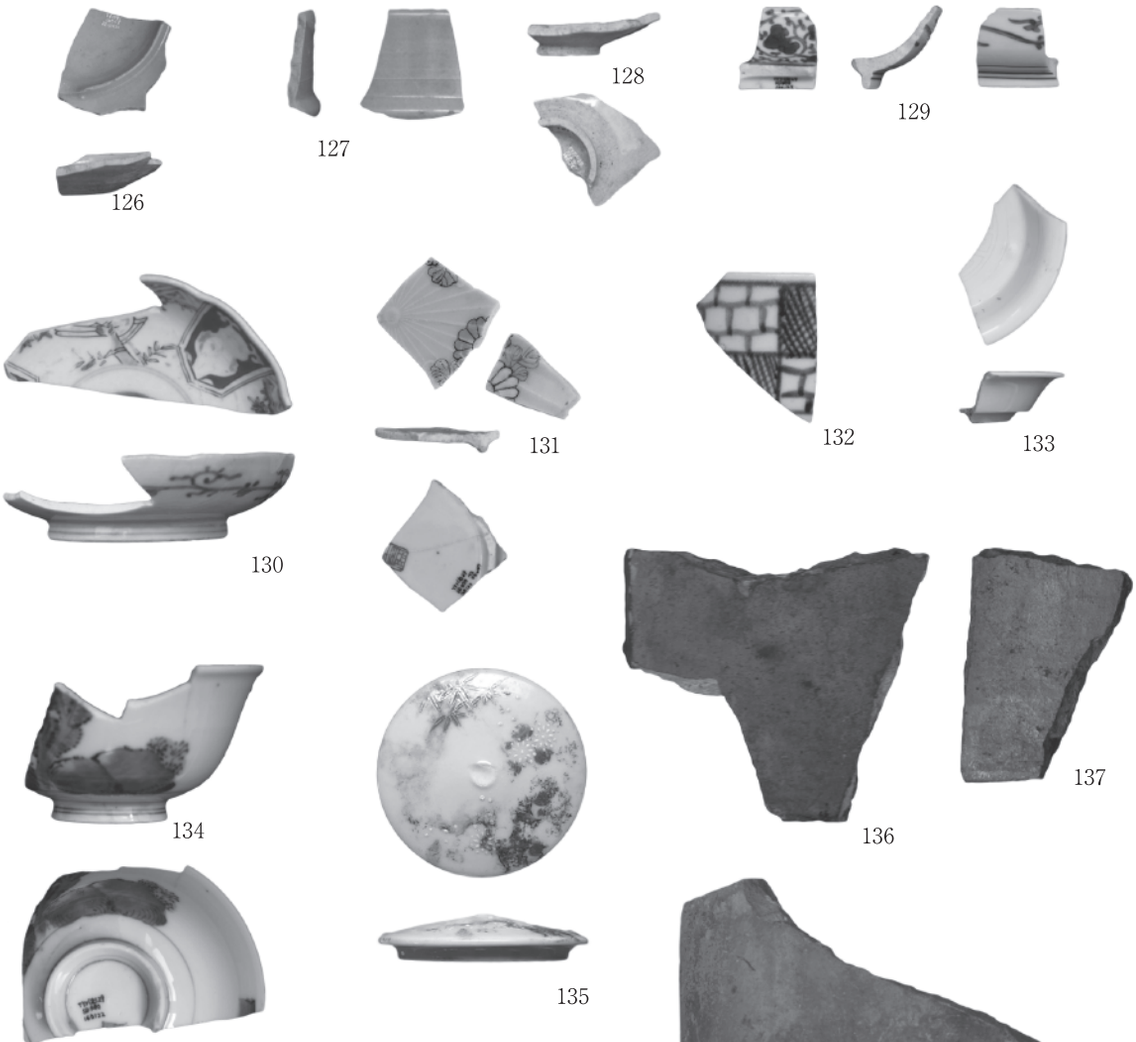
122


123

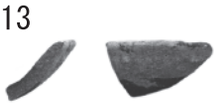

125



SD11

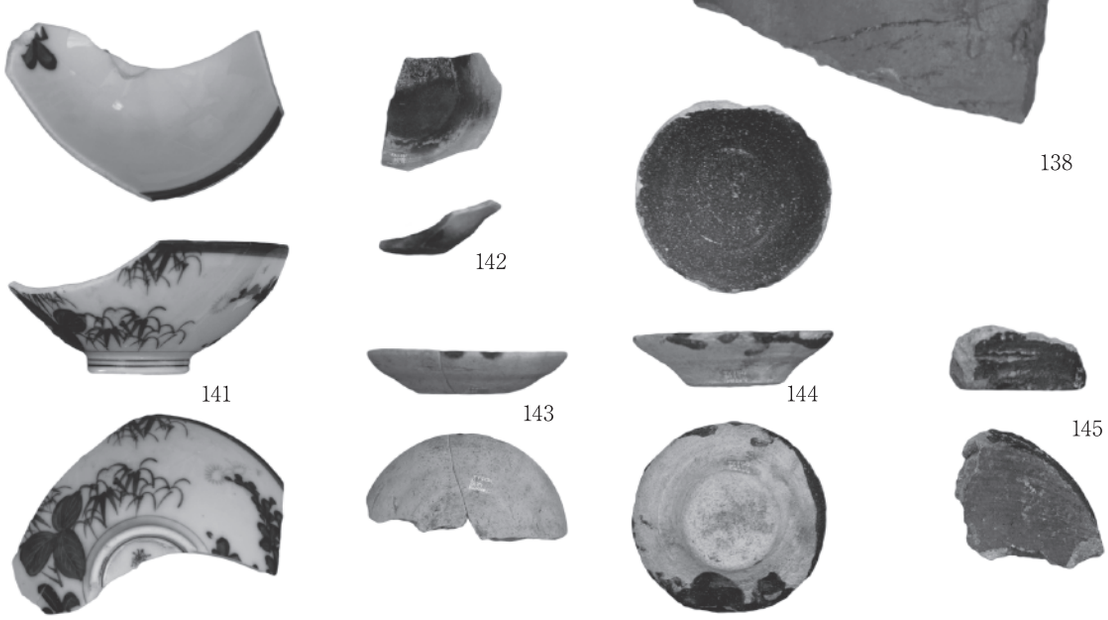


SD13

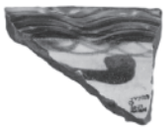


SD15

SD27



SD27

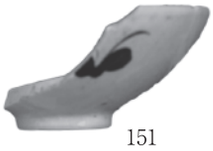


146

147

149

148

150

151

152

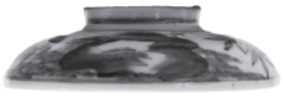
154

153

SK28

155

156


157

158

SE30

159

SE31

160

SK32

161

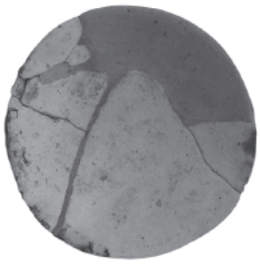
SD34

162

163

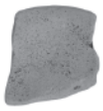
164

SK39

167


168

SK40



165

166

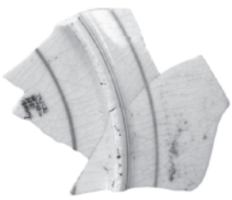
SD74・75

169

SD74・75

170

171



174

175

172

SE55

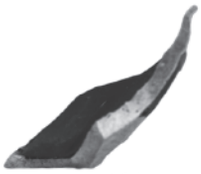
173

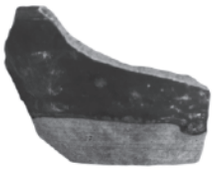
180

181

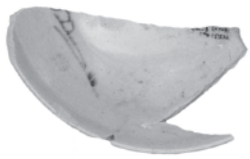
179

182

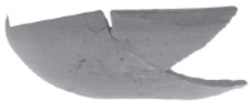

184



Ⅱ層・遺物包含層



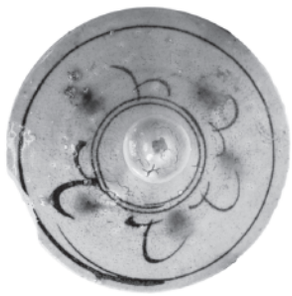
177

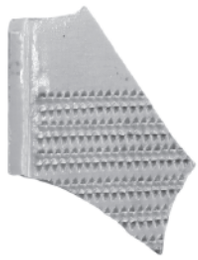

176

178

183

186





185

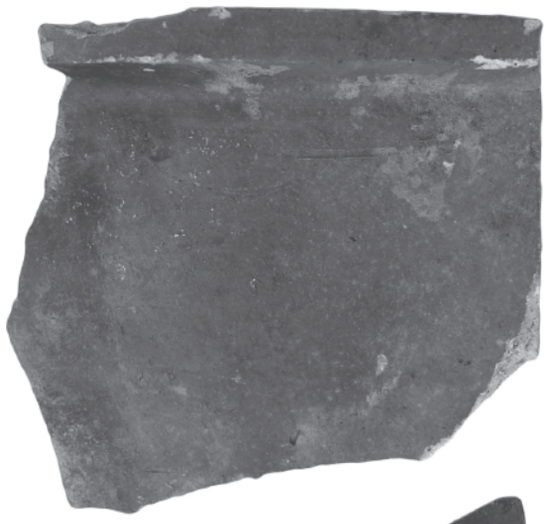
187

Ⅱ層・遺物包含層

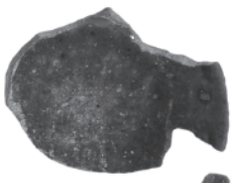
188

189

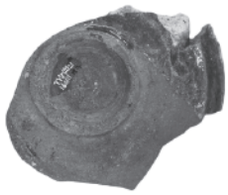
190

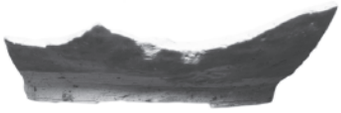


191

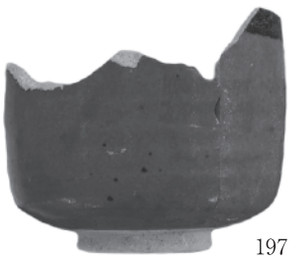


192




193

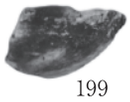
194

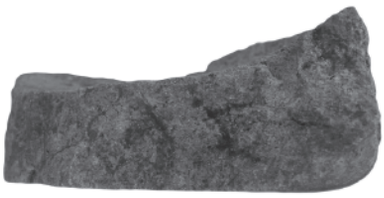

197

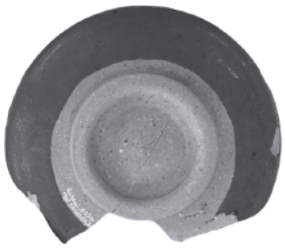
内堀

196

198


199


195



202

200

201

203

近隣調査区

204

211

206

205

212

207

208

209

210

213

214

215

216

217

218

219

220

報　告　書　抄　録

ふりがな	とやまじょうあとはっくつちょうさほうこくしょ
書名	富山城跡発掘調査報告書
副書名	富山公共下水道松川第二排水区下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	富山市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	95
編集者名	堀内 大介・鹿島 昌也・納屋内 高史・朝田 要・橋 日奈子
編集機関	北陸航測株式会社
所在地	〒933-0353　富山県高岡市麻生谷400　TEL0766-31-6033
発行機関	富山市教育委員会埋蔵文化財センター
所在地	〒939-2798　富山県富山市婦中町速星754　婦中行政サービスセンター本館3階　TEL076-465-2146
発行年月日	西暦2018年10月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
トヤマジョウセキ 富山城跡 (2015c調査区)	トヤマシ　ソウガワ 富山市総曲輪 ヨンチョウメ 四丁目	16201	2010442	36度 41分 31秒	137度 12分 39秒	20151207 ～ 20160531	382	公共下水道松川第二排水区総曲輪四丁目地区浸水対策工事
						20161108 ～ 20161110	6.6	
トヤマジョウセキ 富山城跡 (2016c調査区)	トヤマシ　マル　ウチ 富山市丸の内 イッチョウメ 一丁目					20170206 ～ 20170208	19.6	松川雨水貯留施設ポンプ室築造工事
トヤマジョウセキ 富山城跡 (2017調査区)	トヤマシ　ホンマル 富山市本丸					20170925 ～ 20170929	63.6	公共下水道松川第二排水区本丸地区七軒町雨水幹線築造工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
富山城跡 (2015c調査区)	集落	室町	溝、土坑	中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、越前、中国白磁	
	城館	戦国	溝、井戸、土坑	中世土師器、瀬戸美濃、越前	
	城館	江戸	堀、溝、井戸、土坑、整地層	近世土師器、瀬戸美濃、京・信楽、肥前陶磁器（唐津・伊万里）、越中瀬戸、石製品（硯・砥石・石皿）、石造物（板碑、五輪塔）	近世富山城関連の堀等の遺構を検出
	集落	近代	石組水路、土坑	近代陶磁器	旧石組水路の検出、旧富山市民病院関連の遺物が一括出土
富山城跡 (2016c調査区)	城館	近世	堀		富山城西ノ丸北側内堀の堀底を確認
		古代		須恵器、土師器	
富山城跡 (2017調査区)	城館	中世	堀	中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、空風輪	
		近世	堀	近世土師器、越中瀬戸、燻し瓦	

要約	【2015c 調査区】 2015c 調査区は、近世富山藩の外堀から重臣屋敷のあった富山城三ノ丸南西部の調査で、2014 ～ 2016 年に実施したレガートスクエア整備に伴う調査（第 1 ～ 3 期）の東・北側外周部分に位置する。調査の結果、東側の調査区では、第 1 期で検出した近代石組水路・近世堀の延長部分、第 2 期で検出した大型廃棄土坑の延長部分等を確認するとともに、近隣に位置した旧富山市民病院の陶磁器を多量に廃棄した土坑 SK5・SK9 を検出した。遺物は近世の越中瀬戸・肥前系陶磁器等、近代の病院関連の陶磁器類を主体とする。北側の調査区では、中央から東側で石組井戸や溝等を検出し、第 2 期調査 3 区で検出した室町時代の遺構が北側に拡がっていたことを確認した。中央では、中世荘園「富山郷」の遺構と考えられる N－10 ～ 12° －E を主軸とする条里施地割の区画溝を検出した。西側では、第 2・3 期 4 区の北端で確認した 16 世紀後半～ 17 世紀初頭の堀、17 世紀前半～後半の区画溝、17 世紀後半～ 18 世紀前半の整地痕跡の延長部分と考えられる遺構を検出した。 土坑 SK5・SK9 で出土した病院銘陶磁器については、昭和 21 年に現・市民プラザの場所に開設した旧富山市民病院で使用された食器類であることが判明した。出土した丼の分類から SK9 がやや古いことを推測した。また、近隣の発掘調査では、明治期に同所に所在した富山病院や日本赤十字社富山支部病院で使用された陶器瓶やガラス瓶類も出土し、西洋式近代病院システムが導入された初期の病院の変遷や実態を示す貴重な資料である。さらに土坑から出土した富山市民病院銘陶磁器と合わせて、近代から現代への移行期の病院史を物語る貴重な資料が得られた。 【2016c・2017 調査区】 2016c・2017 調査区は、旧富山市立図書館南～南西側に位置する。今回の調査では富山城西ノ丸北側の内堀底を確認した。断面観察の結果、内堀は 3 期に区分できる。3 期堀が戦前まで開口していた堀で、寛文期の改修時に浚渫された富山城の内堀であると推測した。2 期堀がそれ以前の慶長期に整備された富山城の内堀で、1 期堀が天正 13(1585) 年に破却された中世富山城の堀である可能性が高いと考えられる。

富山県埋蔵文化財調査報告 95

富山城跡発掘調査報告書

- 富山公共下水道松川第二排水区下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

発行日　2018 (平成30) 年10月31日

編　集　北陸航測株式会社

発　行　富山市教育委員会　埋蔵文化財センター

〒939-2798　富山県富山市婦中町速星754番地

婦中行政サービスセンター本館3階

TEL076-465-2146　FAX076-465-5032

印　刷　株式会社トーザワ

正誤表

ページ	誤	正
例言５	史料館	資料館
目次第3章	2016年度	2015年度
目次第5章第4節	2016c	2015c
8：1行目	2016年度	2015年度
25：17行目	古	（削除）
45：1行目	遺物観察表２	遺物観察表
64：1行目	2016c	2015c
64：４行目	2016年度	2015年度